昭和三十四年一月
河北町誌編纂資料編　第三十輯

堀米四郎兵衛文書

河北町誌編纂委員会

堀米四郎兵衛文書

堀米四郎矢衛文書目次

第一部　堀米四郎矢衛文書……1

第二部　仝（願書留）……42

第三部　仝……138

第四部　仝（御仕置五人組帳并約定）……190

上　御仕置五人組帳并約定（第四部）
下　願　書　留（第二部）

第一部

まえがき

この文書は河北町谷地沢畑部落の旧家堀米四郎兵衛氏の遺族が保存している天保七年（前の徳川家斉時代）から慶応四年（九代目の九月に明治と改元）まで三十一年間にわたって名主役としての堀米四郎兵衛から柴橋役所の代官宛に差出した文書の控等二十通を筆写したものである。

○

文書の一覧表で見るように、その序列を年代順にし干支によるものはそれとならべて（　　）内に年号を、又その下欄には紀元年数をも書き添えたのは利用に便にする為である。

○

この文書は逸見委員が筆写したものであって、本文中誤字、脱字、あて字等あるのもそのままにしたのは原文の姿を残す為でこの干支にも頭注で年号を附記することにした。（文責　堀口）

昭和三十四年一月

河北町誌編纂委員会

堀米四郎兵衛文書一覧

順位	頁	年月日	紀元	宛先	差出人	内容等
一	4	申九月（天保七年）	一八三六	柴橋役所	八之助 堀米四郎兵工	陣屋修覆関係
二	5	〃	〃	〃	〃	幸生銅山関係
三	6	亥七月（天保十年）	一八三九	〃	〃	来馬飼立関係
四	7	〃九月	〃	〃	惣内外九名	農兵関係
五	8	〃九月七日	〃	〃	堀米四郎兵工	兵具預り関係
六	9	寅三月廿日（天保十三年）	一八四二	〃	〃	施米関係
七	10	〃八月	〃		市郎兵工外一名	四郎兵工奇特の事（柴橋役所宛カ）
八	12	〃九月廿五日	〃	柴橋役所	堀米四郎兵工	御入用金請書
九	13	丑（嘉永六年）	一八五三			冥加金献上納覚
一〇	19	〃十月	〃	柴橋役所	四郎兵工	上ヶ金救米上納関係

一一	20	寅二月九日（安政元年）	一八五四	柴橋役所	四郎兵工	上納金関係
一二	20	〃四月九日	〃	〃	〃	石炭穿鑿関係
一三	21	嘉永七年寅四月	〃	〃	〃	村民救済関係
一四	22	〃八月	〃	〃	四郎兵工外二名	御預金預証文
一五	25	卯十一月（安政二年）	一八五五	〃	堀米四郎兵工	貸借に関する願上書
一六	27	安政三辰年十月	一八五六	〃	〃	献納米上納願上書
一七	30	万延元申年九月十八日	一八六〇	〃	辰文助外十四名	幸生銅山に関する請書
一八	33	慶応元年十月	一八六五		斉藤勝平外一名	役上より御尋に付き書上書
一九	34	慶応四辰年十月	一八六八	柴橋役所	堀米直蔵外九名	四郎兵工父子に関する歎願書並に口上書
二〇	37			民政方御預所	久五郎外五名	四郎兵工父子に関する歎願書（日附は内容から考察するに前項同様慶応四年十月頃ならんか）

一

乍恐以書付奉願上ゟ

当御陣屋表御門年暦相立ゟに付之柱其外扉等に至迄虫喰腐等も相見及大破殊に当六月十日夜大風雨にて悉く損しゟ間修覆等も仕ゟへ共余程根元多く弱く相成ゟニ付此上大風大雪等有之ゟは、保方無覚束ゟ間之柱の根継其外虫喰等の有之諸材木取替修覆仕度奉存ゟ間右の段御聞届被下置ゟは、私共引請修覆可仕奚然上は郡中に不拘普請取掛リ可申ゟ間何卒御聞済ヒ成度奉願上ゟ依之此段以書付奉願上ゟ　以上

当支配所米沢村
入之助
松橋村
堀米四郎兵衛

申九月
柴橋御役所

申
天保七年
（一八三六年）

午年
天保五年
（一八三四年）

申年
天保七年
（一八三六年）

未年
文政六年
（一八二三年）

一、

乍恐以書付奉願上ゟ

当御支配松橋村名主堀米四郎兵衛米沢村百姓八之助奉申上ゟ幸生銅山近来打続不盛にて山中一同困窮ゟ罷在諸上納等も差支ゟ程の義に付去ル午年既ゟ休山にも可上仰之趣承知仕り御時節柄御必用且乍聊も御國益を失ひゟ義歎敷奉存同年九月中右銅山請負人共後見仕出銅相進ゟ様取計申度奉願上丶処御聞届ヒ成下置午九月より当申九月迄中三ヶ年の間後見仕り諸上納物は勿論山中諸入用の処無差支出銅相進ゟ様可ヒ取計旨ヒ仰付奉畏ゟ其節より私共存分の仕入仕り代の者両人定詰為仕ゟ外両人月々登山仕り格別出精為仕ゟへ共素々数年不成績の義ゟて見込ヒは存外相違仕不少入用相懸ゟても出銅少分に付弥出精仕既ゟ去申年見込通り三百五十箇上納仕ゟへ共諸入用ゟ見競ゟては出銅三分ヶ一出来不申私共手元案外の間損にて中々相続難出来何様にも行届兼ゟ間去未十月中より当申三月ゟ至り後見御免ヒ仰付ゟ様度々奉願上ゟへ共御厳重御利解の上仮会不容易間損出来ゟとも冥加の為め可相勤旨厚ヒ仰諭深奉恐入難黙止所々新に見立ゟ上坪花坑木高樋等夫々普請仕り出精相勤罷仕之内六月十日近来稀成大風雨洪水にて出銅多分流失歎々は勿論居小屋其外道橋等ゟ至る迄皆大破に相成普請修覆大造の儀ゟ御座ゟ間早速御届奉申上ゟ処御出役御検分の上歎々水押入破損相成ゟ場所并道筋変地相成ゟ分は勿論大橋十三ヶ所其外共急普請不仕ゟては人馬通路の差支山中稼方難出来俄ゟ取懸り多分の入用にも無頓着晝夜心配仕り漸くの義にて先々働方出来ゟ様相成り聊安心仕ゟへ共右の次第ゟ付出銅存外相劣買金猶更相嵩み殆ヒ当惑仕実ゟ私共百姓相続にも相拘りゟ程の義に

に付当九月年季明の義にも御座い向何卒格別の御仁恵を以て後見此迚にて御免ヒ仰付い様仕度尤請負人白岩村吉十郎外三人にも相断り此段奉願上い　以上

申九月

幸生銅山
請負人後見
米沢村百姓
八之助
右同断
松橋村名主
堀米四郎兵衛

林　伊太郎様
柴橋御役所

甲年
天保七年
（一八三七年）

三、

乍恐以書付奉申上ゝ

当御支配所松橋村名主堀米四郎兵衛米沢村八之助両人奉申上ゝ今般当郡中御取締并非常の節御守衛向等夫々御備被為在ゝ趣承知仕誠以て難有仕合一同平安に治まり銘々業躰相勵安住仕ゝ様可相成右に付聊にいへ共御奉公相勤度奉存いへ共兼て覚悟の義も無御座甚恐入いへ共前段取締被仰出ゝ上は何時何様の義出来急速御出役御馳付ヒ遊義も可有御座いへ共御歩行にては遠方悪路時刻相延自然大変にも可相成哉右様の節は御馬にて御出張御差図御座いは、御手廻り宜敷速に御取鎮め御出来の義と奉存、就ては乗馬二疋私共飼立置御陣内備に仕度飼料其外都て私共引受取賄御賞不相成様可仕奉存ゝ向右ゝ段御聞済被仰付ゝは、難有仕合奉存ゝ

依之此段以書付奉申上い　以上

亥七月

亥
天保十年
（一八三九年）

米沢村　八之助
松橋村名主　堀米四郎兵衛

柴橋御役所

四、差上申一札之事

今般農兵御取立に仰出右頭取私共江ヒ仰付ハ間申合人数組立方調練其外の義見込の趣申上御差図を受け実備相立ハ様粉骨可仕旨ヒ仰渡一同承知奉畏ハ依之御請証文差上申処如件

亥
天保十年
（一八三九年）

亥九月七日

当御支配所
村山郡延沢村
百姓惣内
米沢村　八之助
長崎村　柏倉文蔵

新見蘆藏様

柴橋御役所

五、

覚

一弓　拾五張

外弓弦三十本

吉川村組頭　長左衛門

白山堂組組所　庄左ェ門

湯野沢村名主　孫　助

柴橋村組頭　七兵衛

〃村名主　傳四郎

谷沢村名主　嘉兵衛

松橋上組　堀米四郎兵衛

鞘　十五　　松橋村上組
矢　四百五十本　　名主　堀米四郎兵衛

右者今般農兵御仕立の儀に付御代官様被為遊御持参ハ弓矢其外書面の通私共江御預被仰付奉預ハ依之御請取奉差上ハ　以上

亥九月七日　　右　堀米四郎兵衛
柴橋御役所

亥
天保十年
（一八三九年）

六、

乍恐以書付奉申上ハ

一米拾五俵也

右者一昨十八日夜碧河江楯西村六供町組宇兵工より出火同所並上町組西ノ町組新町組焼失致し稀成大火ゟて困窮の者も有之様子ゟは付今般書面之通り施米差出御差図請困窮の類焼相救い様仕度奉存ゝ依之此段書付を以て奉申上ハ　以上

寅
天保十三年
（一八四三年）

寅三月廿日

柴橋御役所

松橋村上組
名主　堀米四郎兵衛

七、

松橋村上組　四郎兵衛

右四郎兵衛祖父四郎兵衛儀天保二卯年先名主十郎左エ門儀御検地帳江墨入等致し其外似せ金取締方被仰付度歎願出ゟ儀にも可有子殊の外心得違の者に付御公儀様より追放ヒ仰付ゟ程のものに付勤役中村高七百三十石余の内三百石余文化度より追々拔畝ヒ唱ひ他へ質流地に相渡し残無地高〻相成右御年貢年々相嵩み村方弁納金凡三百五拾両之内金三百二十両程祖父四郎兵衛全弁納仕其後御代官池田仙九郎様御支配中祖父四郎兵衛御召出の上名主役御直にヒ仰付御請仕相勤罷在ゟ処前申上ゟ通り無地高之分追々弁納ゟ相成りゟ事は村方一統の難渋に付右四郎兵衛より金八百余両差出し質流地の分引戻し村内難儀相救ひ其後村内無事に相治りゟ様承りゟ事

一、祖父四郎兵衛代天保四巳年稀成大凶歳の節米壱俵三斗九升入代金壱両弐朱位の節施米百俵余郡中村々へ差出其外居村は勿論近村へ札米と唱ひ前値段より金弐分弐朱引下米壱俵に付

代金弐分の相場を以米弐百俵余安米に売渡し且窮民の看养み乞食等に至る迄施粥米凡五十俵
相施し其節池田様御支配中右奇特筋取斗ハニ付金弐百疋頂戴ヒ仰付ハ事

天保十二年（一八四一年）

一、西丸御炎上の節は、金弐百両御上納仕ハ節御褒美として白銀壱枚頂戴ヒ仰付ハ事

天保十四年（一八四三年）

一、寒河江御支配中天保十二丑年郡中へ備金弐百両祖父四郎兵衛代差出申ハ

一、天保十四年卯四郎兵衛祖父死去致し翌辰年当四郎兵衛父治右衛門百姓株引受名主役相勤
罷在ハ去亥年九月中当四郎兵衛之百姓株相渡名主役相勤罷在ハ当時所持高九百参石也

一、去丑年旱魃に付村方并御料私領村々へ売渡ハ安米丑年分

米弐百三拾俵三斗六升　　米壱俵代金弐分五匁

安米値段

此間損金三拾七両三ト

銀五匁四分　　壱分弐朱三匁
　　差二朱　二匁

寅

天保十三年（一八四二年）

当寅壬七月晦日迄

米弐百八拾三俵二斗一升

此間損四十四両三分弐朱壱匁八分六毛

去丑年旱魃に付柴橋寒河江両郡へ施米仕ハ分

米壱百俵也

米八俵と金四両弐朱　右村困窮者へ相分

金百両　　国恩金上納仕ハ分

金五拾両　此度幸生銅山不盛に付世間の評判悪敷罷成是迄仕入いもの見限り相放れる
鏑浦眼前に出方も相見い義を相歎きいニ付右金仕入方願入当時銅出方に相
成申矣

右四郎兵衛奇特筋取斗い廉に御願に付き奉申上候　以上

寅八月　郡中惣代　市郎兵衛
太右衛門

寅
天保十三年
（一八四二年）

八、

乍恐以書付御請奉申上い

一金弐百両や

右者今般柴橋寒河江両御陣屋合併致し御陣屋一纏めにと為成御普請御入用の内へ書面の通私
共へ出金と仰付承知奉畏い然上は差出方の儀は仰付次第聊無差支相納可申い依之此段御請奉
申上い　以上

寅
天保十三年
（一八四二年）

寅九月廿五日

山田佐金二様
柴橋御役所

松橋村名主
堀米四郎兵衛

九、

七年御冥加金献上納覚（異國船渡来に付）

柴橋附

金百両　金谷原　傳四郎
〃五十両　長崎　文蔵
〃五十両　吉川　長左エ門
〃三十両　西里　庄左エ門
〃二十両　〃　弥右エ門
〃三十両　沢畑　直蔵
〃二十両　長崎　弥次右エ門

〃	二十両	米沢	八之助
〃	十両	根際	勘兵衛
〃	十両	沢畑	宇右エ門
〃	十両	両所	新兵衛
〃	十両	塩渕	佐之助
〃	十両	要害	林兵衛
〃	十五両	沼山	権兵衛
〃	三十両	金谷原	豊七

追加御上納

	金五両	中野	市兵衛
〃	五両	長崎	弥右エ門
〃	五両	〃	三郎兵衛
〃	五両	〃	左惣次
〃	五両	〃	新三郎
〃	三両	〃	又四郎
〃	五両	柴橋	七兵衛
〃	三両	〃	孫七
〃	三両	〃	彦左衛門
〃	三両	金谷原	三郎

金壱両　柴橋　門三郎
〃五両　谷沢　助次郎
〃五両　吉川　三九郎
〃五両　〃　権三郎
〃拾両　貫見　五郎兵衛
〃三両　〃　庄六
〃五両　大井沢　左次兵衛
〃三両　青柳　与一郎
〃五両　沼平　久右衛門
〃二両　岩根沢　久兵衛
〃五両　石田　甚右衛門
〃五両　〃　長登寺
〃七両　沢口　丹三郎
〃五両　松橋　治兵衛
〃七両　高屋　太兵衛
〃一両　八鍬　長右エ門
〃二両　沼山　善太郎
〃一両　〃　橋本坊
〃拾両　〃　白岩村

〃三両　米沢　治左エ門
〃一両　〃　彦右エ門
〃三両　沢畑　利助
〃二両　海味村
〃二両　柴橋　弥兵衛
〃一両　米沢　五右エ門
〃三両　中野　市太郎
〃二両　両所　任右エ門
〃一両二分　八鍬　与兵衛
〃一両　白岩　善太郎
〃一両　入間　清右エ門
〃一両　若木　忠右エ門
〃三両　梁沢　左七
〃一両　中野門傳　小三郎
〃一両二分　宮内　十兵衛

〆以上

同麓河江附

金百両　沢畑　権内
〃三十両　工藤小路　半左エ門

金三十両　新町　久右衛門
〃二十両　野田　新蔵
〃二十両　畑中　与右エ門
〃十両　〃　治郎兵衛
〃十両　雲河原　善兵衛
〃十両　六供町　清七
〃十両　〃　藤兵衛
〃二十両　上町　七兵衛
〃二十両　南町　久右衛門
〃十両　内楯　与惣次
〃四十両　石川　吉兵衛
　　市三郎
　　利兵衛
　　吉次

追加御上納

金拾両　楯南両組
〃六両　西町組
〃八両　六供町組
〃五両　新町組

〃三両　七日町組
〃二両　君田町組
〃十両　石川両組
〃十五両　三小泉村
〃三十両　溝延村六組
〃五両　仁田村
〃十五両　新田村
〃五両　嶋村
〃十両　工藤小路両組
〃二十両　大町村両組
〃十両　新町村
〃十両　野田村
〃三両　東大町
〃五両　藤助新田

右ハ丑六月中異国船渡来に付御冥加金上納仕い分記置也

刃
嘉永六年
（一八五三年）

一〇、

乍恐以書付奉申上候

松橋村名主四郎兵衛

一金七拾両也

外米百俵也　但三斗七升入　早場手当

内米七拾俵　当郡中村々

米三拾俵　奥河江郡中村々へ

右者今般浦賀表江異國船渡来有之右に付品川内海へ御臺場十一ヶ所御取建被仰出当時御普請中にて右は莫大の御入用有之ゆ由然る處昨年西丸御普請其外不容易御用途打続ゆ折柄にゆへ共御警衛向の義は万民の安危に拘り暫時も御打捨難被為置ゆニ付御入用も不被遊御厭前書御臺場御取建の段承知仕ゆ奉恐入ゆ義に御座ゆ就ては分限相応の上ヶ金も仕度心得に御座ゆへ共当夏は稀なる早魃にて田畑共多分の損毛有之作徳米其外收納のもの薄く甚だ難義の年柄に有之九牛の一毛に御座ゆへ共書面の金子御用途の内へ御加えに相成ゆは、冥加至極難有仕合に奉存ゆ何卒願の通り御聞済上納被仰付ゆ様偏に奉願上ゆ且米百俵の義は御支配所村々当夏早魃にて田畑共損毛多分村々夫食米不足差支の者共へ救米として差出度奉存ゆ向是又願の通御聞届御座ゆ様奉願上ゆ　以上

丑十月

柴橋御役所

右　四郎兵衛

丑嘉永六年（一八五三）

一一、

乍恐以書付奉願上ハ

一金三拾両也

右は近年異國船度々渡来致ハニ付海岸筋御備有之御臺場御取建ニ相成然るに右入用向莫大の趣に付為御國恩聊御冥加金上納仕度存し先般以書付金七拾両献上納願上ハ処願書御請取に相成難有仕合ニ奉存ハ所此節又々追々御上納金相願ハ者共有之ハ向篤と勘弁仕ハ処七拾金と申ハては餘リ少分にも御座ハ向前書金七拾両と右金三拾両差加え都合金百両ゑ仕リ献上納仕度奉存ハ向何卒右願之通ヒ仰付ヒ下置ハは、格別難有仕合ニ奉存ハ依之乍恐尚又以書付御願奉申上ハ以上

寅二月九日　　松橋上組　四郎兵衛

柴橋御役所

寅
安政元年
（一八五四年）

一二、

乍恐以書付御届奉申上候

今般石炭御用に付有無可申立旨被仰渡ハ向村方は勿論私領寺社領共穿鑿仕ハヘ共右品一切無御座ハ依之此段御届奉申上候　以上

寅四月九日　　名主　四郎兵衛

柴橋御役所

寅
安政元年
（一八五四）

一三、

乍恐以書付奉願上ハ

天保十五年
（一八四四年）

当御支配所松橋村上組名主四郎兵衛奉申上ハ私儀天保十五辰年中親四郎兵衛跡相続仕是迄御用村用共無滞相勤安穏ニ家内扶助仕罷在ハ段偏に御恩澤故の儀と深く難有存何卒御國恩を奉報度兼ねて志願罷在ハ処去丑年中異船渡来仕ハては御役向其外品々莫大御物入多の由承知仕リ且又同年中稀なる旱魃ゑて御支配所村々田畑損毛不少困窮人共難渋の折柄に御座ハ向幾重にも御奉公一廉相勤め度出精仕ハ得共素々有余の分限にも無之ハ向甚以て少分恐入ハヘ共米百俵上納其外米百俵は村々難渋の者共へ為救米差出度段相願ハ処御聞済相成猶又当春に至リ右上納米百俵拂代金江是金仕都合百両上納之積リ願上是又御聞届被下置難有仕合奉存ハ然る処此節ゑ至リ夫食差支兎作難行届村方も御座ハ趣及承ハ向夫々取調ハ所山内村々は何れも難

丑年
嘉永六年
（一八五三）

義ゑてハへ共就中小柳村の義は極貧窮の村方にて既是迫夫食拵借等被仰付厚以御救取続罷在ハへば元来薄地の場所困窮人共のみにて夫食乞敷中には農具共失ひハ輩も有之兎作方行届かす左ハ迚度々御救助被成下置ハ上の義御役所様へ相願ハ義も恐入差控罷在ハへ共差当り仕付夫食不引足当惑の内役人只管相歎難渋の段相違無御座ハ向前書昨年中村々江差出方相願ハ米百俵の外此度別段ニ仕付夫食并農具代共手当仕り一村無難に相続為致度奉存ハ乍併相對にて右取斗方仕ハては自然心弛出来万一農業怠りハ様ゑては却て村の為めにも不相成義と心配仕ハ向右扶食米農具手当共施切の願御役所様江差出ハ向右の趣被仰聞小柳村江御渡し遣ヒ下置ハ様仕度此段御聞済ヒ成下置度左ハは、難有仕合奉存ハ奉願上ハ　以上

嘉永七年（一八五四年）

嘉永七年寅四月

当御支配所
羽前村山郡松橋村上組
名主　四郎兵衛

柴橋御役所

一四、御預金預証文の事

一金四百二十四両也

右者柴橋御陣屋附郡中備粉御買入代金の内書面の通奉願上ハ処実正ニ御座ハ　然る上は大切に心附御入用の節ハ何時成共上納可仕ハ仮令火盗の難其外異変の儀有之紛失仕ハ共急度弁納可仕ハ万一上納差支ハ節ハ別紙質地御取上御拂可ヒ仰付ハ若質地代金に不足仕ハは、加判人共引受急度弁上納仕聊御差支不相成様取斗可申ハ為後日預リ証文差上申処如件

嘉永七寅年八月

松橋村名主　四郎兵衛
組頭　三　徳
万次郎

嘉永七年
安政元年
（一八五四年）

松永善之助様
柴橋御役所

前書之通相違無御座ハ依之奥印奉差上ハ　以上

郡中惣代　谷沢　茄兵衛
天満　市郎兵衛
海味　太右衛門

差上申質地証文の事

一上田　九十二筆
一中田　九十筆　但水帳名前持主四郎兵衛
〆百八十二筆

高百廿八石一斗八升一合

上田四町拾七歩　　石盛三十二

此質地金弐百八十両一分永百四十六文六ト

但　壱反歩　金七両

中田四町三畝十八歩　石盛二十九

此質地金弐百八十両一分永百四十六文六ト

高百十七石四升四合　但壱反ニ付金六両

合反別八町四畝五ト

此質地金五百弐拾弐両弐分

永五十六文六ト

内金九十八両二分永五十六文六分凡二割余増、

残金四百二十四両　御預金分

右者柴橋御陣屋附郡中備籾御買入代金之内別紙証文の通金四百弐拾両之上成御預ハニ付為引当書面の質地奉差上ハ処相違無御座ハ依之質地証文差上申処如件

嘉永七寅年八月

松橋村上組

名主　四郎兵衛

組頭　三　徳

親類　万次郎

嘉永七寅年（一八五四年）

松永善之助様

柴橋御役所

前書之通私共立会相改ゟ処相違無御座ゟ
依之奥印仕奉差上ゟ　以上

郡中惣代　谷沢村名主　嘉　兵　衛
天満組名主　市　郎　兵　衛
海味村名主　太　右　エ　門

一五、

以書付願上候

丑年
天保十二年
（一八四一年）

当御支配所羽州村山郡松橋村名主堀米四郎兵衛申上ゟ私義亡父次右エ門隠居家督後引続名主役相勤是迄無懈怠数代連綿安住罷在ゟ偏に御恩澤深く難有右ヨ付身分相応の御奉公筋は勿論窮民救方等兼て心願にて追々救方仕居ゟ処去々丑年の義は稀成旱魃違作にて村々難渋の者不少に付柴橋寒河江両陣屋附村々救米又は金子差出其外最寄の村々は御料御私領の無差別安米売渡且又乍恐於御上様も近来異船渡来其次第により安危にも拘りゟ義にて西御丸御普請を始め臨時の御出方打続ゟ折柄ゟゟへば莫大の御入用なも不被為厭内海へ厳重の御臺場御取建被仰出猶其外にも品々御所置の次第も被為在ゟ趣承知仕り御仁恵の程難有御國恩為冥加上納金

仕ル処右は御備筋御入用の内へ上納金仕ルヨ付苗字御免被仰付ル旨阿部伊勢守御差図に付松平河内守被仰渡の趣被仰渡冥加至極難有仕合と奉存ル右の次第ヨ付猶更窮民救方等出精仕致村々探索仕ル処当御支配所山内村々中には難渋ヨ落入村役人共等の不及力難捨置者共有之ル に付追々取調ル積リに御座ルへ共差当リ小柳村の義は必至と難渋御年貢上納も難出来是迄種々厚御世話も被為在ルへとも元来困窮最早亡村にも可及躰不容易義に付何れにも永続きの手当仕度然る処当年の義ハ親次右衛門病気引続彼是物入多にて金子手詰リ右仕法も不行届歎ケ敷次第に御座ル向篤と勘考仕ル処先年秋元但馬守様御領分高櫛村弥平次と申者に金子貸遣シル処返済無之ニ付無拠天保十二丑年同人相手取リ江戸表出訴仕リ御尊判頂戴相附追々御調の上済方の義厳敷御利害有之猶吟味中の処掛合の上滞願高金三百七拾五両の内金七拾両当金済同十三寅十一月二日請取残金三百五両の内五十五両は無利息弐百五拾両は月一分の利足に相定め翌卯十一月限不残返済の積リ証文書替熟談内済致シ訴答連印済口証文奉差上ル処御聞届に相成リ一同帰村仕其後期月に至リルても返済不致ル向種々及掛合ル処御奉行所御吟味の上済口証文差上ル義にルへは聊違背無之又ル出訴相成様にては御奉行所を欺きル姿にて恐入ル向月延猶豫致シ呉ル様達て相願尤の義相違も有之向敷存シ差延置ル処是又違約仕ル向追々催促仕ル処品能申延シ最早此節に至リルても迚も返済難出来様不当の義申聞畢竟右用立金を以て無難に用弁いたシ殊ヨ済口証文期月通返済無之節も自愛を以出訴も不致差延置ル恩分を忘却いたシ今以て返済無之段難得其意一躰弥平次儀但馬守様御領分に於ても際立ル身元宜しき者にて返済方に差支も無之ルへ共天保十四卯年十二月中貸金等相対済被仰出有之ルニ付出訴

難相成儀と侮此節迫滞り元利金六百五拾両余可踏倒所存に有之既ゑ十ケ年余の間聊も返済無之剰返済難出未様申し眼前不実の廉相顕以の外の義にて右相対済御觸面にては実意を尽し差引いたし御奉行所へ出訴不相成を見込捨置可致様と心得いもの等急度御吟味も可有之趣にい上は誠平次義右御觸の趣不相背実意を以て取滞金六百五両余早々済方仕い様其筋へ御願ヒ下度左いへば石金子を以て前書小柳村は勿論難渋村々救方仕乍恐御国益筋をも取計申度い間偏に此段御願申上候

卯安政三年（一八五五年）

卯十一月

当御支配所
羽前村山郡松橋上組
名主　堀米四郎兵衛

柴橋御会所

一六

乍恐以書付奉願上候

一米拾俵也　若木村名主　忠右エ門
一〃拾俵也　築沢村名主　佐　七
一〃拾俵也　八鍬村名主　與兵衛
一〃参拾俵也　米沢村　八之助
一〃拾俵也　長崎村名主　弥右エ門
一〃拾俵也　〃　名主　文四郎
一〃拾俵也　同　村　新太郎
一〃拾俵也　〃　太惣次
一〃拾俵也　高屋村名主　太兵衛
一〃五俵也　〃　名主　十太郎
一〃五俵也　〃　〃　七郎右エ門
一〃拾俵也　白岩村名主　弥右衛門
一〃拾俵也　〃　門三郎
一〃拾俵也　〃　庄右衛門
一〃七俵也　〃　清九郎
一〃七俵也　〃　善太郎
一〃弐拾俵也　吉川村　長左エ門
一〃五俵也　〃　三九郎

一米五俵也　吉川村　権三郎
一〃拾弐俵也　中の村　市太郎
一〃拾壱俵也　〃　市兵衛
一〃弐拾五俵也　西里村　庄左エ門
一〃拾五俵也　白山堂　弥右エ門
一〃拾五俵也　中島組　任右エ門
一〃拾俵也　〃村　新兵衛
一〃拾俵也　〃　佐之助
一〃拾俵也　天満組名主　市郎兵衛
一〃拾俵也　松橋村下組　治兵衛
一〃参拾俵也　〃上組　直蔵
一〃拾俵也　〃　利助
一〃拾俵也　〃　卯右エ門
一〃拾俵也　海味村名主　太右エ門
一〃拾俵也　谷沢村名主　嘉兵衛
一〃拾俵也　〃　七郎兵衛
一〃八拾俵也　金谷原村　傳四郎

以上

卯
天保十四年
（一八四三年）

右者去卯十月中江戸大地震にて御城外所々潰破損多い処又々当八月廿五日大風雨大荒にて右

同様所々及大破御捨置難ヒ遊御所詰御入用等も莫大の事の由寄々承知仕恐入い儀に御座い
右ハ九牛の一毛には御座いへ共御用途の内へ御差加へにも罷成いへは冥加至極難有仕合奉存
い右願の通献納米上納ヒ仰付い様仕度偏ニ奉願上奚　以上

安政三辰年十月

松永善之助様
柴橋御役所

安政三年
（一八五六年）

前同断文言ゟて別紙に

一米弐百俵也　　堀米四郎兵衛

献納米上納

一七

御請

幸生銅山

請負人
小役人
敷々預共

其方共儀一昨年中銅山改法以来敢て改心の様子も無之様被存甚以心得違に有之厳重に可取調処恐入趣を以向後急度改心万端心付いつれにも出銅相進様可取計旨申上くる上は格別の勘弁を以て是迄の儀は別段不及沙汰若此上等閑於有之は直様無用捨厳法ゟ取計遣向兼ねて其旨相心得且又後見堀米四郎兵衛外一人年限明に付後見御免の儀申立つる向承り届遣すに付以来稼方の儀は山中一同へ為相聞於御役所都て取締いたし遣向其旨相心得

但銅掘の儀是迄は免角等閑の趣相聞ゝ向以来は格別入念若此上にも不埒の義有之敷方は其頭早速下山申付ゝ向此段も兼て心得罷在事

堀米四郎兵衛

入之助

天保五年（一八三四年）甲午

其方共儀銅山数年不成績にて既に休山にも可相成折柄ニ付午年中より請負後見申付ゝ処格別差障り入用も不厭稼方骨折去未年出銅は近年に出進み一段の事に存する然る処後見年季明に付御免有之段申立ゝ無據義に付願の趣承り届た是迄格別丹誠いたし追々模様立直る敷々も有之ニ付右の場所は尚此上心付折節見廻りいつれにも添心致し遣し出銅相進御國益を取計様ゟ致事

萬延元申年（一八六〇年）

右之通ヒ仰渡一同承知奉畏ゝ依之御請奉申上ゝ　以上

萬延元申年九月十八日

大切松木検断

辰之助

敷頭

柴橋御役所

三太郎
市太郎
龍蔵
倉松

小役人

永本七左ェ門
木村右内
相原駿平
冨桂周之助

請負人

乙兵衛
吉十郎
久蔵

請負人惣代

清助出府ニ付
忰武三郎

後見人

八之助
堀米四郎兵衛

一八

松橋村

堀米四郎兵衛

一、天保十亥年西御丸御焼失の節金弐百両上納仕り翌々子年御褒美銀二枚ヒ下置い
一、嘉永七年寅年異國船到来の後御臺場御築立の砌金弐百両上納仕り翌卯年苗字御免ヒ仰付
い
一、安政三辰年米弐百俵献納仕い
一、万延元申年御本丸御普請に付金百両上納仕り翌酉年御褒美銀七枚ヒ下置い
右役所より御尋ねに付丑十月三日右の通書取会所より差上い事
但三宅鉴作様御支配の節也

上納金請取　　松橋上組名主
金参百両也　　堀米四郎兵衛
外永二百五十文　包分
右者御進発御用途之内上納金書面の通り請取申い　以上

三宅鉴作手付
斉藤勝平
同人手代
柴田庫太郎

慶應元年
十月

慶応元年
（一八六五年）

一九、乍恐書付奉歎願候

当御領分羽州村山郡松橋村上組名主堀米四郎兵エ親類共并村役人一同奉申上候当四月廿七日庄内人数大勢四郎兵衛宅江不意に押入一應の糺明もなく悴要之助を無躰に捕縛有合の武器類不残為差出ゟ上金銭等及穿鑿武器其外共持行尤其折柄四郎兵衛儀寒河江出張中にて宅江不居合ゟへ共同人父子右人数同様前度同道いたしゟ様被仰聞ゟニ付驚入只管宥免相願ゟ得共一圓無聞入剰江同道不罷出ゟは、四郎兵衛父子は勿論家族共ニ至迫切殺ゟ上家土蔵其外共不残可焼拂旨厳重被申聞一同悲歎ゟ沈誠残念ゟ奉存ゟへ共役人様の武威に恐怖いたし無拠両人被引立寒河江陣中江罷出居ゟ故を以四郎兵衛義四月八日谷地北口町御泊先薩州様御陣所江被召出翌九日御取捕相成御陣中所々御引回ゝ預リ詰リ柴橋表におゐて入牢被仰付罷在ゟ儀の処庄内人数再度白岩山内より押出未同月廿六日石原藤助と申方の手にて出牢相成ゟ処四郎兵衛儀入牢中持病の疝癪差起及難儀必至と治療仕ゟへ共全快無之先年奥州仙臺江罷出ゟ節右持病療治快復いたしゟニ付又々右醫者江罷出療治請度旨を申五月二日寒河江表より直と発足仙臺江罷出居数月相立ゟ而も帰宅無之度々帰宅の儀申遣ゟへ共頭痛眩暈等の気味合にて如何様にも帰宅難致旨申越当惑罷在且本悴要之助儀は前件奉申上ゟ通四月廿七日庄内人数に被引立寒河江陣中江罷出居同前より四月八日庄内江被引連度々暇相願ゟへ共更に不相叶是本数月彼表江被差留帰宅無之四郎兵衛父子の内何れか村方へ不居合ゟては不馴の組頭共のみにて第一御用村

用とも差支殊には四郎兵衛家事向取賄方に困入悴要之助を帰宅為致度村役人並百姓一同より七月上旬寒河江表庄内仮役所江歎願書を以要之助暇の儀相願ゆ処願意の趣庄内表江申遣逗て沙汰可及旨被申聞書面預りに相成ゆ後は有無の達も無之打過罷在ゆ中八月十日要之助儀漸の事にて帰宅翌十一日寒河江仮役所江罷出ゆ処酒井家江召抱相成村山郡に於て奉公いたしゆ様との儀同前にて被相達要之助始親類共一同十方に暮品々申立宥免相願ゆへ共中々以聞届不相成遂々谷地江出張相勧ゆ様被申ゆニ付いかんとも逃除相成兼乍難渋同前江罷出奉公いたし居ゆ中先月廿日寒河江表に於て炮発相響ゆ哉否又々庄内人数に被引立下之方へ俱々引取ゆ就ては要之助儀酒井家江召抱の身分に相成ゆ上は四郎兵衛前跡相続難相成四郎兵衛迚も仙臺表より於て長々病気いたし居今以快方不相成是以家事向取賄方不埒明々付親類村役人一同及談判ゆ処二百有余年の向連綿と百姓永続罷在ゆ株式今更及頽廃ゆも歎ケ敷奉存四郎兵衛分家の内重五郎儀は当四郎兵衛舎弟ゆ向重五郎を四郎兵衛名跡と相立是迄の通百姓取続致ゆ様仕度幾重にも奉歎願ゆ何卒出格の以御慈悲右の逐々御高察被成下置願の通被仰付被下置ゆは、莫大の御仁恵と難有仕合奉存ゆ　以上

松橋村上組
百姓　堀米直蔵
同　村同組
〃　利助
〃　重五郎
〃　卯右衛門
〃　四郎次

慶応四辰年十月

慶応四辰年
（一八六八年）

〃　〃　吉　兵　衛
工藤小路村　仁　助
松橋村上村
組　頭　徳　三
同　村
〃　久　五　郎
同　村
百姓代　万　次　郎

柴橋
御役所

口　上

一、四郎兵衛出牢の儀如何
是は壬四月廿六日庄内御人数白岩山内より押出石原藤助様と申御方の御計みて出牢相成い

一、同人出牢後如何成行い哉
是は四郎兵衛入牢中持病差起及難義全快不致先年仙臺にて療治致い醫者に罷出又々療治致度儀を申五月二日に寒河江表発足いたし仙臺ゑ罷出居帰宅無之い

一、忰要之助は如何相成い哉
是は四月廿七日庄内御人数被引立罷出い後庄内表江被連行いみ付度々御暇願もいたしい由にいへ共不相叶村方よりも難願仕いへ共無御許八月十日に帰宅いたし翌十一日寒

河江表に庄内様仮御役所に御届罷出ゟ処庄内様より召抱に相成ゟ趣の御沙汰同所にて御達有之夫より谷地長願寺江出勤いたし居九月廿日同所詰御人数同道下の方江引取ゟ

一、土蔵類封印の義如何

是は壬四月廿七八日頃庄内様新整隊富田修輔様ヒ申御方御出封印不残御解被成土蔵其外御見分相成取乱しゟ品物等夫々取添付置ゟ様被申付ゟへ共官軍様へ御伺不申上ゟて は取始末仕兼夫成に差置ゟ中土用入土蔵後風不入ゟては品物腐れ損じゟ故兎も角品物記帳いたし相改置ゟ様四郎兵衛よりも申越有之ゟ向任其意相改土蔵閉置ゟ次第に御座ゟ

一二〇

乍恐以書付御歎願奉申上候

当御領所羽州村山郡柴橋附郡中惣代其外左のもの共一同奉申上〻松橋村上組名主堀米四郎兵

衛儀郡中ゟおゐても重立い身元のものゟて祖父代より名主役相勤一体憐み深く心差宜敷もの
にて当四郎兵衛儀右心差を請継居村は勿論郡中難義をも相救ひ既先年山内難村相救として郡
中江米差出切之儀取計当時当御陣屋御圍籾の内江籾五拾壱石入斗は別段ゟ相備い儀にて郡中
の誉にも相成いものに御座い処去ル亥年中新見蟻蔵様御支配の砌御当節の訳柄夫々被仰諭斯
の形勢に至いては博徒其外悪徒共暴行の憂も難斗依て農兵御取立方の儀被仰出の趣を以種々
御見込相立右四郎兵衛其外等江農兵頭取役被仰付右は自然御奉公筋にも相当リい向相応の武
器類用意可致置旨被仰聞乍迷惑右御諭の次第難黙止追々武器類買調所持罷在い儀ゟ御座い処
当年の変事出来当四月廿七日庄内衆人数押寄い砌多人数四郎兵衛宅江押参リ何等の乱方も無
之怜要之助を無差と取押武器所持の趣ゟ付早々可差出旨厳重被申聞仰天狼狽所持の無残差出
其節四郎兵衛儀寒河江罷越居留守中ゟて右由聞および罷帰リい処同人并要之助倶に右人数同
様の支度にて同道可致旨置又被申聞警入強て宥免相願いへ共無聞済延引およひいは、四郎兵
衛父子は不及申家族のもの等も切害可及様被申威残念至極とは奉存いへ共多人数の武威に怖
れ無據寒河江陣所へ被引立其上要之助は庄内表江被召連尤四郎兵衛の儀は差戻に相成リ帰宅
罷在い処何様の蒙御疑心い哉同四月八日薩州様御人数北口御宿陣江ヒ召出翌九日御召捕ゟ相
成リ御陣中所々御引廻相成警歎仕既ゟ一命の程も難計艱難仕相歎居い段其節も親類ものより
被取追御参謀大山格之助様江種々歎願およひ夫々御取調中御引揚に相成又々庄内家人数押来
リ旁十方に暮罷在い内持病の疝癪差発相悩み難義罷在いニ付薬用手当も仕い得共快方の見留
無之先年右持病の療治受い醫師奥州江差越居い向其段御届奉申上右醫相尋同所へ参リ療養罷
在ゟ論前顕の次第柄而已にて別段子細も無之此上御取調御座い様にては何様の儀も可申上様

無御座実ゟ奉恐入ゝ段今般親類の者共より私共へ只管取搗ゝ向御実相糺ゝ処右仕儀に無相違
相聞ゝ向何卒出格の以御憐愍御慈悲の御沙汰御座ゝ様仕度此段幾重にも奉歎願候
右願の通御聞届被成下置ゝは、偏ゟ御仁恵ヒ難有仕合ゟ奉存、　以　上

当御領所
羽前村山郡松橋村
久　五　郎　印
徳　　三　印

郡中惣代
善　兵　衛　印
仁　左　衛　門　印
五　右　衛　門　印
藤　右　衛　門　印

民政方
御　須　所

あとがき

「堀米四郎兵衛文書」の四郎兵衛は同家六代の当主で、その遺族十代耕平氏（東京都練馬区向山町一六〇六番地に現住）の玄祖父に当り、明治廿三年七月に六十六才でなくなられた人である。当時柴橋代官の支配地であった幕府領松橋村（沢畑部落をも含む）の名主を務めていたので柴橋役所宛のものが大部分であるのもその為である。

○

文書の内容を理解するたすけにもなろうかと、こゝで「名主」の役柄について解説することにした。「名主」は近世に於ける地方役人の一つであって代官、郡奉行の支配を受け領主側の支配機構と農民側との接觸点たる村役人の長であって関西地方では「庄屋」と呼んでいる。

中世の荘園制に由来したもので戦国時代には名主（庄屋）年寄、小百姓と連署したものである。

伝統の土豪や草分百姓（草莽の荒野を切開いて定着し村の草創をなした百姓のこと）が近世村落の形成によって代官領主から世襲的に任命されていたものであるが名主役をめぐる争が激しくなったところでは所謂リコール運動によって年番制、輪番制、一代限り制、入札制など実施していたところもあるようになった。

×

名主は一村一人が普通であるが一村が数人の領主に分割支配される時にはその数に応じて名主がおかれることがあった。

名主は給料として給米或いは年貢免除の特典を受け経済的にも他の村民に優越している。

また彼等の中には名字帯刀を許される者もあり、そうなるとその権威は一層高まった。

堀米四郎兵衛はその一人であって今にのこる旧宅の構えを見ても当地方としては相当な権威を持っていたことが察しられる。

×

又この名主の下に「組頭」があった。「年寄」又は「長百姓」などの称もある。元来五人組の頭から出たものらしい。名主の事務を助けるもので、その人数は不定で役料があるのが普通である。給米ではなく引高が多い。

組頭は交代制で選挙による場合と名主の指定による場合とがある。名主の選出には代官所の許可を要したが、組頭は届出ればよかった。

○

最後に、この文書は、

「一」の天保七年（一八三六年）から「一九」の慶応四年（一八六八年で九十一年前）まで僅かに三十二年にわたる短い年間のものであるが、国史上所謂幕末の混乱期に於ける世相が東北辺陬の我が郷土の生活にも何かと影響を与えていることが読みとられる資料の一つであることを附記しておく。

――以上の解説は郷土史辞典と近世地方史研究によったものである――

委員　堀　口　昌　吉

第二部

堀米四郎兵衛文書（願書留）一覧

順位	頁	年月日	紀元	宛先	差出人	内容等
一	48	安政五年十月五日	一八五八	林伊太郎	柴橋附郡中最寄年番名主連	米價直段引上につき御願
二	49	〃十月十日	〃	〃	〃	空舟御差向方御願
三	51	〃十月	〃	寒河江柴橋御役所	柴橋附〃寒河江〃	御廻米の取引に関して御願
四	52	不詳		〃	名前前同断	酒田湊米蔵補理に関する御願
五	55	未（安政六年）四月十九日	一八五九	柴橋御役所	堀米四郎兵エ外四名	名主湯治につき御暇御願
六	55	安政六年五月	〃	〃	勘平外四名	田畑洪水につき御調方御願
七	56	〃六月	〃	〃	当支配所村々名主連中	米蔵補理願御下渡し願
八	57	未（安政六年）七月十九日	〃	〃	勘平外五名	田方の模様御届
九	58	〃七月廿七日	〃	〃	〃	大風雨につき御届
一〇	59	〃十月	〃	〃	当支配所羽州村山郡名主	御廻米積船難舟につき御願

一一	60	〃 十一月十一日	一八五九	〃	久五郎外三名	久四郎身持不埒に付御願
一二	61	申（万延元年）二月	一八六〇	〃	郡中三役人惣連	献金に関する御願
一三	62	〃 二月廿八日	〃	青津新三郎 和川午之助	嘉四郎外二名	村預けん預証
一四	63	万延元申歳四月	〃	柴橋御役所	柴橋村附村々役人連	違作に付御願
一五	64	申（万延元年）四月	〃	〃	〃	〃
一六	65	酉（文久元年）	一八六一	林伊太郎	堀米四郎兵エ外四人	友蔵身持不埒に付御願
一七	66	文久二年戌七月六日	一八六二	柴橋御役所	当支配所村々連	惣代退役につき御願
一八	69	不詳				惣代借貸調
一九	71	戌（文久二年）七月六日	一八六二	不詳	久五郎	八十才以上の男女取調御届
二〇	71	亥（文久三年）正月	一八六三	柴橋御役所	卯右エ門三徳	貢流地押領出入に付御願
二一	73	亥（〃）五月十八日	〃	〃	卯右エ門外三人	新規貢屋願
二二	74	亥（〃）十一月	〃	新見護藏	文藏外二人	大豆取引に付訴訟御願

二三	76	丑（慶応元年）八月	一八六五	柴橋御役所	堀米四郎兵衛三徳	貸金返済方に付御願
二四	79	寅（慶応二年）正月廿六日	一八六六	〃	堀米四郎兵衛外二名	仝前願書下渡の御願
二五	80	〃 二月	〃	三宅鑒作	勘平外七名	検見願
二六	84	〃 五月	〃		源次郎外六名	谷地郷より六田村迫継立に関し御願
二七	86	〃 九月十二日	〃	山田佐金二	与吉外五名	新規定免之儀請書
二八	87	慶応二寅年十月十七日	〃	〃	堀米四郎兵衛外三名	友蔵改心に付御願
二九	89	慶応三年十二月	一八六七	長岡仮御役所	〃 外七名	施米備置に付御願
三〇	90	〃 十二月十二日	〃	山田佐金二	堀米四郎兵衛	硝子献納の請取書御下の御願
三一	90	慶応四辰年正月	一八六八	長岡仮御役所	与吉外五名	定免の件御願
三二	94	〃 八月	〃	庄内様寒河江御役所	万次郎外二名	新規定免請書
三三	95	明治三年午五月十八日	一八七〇	長岡御役所	佐次兵衛外六名	徳蔵外五人過怠之儀宿免願上書
三四	96	〃 十一月	〃	山形御役所	太三郎外四名	郷宿之儀御願

三五	98	明治四辛未 正月	一八七一				山形縣より御年頭ゟ仰渡い書付写
三六	98	〃	〃				仝前
三七	99	〃 二月	〃				太政官よりの布告
三八	99	辛未（明治四年） 三月	〃	山形縣御役所	柴寒名主共一同連		
三九	100	辛（〃） 三月	〃				山形縣庁よりの御達
四〇	100	辛未（〃） 五月	〃	田所権大属			書面之草稿
四一	102	〃 六月十七日	〃	山形縣租税方御役所	堀米実		社寺領取調の廻達に対する届書
四二	103	〃 六月	〃	山形縣御役所	〃		田畑の作柄御届
四三	104	明治四未年 六月	〃	〃	柴寒両郡村之連中		最上川西（御分聴設置方御願
四四	105	辛未（明治四年） 七月	〃	〃	宇野三五郎		根際山御見分方御願
四五	107	〃	〃	山形縣租税方御役所	田代佐七 堀米実		雑税取調方御達に対し御回答
四六	107	〃 九月十日	〃	山形縣御庁	堀米実		根際山御見分に付御願

四七	108	〃 九月十八日	〃	〃	〃	除地之有無取調方回答
四八	109	〃 十二月	〃	〃	山形縣御役所	板坂弥平外二名	置米之内渡米御届
四九	110	〃	〃		〃	外十七名	御貢米上納に関する御願
五〇	111	明治五年 壬申二月	一八七二	山形縣御庁	〃	外入名	定免願
五一	113	〃 三月	〃	山形 天童御出張所	宮地治兵エ 外四名	庸屋渡世年季継願書
五二	114	明治七甲戌年 三月十七日	一八七四	山形縣権令	堀米要 外三名	桑畑番小屋放火につき御届
五三	116	明治七年 五月十七日	〃	租税課		積穀入札金上納方御達
五四	116	〃 五月廿日	〃	西川耕作 堀米要	渡部藤右エ門	御名代出張方御依頼
五五	117	明治八年 十二月	一八七五	関口隆吉	堀米実	借用証書引替願書
五六	118	明治九年 四月六日	一八七六	河野通倫	〃	小屋焼失に付御届
五七	119	〃 四月十日	〃	〃	守野富蔵	仝前並贖罪金申渡
五八	120	〃 九月三十日	〃	薄井龍之	堀米実	新山神社元朱印地御下渡に関し御願

五九	121	明治九年十一月	一八七六	三島通庸	堀米與		学校資金拝借ニ付願書
六〇	122	〃	〃	〃	〃		拝借証書之事
六一	123	明治十年三月五日	一八七七	薄井龍之	第二大区六七小区村々連		民費課出ニ付伺
六二	125	〃 四月廿四日	〃				民費課出之義ニ付願
六三	126	〃 八月三十日	〃	柴田弥	堀米與 外一三名		民費正租ニ関する委任届
六四	128	〃	〃	小野眞萩 外二名	松橋村		〃
六五	129	明治十一年二月廿四日	一八七八	三島通庸	安孫子久右エ門 外十三名		民費之儀ニ付伺
六六	131	明治十六年八月三日	一八八三	吉見輝	松田緑郎 外七名		旧藩学制沿革取調ニ付上申

一、

乍恐以書付奉願上ハ

当郡米価の儀当秋に至リ俄に直段引上右は上方并北國筋違作の場所柄有之酒田湊高値に付諸方商人とも当郡江立入米穀糴買いたし同湊に積下し故の儀にて村々一同夫食差支難渋仕ハ処同湊川下穀留の儀奉願上ハ処御慈悲を以願の通被仰付一郡挙て難有存ハ処最早此節新穀出来ハ時節に至リハても更に直段引下不申尤新穀留被仰付ハ以前商人とも糴入買ハ故身元のもの共歳末囲置分迚不残糴立賣払ハ趣にて悉囲米払底に罷成当時新庄米酒田湊江積下し金拾両に付拾八九俵程の相場ヨ相聞ひハ向不得止事商人とも一已の利欲ヨ泥み御穀留明記ハ程合を見込新穀札商同様に賣買いたし銘々糴入買度ハニ付直段引下不申而已ならす此上勝手侭に川下御差免に相成ハは、来夏に至リ村々夫食に差支ハは歴然の儀兼て御堅存被為有ハ通当郡は酒田湊一方口の場所柄に付天保区作の砌は西国中國北國迚米穀買入酒田湊より為積登相凌ハへ共当年も右の次才にて一部聊の産米却て他國江被引渡ハ様罷成万一来年遠作等におよひハは、夫食の手当無之手を束ね為及困命ハ様の儀出来可申哉と深心痛仕ハ儀にて御私領村々役人とも頻リに心配致居ハ様子に相聞ひハとも下方におゐて可防方便も無之痛却罷在ハ仕合御座ハ向何卒右前件御高察被成下置米價下落いたしハ迚其向に御收納米は格別商人とも賣米勝手侭に不相成様被為仰付被下置度奉願上、

右願の通御聞届被下置ハは、一郡平穏ヨ相續出来廣大の御仁恩と難有仕合に奉存、以上

安政五年
（一八五八年）

安政五年
十月五日

林伊太郎様
御役所

柴橋附
郡中最寄年番
名主連印

二

乍恐以書付奉願上〻

当御支配所羽州村山郡村々御物成米に付酒田湊江空船御差向の儀は先前大坂川口出帆面御定御定も御座い様奉承知大体四月中には右湊江空船着岸御座い由の所天保の頃より追々延着に相成六七月頃迄も御雇付無御座趣納所名主より申越い儀も向々有之全体出羽國は陰気勝の土地柄に付遠海相廻い儀彼岸後には商船たりとも積湊出帆無之諸荷物囲に相成い筈に承知仕殊に当郡御廻米の儀至て米性不宜長々積所湊江積之置い様相成いては其内更痛米出来欠減相立其上風雨の変不少積所納所名主共難用相増旁百姓とも難渋仕い に付去々辰十二月中空船御差向方の儀奉願上い へ共其後に至りいても更に御沙汰も無御座空船延引ゑ相成い ニ付去ル卯の御廻米より年々御積之残米出来い ニ付湊御拂奉願上〻御下知済の上御払被仰付上納相済い へ

とも猶当年も右の姿に成行未た廻船積所湊江皆着無之右ハへは年々湊御拂奉願上ハ外無御座畢竟

御公儀様御不益筋にも相成可申と奉存、且郡中村々に取いては前々奉申上、通ヲ一御國内江長積之置ハへば更痛米腐米等多分出来右御米遠海相廻しハては御藏納ヲ可相成米性纔ならて無欠減不少其外積所納米出役名主共長逗滞に付湊御拂御下知済迚御米番人附置ハ儀に付品々諸入用相嵩弥増百姓共難渋至極仕ハ向此段御仁察被成下置何卒来未年より五月中迚積所湊江空船御差向皆着相成ハ様其向々様江御達し被仰上下置度村々兼帯最寄名主連印を以奉願上、右願の通御聞済ヒ成下置ハは、郡中一流難有仕合奉存、　以上

柴橋村附
郡中最寄名主
連　印

安政五午年
（一八五八）
安政五午
年十月十日

林伊太郎様
柴橋　御役所

三

乍恐以書付奉願上〆

一米　　内米　　御本米

米　　欠米

右は当御陣屋附去巳御年貢当午春西海東海御廻米積船酒田湊におゐて御積立可相成分書面之石数可積受空船入津無之御國産江野積に有之数月塩風ゑ吹晒しいに付更痛米夥敷出来勿論雨天勝始終不順気にて立入の時節干立方不行届米性御年貢摺立方いを数月野積に無之いへは受米出来い儀は尤の儀奉存ゝ此上海船入津有之いとも遠海相廻しいは、何程腐米更痛出来欠減相立いも難斗歎ケ敷奉存ゝ向何卒格別の以　御心恵前書の残御廻米本欠とも不残湊御拂直段上納相成い様急速御伺被成下置度奉願上ゝ

右願の通御聞届ヒ成下置いは、廣大の御慈悲ヒ一同難有仕合に奉存ゝ依て最寄名主連印を以此段奉願上ゝ　以上

右　同　断

林　伊　太　郎　様

柴橋御役所

年月日ヲ欠クモ「右同断」トアルニヨリ安政五年（一八五八年）ト推定ス

四、

乍恐以書付奉申上て

当御陣屋附村々御廻米の儀酒田湊江川下仕同所御囲内江野積にいたし掛菰の手当而已にては廻船延着の歳柄数々風雨ゑ吹晒置欠減雨濡等の愁も有之郡中不益筋の儀御賢察被為有天保度御勘定高橋平治様御下向の砌場所御検分の上酒井左衛門尉様御入用を以御米置場板倉御普請ヒ成下ハ趣ヒ仰聞一同難承知仕ハへとも四方囲の板倉にては炎暑烈敷時節却て更痛蒸腐等出来弥増難渋仕ハニ付板囲に無之四方通貫の詰蔵に取立の上蔵内江御米積立置ハ様仕度段奉願ハ処右は通例諸向御蔵々とも遠ハ儀に付願の趣は難ヒ及御沙汰段ヒ仰渡為御試長七間の横幅三間の板蔵御取建の上御様中嘉永三戌歳中吉田條太郎様御支配の節被仰聞ハは右板蔵の儀板張は相除格子囲四方相透詰蔵に相成ハは、取締も宜雨濡は勿論蒸腐等の愁も有之間鋪右に付願筋等無之哉の段御糺に付右の通四方格子囲詰蔵御取建ヒ成下ハへは一同難有奉承伏願上ハにも御下知無之夫成相過罷在ハ処其頃は海船延着相成ハても八月彼岸前湊御出役御引拂に相成勿論其以前は郡中より湊詰名主共同湊江三月中旬下向いたし日数百日の請負にて相勤多分六月中引拂相成ハへは御米野積に差置ハても左程更痛出来不申ハ処海船近々延着ゑ相成既ゑ当年迫三ヶ年疾御米湊御拂相願ハ程の儀乍恐

御公儀様御不益相之郡中より湊詰名主共請負日数一位も永迫留に相成外御米番人附置ハ諸雑費旁不少入用相掛一同難渋仕ハ向何分願御、法相願度相談罷在ハ処先年御取建の板蔵にては前書申上ハ通迚も用ひに難立相談飽に罷在ハ処先般御代官様格別の御仁恵を以御面ヒ仰渡難

有奉存ゝ村々相談仕ゟへとも天保度願上ゝ四方相透ゟ詰藏の外別段可申上様無御座ゟ向右藏
桁下三尺通板張其余透通に御取建ヒ成下度条絵図を以奉申上ゝ右御補理ヒ成下置ゟへは御米
更痛は勿論濡澤手俵等も出来不申様相成郡中一同相助難有仕合奉存ゝ依之村々惣代最寄名主
連印を以此段奉申上ゝ　以上

寒河江附郡中村〻
最寄惣代
名主
郡中惣代
善　衛
柴橋附郡中村々
最寄惣代
名主
郡中惣代
太右衛門
市郎兵衛

安政五年
（一八五八年）　安政五年十月

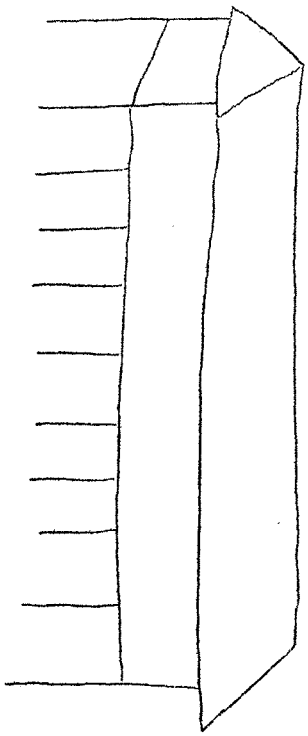
林伊太郎様
寒河江
柴橋
御役所

酒田湊御米置場内新規
御取建藏簾繪図

桁行三拾間位
梁間二間半位
桁下　九尺位
桁下三尺通板張

但　藏内江御米
三拾六俵宛
積立置い積り

右藏柱堀立上家は最寄非常火災等有之い節は飛火防方相成い様かわらふき奉願上て



右藏為御試壱部江壱ヶ所宛　御取建ヒ成下度奉願上て　以上

名前
前同断

林伊太郎様
寒河江
柴橋　御役所

年月日記入ナキモ内容ヲ前便関係ノモノ故安政五年（一八五八年）ト推定ス

五、

乍恐以書付奉願上〆

当御支配所松橋村名主堀米四郎兵衛持病の疝痛ゟ て時々相煩難儀仕ル＝付米澤五色温泉江湯治仕度奉存ル間当月廿日より来月廿八日迄日数三十九日御暇ヒ下置ル様奉願上〆 尤御用村用銅山御用共私共相勤聊無差支ル様可仕ル間何卒願の通御聞届ヒ成下様乍恐此段書付を以奉願上〆 以上

松橋村
堀米四郎兵衛
組頭 友蔵
〃 三徳
〃 久五郎

未八巳未デ安政六年（一八五九年）ナリ

未
四月十九日

米沢村
銅山後見人
入之助

柴橋御役所

六、

乍恐以書付御届奉申上〆

当月十九日より雨降続いに付洪水いたし松橋村両組耕地右川縁〻田畑不残水冠ゟ相成り未た落水可仕い向損所出来い哉疑と相訳りゟ申いへ共落水の上格別損所出来いは、疑と取調可申上〻此段乍恐書付を以御届奉申上〻　以上

安政六未年五月

松橋村　勘　平
佐　七
佐五兵エ
同村上組　万次郎
三　徳

安政六未年
（一八五九年）

柴橋
御役所

七、

乍恐御書付奉願上〻

当御陣屋附村々御廻米の儀酒田湊江川下仕同所御囲内江野積〻致し懸菰の手当而已にては廻船延着の歳柄数日風雨ゟ吹晒置欠減雨濡等の恐有之郡中不益筋一同相歎罷在い へ共相談ゟ飽罷在い処去歳中

御代官様酒田御見分御帰陣の上郡中為筋被為思召格別の御仁恵を以御直被仰諭一同難有奉存〻村々相談仕天保の度願上〻四方相透の詰蔵御取建ヒ成下度旨兼絵図相添奉申上御取調中の処当歳御廻米海船早春より追々入津の分不残出帆相成此節御米千四百八拾五俵余未〻御囲内

江相殘ハヘとも近歳に無之早着右は　御代官様格別御骨折ヒ成下ハ御仁法と一同難有奉存、以来当歳の通御仕法ヨ御座ハヘは郡中の愁薄く御囲内詰藏にも不及儀と奉存ハ向先般奉差上、願書御下ヒ成下度奉願上く　以上

安政六未年六月

当御支配所
御廻米村〻最寄惣代
村々名主連印

安政六未年
（一八五九年）

柴橋
御役所

八

作恐以書付奉申上く

松橋村当田方の儀植付後降雨勝ヨ付稲草元、薄く生立後れ蝗気御座ハ処此節ヨ相成虫気は相止此上快晴ハは、並作にも可相成哉上用明当時の模様御届奉申上く　以上

松橋村下組
百姓代　勘　平
組　頭　佐　七
〃　佐五兵衛
同村上組

未
七月十九く

未八
安政六年
（一八五九年）

百姓代　万次郎
組頭　三　徳
名主　堀米四郎兵衛

柴橋
御役所

九、
乍恐以書付御届奉申上ゝ

当御支配所松橋村両組奉申上ゝ過ル廿五日より大風雨ゑて大木数多吹折ゝ程の義に付稲草出穂最中折痛ゝ分余程相見江且降雨相続最上川洪水仕五月中出水の節より四尺程も水嵩相増昨夕方迫数度見廻ゝ処大川縁田畑不残水冠に相成未減水不仕ゝ向損所瑕と不訳ゝへ共落水の上格別の損所出来ゝは丶瑕と取調可奉申上ゝ此段乍恐以書付御届奉申上ゝ　以上

未八月廿七ゝ
（一八五九年）

松橋村下組
百姓代　勘　平
組頭　左　七
〃　佐五兵衛

同村上組
百姓代　万次郎
組頭　三　徳
名主　堀米四郎兵衛

柴橋
御役所

一〇、

乍恐書付を以奉願上く

一米百五石六斗四升九夕五才

内　米百石弐斗弐升三合四勺七才　　本米

　　米五石四斗壱升七合四勺八才　　欠米

右は私共村々去年御年貢当未春江戸御廻米東海西海同國酒田湊におゐて御積立に可相成内書面の石数可積受空船は越後國并当郡御廻米積合但州濱堀浦直泉船頭吉次郎船の儀同州斉藤六藏様御支配所津居山湊濱沖におゐて及難船い趣同所より御達に相成いニ付代船御差向方廻船方江ヒ仰付有之い処東海西海共時節後に相成いニ付不相成に付未申の春ヨ至り代船御差向の積り大坂廻船方より御掛合有之い趣ヒ仰渡承知仕い然る処一体村山郡の義は餘國ヒ遠ひ土地米性宜しからす其上早春より酒田湊江積下ケ御囲内江野積にいたし吹晒い残御米冬囲の上未春御積立御廻米ヒ仰付いては江戸御蔵庭水揚いは、不残御刎切に相成可申は眼前の義左いへは二重の御年貢上納仕い様成行歎ケ敷次第に奉存、勿論江戸表におゐても村山は悪米ヒ唱い程の義殊ヨ三ケ年越にも相成い御米積廻しい例無御座其上少石数の御米冬囲ヨ相成いては御米番人附置い義に付多分の失却相成り彼是以難歎仕い向何卒格別の以御仁恵前書残御米分是迄の通同所湊におゐて急速御拂の上代金上納ヒ仰付ヒ下置度奉願上、

右願の通ヒ仰付ヒ下置いは、百姓共一同相助廣大の御慈悲ヒ難有仕合奉存、依之村々最寄惣代連印を以此段奉願上く　以上

未八月未デ
安政六年
（一八五九年）

未十月

柴橋
御役所

当御支配所
羽州村山郡
御廻米村々最寄惣代
名主　印

一、

乍恐以書付奉願上ハ

当御支配所
羽州村山郡
松橋村上組
組頭久五郎二男
久四郎
当未　弐拾才

右久四郎義農業を嫌ひ家風不應身持不埒に付親類組合村役人供々異見差加へハ候ても不相用却て増長仕此上は難捨置無拠今般御訴奉申上ハ何卒格別御慈悲を以久四郎儀勘当帳外ヒ仰付下置ハ様法度此段偏に奉願上ハ　以上

未十一月十一日

松橋村上組
久四郎　父
組頭
久五郎
親類惣代

同右

林伊太郎様
柴橋
御役所

三右衛門
組頭惣代
小助
村役人惣代
名主
堀米四郎兵衛

一二、

御本丸御炎上今般御普請之処近来異國船渡来一条に付莫大御用途多く御場合恐察向々より献金之願不少話に自分共迚も献金相願い儀に有之一躰私領之儀にい得は不取敢郡中江の用金は勿論之事にて御料所とても右様の節は御用金可ヒ仰出筋にい処近来作柄等不宜儀を厚御差汲ヒ為成い哉に今夫等之御沙汰も無之い得共太平弐百歳来之蒙　御恩澤安睹に妻子迚も扶助い多し居い　御國恩之難有段を弁いてヒ仰出無の内銘々より可願出本意に有之尤献金い多しいものい江は先歳の振合ふ無御抱御臺場御普請上納金等之御振合を以御賞可ヒ成下哉之其筋御噂有之冥加に相叶い儀にて万分一之　御國恩に奉報い上右之通御賞ヒ成下い上は其身一分之規模而已にも無之先祖に対しいては孝行等実に難得時節にて難有次第に付寄敷厚相弁銘々力を盡し献金相願い方可然依之此段申諭い

申正月

右御教諭之趣承知奉畏ミ依之御請印形仕ミ　以上

申二月　　郡中

三役人惣連印

申八庚申デ
万延元年
（一八六〇年）　柴橋

御役所

一三、

差上申一札之事

当御支配所
西里村中島組
百姓　万次郎
松橋村上組
勘十郎弟
権次郎
西里村白山堂
庄左衛門弟
貞次
同人下男
在七

手鎖之上村預

右同断

村預け

同断　　嘉四郎下男
　　七郎兵衛

右は秋元但馬守様御領分前小路村地内字根際山御領有林伐木一件に付伐取ハ万次郎差引合之もの共書面の通村預ヒ仰付ハ間不取逃様組合村役人其外のもの共晝夜付添御呼出の節は早速相連れ罷出ハ様可取斗旨ヒ仰渡奉畏ハ依之預証文差上申処如件

申二月廿八日　　嘉四郎
　　庄左衛門
　　勘十郎

林伊太郎様御手附
　　青津新三郎殿
　　右のもの共
　　組合不残
　　村役人
同役人様手代
　　柳川午之助殿

申八寅申デ
万延元年
（一八六〇年）

一四、

乍恐以書付奉願上ハ

当御支配所柴橋附郡中村々役人奉申上ハ私共去ル午、御物成去未春江戸御廻米之内米百四拾五石余納不足相成右凡積米三拾五石に付金七拾四両替之見込を以買納積仕譯取調納名主共より江戸　御役所江奉差上ハに付越前屋平兵衛江預け金等御差引御取調金百三拾五両余買納代村

午八安政五年
未八〃六〃

巳ハ安政四年

々江割賦取立早々可相納旨今般御厳重ヒ仰渡一同恐入承知奉畏ハ得共去々巳御廻米欠減納不足米百九拾六石余相立右之内五拾壱石余買納米厚思召を以御扱石代納ヒ仰付難有奉存ハ得共

未歳ハ安政六年

連〻衰罷在ハ小前漸皆上納仕然処去未歳之違作にて弥増難渋相重勿論此節米價至て高直に相成銘々相続方必至の場合旁以弥増前、　奉申上ハ通労果罷有ハ小前一同相歎ハ向御時節柄誠

午ハ安政五年

に恐多く奉存ハ得共前書午御廻米納不足之分同歳御扱石代御直段米壱石壱斗八合九勺九才替を以石代納ヒ仰付度奉願上ハ畏河江附より見競ハては六拾三石余も買納無数処願之趣御取用

当申ハ当万延元年

に難相成旨ヒ仰渡願書御下相成ハ向猶又評議仕ハ処右御廻済難相成御儀に御座ハは〻当申出生米を以来春新穀廻上納ヒ仰付御扱ヒ下置度強て奉願ハ段重々奉恐入ハ得共村々必至ヒ困窮仕詰ハ上之儀に付買納代金取立上納仕ハ様には迚も行届兼ハ向無拠恐を も不顧御歎願奉申上ハ何卒格別之御慈悲を以右両様之内御聞届ヒ成下度様江戸表江ヒ為仰立ヒ下置度一同連印を以此段奉願上ハ　以上

万延元申歳（一八六〇年）

萬延元申歳四月

柴橋附

村々役人連印

柴橋

御役所

一五、

乍恐以書付奉願上〻

未歳ハ
安政六年

当御支配所村役人共奉申上〆去未歳之儀諸國共産作の場所有之哉当早春より酒田湊米価高直
ニ付諸方商人共当郡江入込米穀並雑穀共糴買いたし同湊江積下し或は奥州仙臺江賣米いたし
置賜郡米沢迄為差登い処米価近歳無並高直夫故穀物拂底に相成い向貧民買夫食のもの夫食買
入方差支内々騒立居い風聞有之右体の儀にては郡々の憂引出いは眼前の儀に付銘々痛心仕い
向村山郡向々同役江取合い処何れも同意にて此上他國他郡江越米相成いては当秋出穀迄可相
凌手段無之自ら騒立い相成差当難渋ニ御座い向何卒格別の御憐愍を以酒田湊江川下米不相成
様大石田船方御役所ヒ為仰達穀物の分船入御差留ヒ成下置仙臺越米澤口右口留所江御差留ヒ
仰度ヒ下置いは、直段高下に不拘人気穏に相成一同難有仕合ニ奉存、依之此段奉願上〆以上

申四月　　柴橋附
村々役人連印

申(庚申デ
万延元年
(一八六〇年)

柴橋
御役所

一六、

乍恐以書付奉願上〆、

当御支配所
羽州村山郡
松橋村上組
友　藏
当酉　弐拾八才

末尾三年月ガ記入ナキモ友蔵ノ左脇ニ当西トアルニヨリ西年即チ辛酉
文久元年
（一八六一年）

右友蔵儀農業を嫌ひ家風不応身持不埒に付親類組合村役人異言差加江小江共不相用却而増長仕此上は難捨置無據今般御訴奉申上〆何卒格別の御慈悲を以友蔵儀勘当帳外ヒ仰付ヒ下置小様仕度此段偏ニ奉願上〆　以上

松橋村上組
友蔵兄
名主　堀米四郎兵衛
親類直蔵外八人惣代　吉兵衛
右同断　利助
組合惣代　四郎次
村役人惣代　三徳

林伊太郎様
柴橋
御役所

同日願の通ヒ仰付村方江為立入間鋪旨ヒ仰渡一同連印御請証文御取ヒ成い同日内々入之助殿も御立会ヒ成い同廿二日友蔵江申渡す

一七、

乍恐以書付奉願上〆

当郡中会所詰村々惣代市郎兵衛太右エ門年末勤役罷在い処追々大借財出来惣代難相勤今般退

亥ハ
文久三年

役仕い二付跡惣代の儀は未亥、正月中郡中村々初寄合之節人撰いたし取究い様可仕い江共夫迄の処郡中最寄年番惣代並地元名主両人の内惣代取究順番に詰合聊御用向其外都て無御差支相勤い様可仕尤当八日より八月七日迄柴橋村名主弥兵衛白岩村名主善兵衛両人にて相勤い後替り合のもの是又両人宛前同様相勤い様郡中一同相談決着仕い向此段御聞届ヒ成下度一同連印を以奉願上〳〵 以上

文久二年
戌七月六日

当支配所
村々連印
願人郡中惣代
太右衛門
市郎兵衛

柴橋
御役所

柴橋村
名主 弥兵衛
白岩村
名主 善兵衛
柴橋村
名主 藤右衛門
松橋村
名主 堀米四郎兵衛
柴橋村
名主 弥兵衛

一 戌七月八日より
〃八月七日まで

田代村
名主　仁左衛門
清助新田
名主　清助
長瀞村
名主　文三郎
六田村
名主　東右衛門
白山堂村
名主　弥右衛門
細野村
名主　善兵衛
〆
右者当郡中會所詰跡惣代取究いまて書面の通順番相勤い積り取究い向此段奉申上ゝ　以上
柴橋村
名主　弥兵衛
白岩村
名主　善兵衛

一八

惣代借財調

一金五百両や　左衛門
一〃百五拾両や　門三郎
一〃弐百五拾両や　惣
一〃四百両や　傳四郎
一〃弐百弐拾両や　古借用の分　同人
一〃百両や　文蔵
一〃弐拾両や　森田林助様分
一〃百両や　弥次右衛門
一〃弐百両や　九左衛門外壱人
一〃三拾五両や　立石寺
一〃五百五拾両や　八之助
一〃弐百両や　八右衛門
一〃百両や　内金三両返上　長八彦左衛門
一〃五拾両や　大井沢
一〃五拾両や　貫見村

年号記入ナキモ書留ノ順位カラ文久三年（一八六三年）ト推定ス

一〇五拾両や　返上仕ゝ　只木様ゟ
一〇百両や　左左衛門　左藏
一〇五拾両や　佐之助　新兵衛
一〇五拾両や　是は宮坂様借助引受會所弁金の分　堀米四郎兵衛
一〇拾五両や　是八日和田村ふ足助合貸付有之　同人
一〇百両や　弥右衛門
一〇弐拾両や　弥右衛門
一〇七拾両や　五兵衛勝次
一〇弐拾五両や　白岩弥右衛門
一〇五拾両や　谷地庄藏

此金三千三百八拾弐両や
外金九拾五両　役人より借用有之
金三百七拾七両　御役所より借用分
合金三千八百五拾四両也
差引
金弐百四拾八両三分弐朱　ふ足
永弐拾四〆弐分

一九、

松橋村上組
三郎兵衛母
とよ
八十壱才
小助母
たゝ
八十才

右は今般入於才以上の男女取調書上可申旨ヒ仰渡承知奉畏銘々村々一村限り相改い處書面の通相違無御座い依之此段書付を以奉申上〈　以上

松橋村上組
與頭
久五郎

戌七月十八日

戌(十干)ノ
文久二年
(一八六二年)

二〇、

乍恐以書付奉願上〈

当御支配所
羽州村山郡

松橋村上組
百姓　卯　右衛門

訴訟人

同御支配所
同州同郡
同村下組
百姓　與　藏
三　吉
相手　小　三　郎
金　三　郎

質流地押領出入

右訴訟人百姓卯右衛門乍恐奉申上〻相手與藏儀同村住居年来悪意の者にて先年より金銭取引罷在質地貸の分去ル安政六未年九月別紙証文写の通同村御高辻の内字沢畑上田五畝弐歩立附米拾弐俵の場所金三拾五両にて質流地に引受親類組合連印地元村役人見届ケ奥印附の証文請取の所右同年より私進退可仕儀の所右地面引渡し方不速にて一向埒明不申勿論小作米等も故障有之ニ付初年より一圓不相済且大切の御年貢米永も割当不申如何の取計ニい哉難渋至極ニ付相手の者江は勿論村役人江も数度懸合い得共不取留儀申聞一向に取敢不申甚タ驚入逼々懸合取詰い処右地面不正の趣にも相聞左い得は場所為相犯同村地面不相渡御年貢米永等も割賦無之一同馴合全押領可致素々より取方い次ヲヒ今更心付案外至極数年の間躰能相欺キ作徳米共に押領いたしい儀相遠無御座哉に以歎ケ敷次ヲ右様ヒ取計いてはヲ一百姓相続ヨ相抱リ難儀至極にい間何卒格別の御慈悲を以右相手の者一同御召出御糺明の上右地面正実の分相渡去戌年迄四ヶ年分小作米損失無之相済い様ヒ仰付上下置いはヽ百姓永續仕廣大の御に恩ヒ難有

仕合ニ奉存〆依之証文写相添乍恐此段以書付奉願上〆　以上

右訴訟人
百姓　卯右衛門
差　添
組頭　三　徳

亥ハ癸亥デ
文久三年
（一八六三年）

亥正月

柴橋
御役所

前書之通奉願上ハニ付奥印仕奉差上ハ　以上

月　日

右村
名主　堀米　四郎兵衛

二一

乍恐以書付奉願上〆

当御支配所
羽前村山郡松橋村
卯右衛門

当亥より午迄弐拾ヶ年季定
一　新規質屋株願
此冥加永弐百文　但壱ヶ年
内永三拾文　御上納辻
御吟味増

右は卯右衛門ゟ村役人一同奉申上、当村におゐて差定い質屋と申ものも無御座困窮人共融通不宜卯右衛門儀は可也融通出来いものに付引質貸いたし居い処々般の御沙汰難黙止奉存村内相談の上同人儀前書の通御冥加永御上納仕い向何卒新規質屋稼被　仰付ヒ下置度奉願上、御聞済相成い上は取續は勿論利安の上質物相当の代金貸渡困窮人共何れにも行立い様可仕義ゟ御座い向右願の通御聞届ヒ成下い様仕度乍恐村役人連印書付を以偏奉願上、　以上

右願人

亥
五月十八日

百姓　卯右工門印
百姓代　万次郎印
組頭　三徳印
名主　堀米四郎兵衛

柴橋
御役所

亥八癸亥デ
文久三年
（一八六三年）

一二、乍恐以書付御訴訟奉申上、

当御支配所松橋村下組文蔵同村上組惣平一同奉申上ヒ、近年打續大豆麦作ミ付小前一同味噌仕込方至て手薄の心配罷仕い処当亥年春以来旱魃ゟて畑作拮縮い上秋分霖雨冷気に相成畑方不足の折柄何程の取分り相成い哉難斗弥以必要の夫喰味噌可仕造様有之間敷奉存私共両人相談の上大豆買入方手配仕尤大勢の百姓相続に抱りい義に付深く心配いたし中野目村林吉取次を

以大石田村本町茂兵衛方より九月晦日取引にて大豆弐百俵買入手金等相渡し賣証札請取の前日限取引可致い処品物不揃にて渡方難澁にい向十月晦日迄待呉い様右取次人林吉江頼入其旨書付差入書類相遠も無之儀ゝ付安心仕為仕中に延引罷在右十月晦日手先の者江残金為相持大豆請取方に差遣い処如何の心得い哉右茂兵衛彼是と無謂故障申張日限晦日ふ相渡加え品物等も有無ふ相分当惑仕い得共夜分におよひ深更迫談示も相成兼宿許江引取翌早朝素々取次人林吉同道請取方及相談ゝい処嘲笑ひ一向ま取敢不申其方共江用事無之い向早々引取可申旨申しに付驚入追々及掛合い処茂兵衛申聞いには朔日ま相成い向手金流右一条には面談相成兼い向立去い様高声に申張何様懸合いても埒明不申当惑難渋仕い向無據恣平其外の者共一同右村名主久兵衛方江罷越居懸り歎願仕い処品々利解も申聞い由ゝ小得共村役方の乱方にも不應却て不当申募り十方に暮立帰い得共多分の金子差出い上右大豆不請取いては第一前段申上ゝ味噌仕込方差支一同の難儀出来可申は眼前の儀然る処慈愛を以一応取引延引いたしい恩分も忘却仕前頭の次第にては素々取次人林吉一同馴合手金等押領可致取巧と相見得以の外不実の仕儀右様取相欺いては身上相続ま相抱勿論大勢の難渋に相成い向其段大石田村役人江懸合い上無拠此段御訴訟奉申上ゝ何卒格別の御慈悲を以右相手茂兵衛御呼出御糺明の上約定の大豆早々相渡い様ヒ仰付ら下座度乍恐以書付奉願上ゝ　以上

松橋村下組　文　蔵
同　村上組　惣　平
右村両組兼

亥十一月

亥八癸亥デ
文久三年
（一八六三年）

新見幾蔵様
柴橋
御役所

差添
組頭　孫三郎

前書之通奉願上ハ、付奥印仕奉差上、以上

右村上組
名主　堀米四郎兵衛
同下組
組頭　佐七

二三、

乍恐以書付願上、

堀米四郎兵衛奉申上、異国船渡来以来
御上様より追々幅時の御出方打続品々御處置之次第もヒ為在御趣にて莫大の御入用の御程奉
恐承数百年
御恩澤の冥加には身分相応の御国恩未熟ながら奉報度且其都度に乍聊上納金仕先代より都中
窮民救方種々取斗安米賣渡は勿論施事年来いたし奇特御賞與として安政の度苗字御免ヒ仰付
冥加至極難有仕合奉存、右様の次第より就ては猶更の儀御用途献金は勿論救方等何様にも出精
仕度尤窮民救方の儀は

卯八
慶応元年

当御役所よおゐても厚く蒙御沙汰い〻付御支配所村々探索仕い処極難村も有之様子に付右等の村方は追々取調い積りに御座〻得共近頃引續彼是物入多にて金子手詰右仕法も行届兼残念至極歎ヶ敷次第奉存〻然る処先年秋元但馬守様御領分高擣村弥平次と申もの江金子貸遣しい処返済無之〻付無拠天保十二丑年中同人相手取江戸表江出訴仕御尋判相附追々御調の上済方の儀最敷御利害有之猶御吟味中の処掛合の上済願高金三百七拾五両之内当金済金七拾両同十三巳十二月二日請取残金三百五両の内五拾五両無利足弐百五拾両は月壱歩の利足に相定翌卯十二月限り不残返済の積り証文書替熟談内済いたし訴答連印済口証文奉差上い処御聞届相成一同帰村仕然ル処期月過去りても返済不致い間種々及掛合い処猶

御奉行所御吟味の上済口証文差上い儀にい得は聊違約無之又い出訴相成い様にては奉対御奉行所恐入い間月延猶豫いたし呉い様達て相歎不実の儀も有之間敷と差心得無拠差延遣い処追々程能申延置返済無之故厳敷催促およひい処違約の上不都合の挨拶而已畢竟右用立金を以何程の用弁〻と相成殊済口証文期月通返滞い節も勘弁を以出訴も不致差延置い恩義忘却今更返済無之段不実千万の儀一躰弥平次儀秋元但馬守様御領分〻おゐても除立いて身元、返済方等差支は聊無之ものにい処品能申延置い内天保十四卯年十二月中貸金等相対済ヒ、出、に付出訴も難相成と見透壱歩の安利にても既弐拾有余年元利取調いは、千両余にも可相成金高可踏倒所存

御奉行様迚歎きい致方にて実よ歎ヶ敷徴骨髄剰返済難出来杯申し眼前不実の次第以の外の義にて右相対済御觸面にては実意を尽し取引いたし　御奉行江出訴不相成を見込仆損可致抔と心得いものは急度御吟味も可有之の趣に有之然る上は弥平次儀右御觸の趣不相背実意を以元

利滞高金千両余早々済方仕ゝ様其筋江厚御懸合ヒ成下ゝ様仕度奉願上ゝ左ゝはゝ右金を以郡中難村困窮のもの共救方取斗兼々御沙汰の御国益筋とも取斗且先代よりの奇特筋ふ相衰様仕度宜御賢察ヒ成下ゝ様偏奉願上ゝ　以上

丑八月

当御支配所
羽州村山郡松橋村
名主　堀米四郎兵衛
組頭　三　徳

丑八乙丑デ
慶応元年
（一八六五年）

柴橋
御役所

前書の通堀米四郎兵衛申立ゝ向取調ゝ処弥平次儀身元宜ものにゝ処本文四郎兵衛申立ゝ通去ル天保年中ヒ仰出有之上は迚も出訴は致同敷と差合不実の致方ミ相遠無之尤弥平次儀実以困窮にて返済差支ゝ程のものにゝは、四郎兵衛儀右様申立ゝ心得のものに無御座此節ゴ至りゝては弥平次儀追て身上向立直り右等も素々難渋の砌用弁いたしゝ故の儀ゴ可有御座実以恩分忘却不実の致方にて侮りゝ始末且は右様ふ実心得違のものの為に

御益筋心掛ゝ儀も存し通難相動様相成村々救筋も出来兼先代よりの積志も難遂右様の儀其侭差置ゝては自然御支配所村々江も相響融通向ゴ差支御取締向にも抱りゝ儀と乍恐奉存ゝ向前書の趣厚く御賢察ヒ成下早々弥平次より四郎兵衛方江済方相成ゝ様漆山御役場江御懸合ヒ下度此段奥書を以奉願上ゝ　以上

丑八月

柴橋
御陣屋附
郡中惣代
仁左衛門

柴橋
御役所

二四、

乍恐書付を以願書下奉願上て

当御支配所松橋村上組名主堀米四郎兵衛より秋元但馬守様御領分高嶺村弥平次江相掛り貸金滞済方の儀漆山御役場江御掛合奉願ゟ一件同所ゟおゐて御取調中当會所詰郡中惣代仁左衛門漆山同所弥八両人気の毒に存咄に立入夫々示談およひ仁左衛門儀は四郎兵衛の事実承り弥八は弥四次の方南紙ゟ処互に不行届致方も有之ゟ得共貸借の差別相分ゟ儀に付、両人申合借用金高の内三拾五両弥平次より差出外金拾両は仁左衛門弥八両人ゟて取償都合金四拾五両此度相済残金は四郎兵衛用捨いたしゟ積り取咄ゟ処双方無申分円熟相整四郎兵衛江右金相渡弥平次より差入口証文同人江相返し取引相済右は全く　御威光故の儀と難有奉存ゟ然る上は右一件に付重て御願筋無御座く依之願書御下ケヒ成下置ゟ様仕度此段御南届の程幾重にも奉願上ゟ　以上

寅　正月廿六日

右願人
名主　堀米四郎兵衛
組頭　久五郎

柴橋
御役所

郡中惣代　仁左衛門

寅(丙寅)ヲ
慶応元年
(一八六六年)

二五、

乍恐以書付奉願上〆

御検見取之処

当寅ゟ申迄七ヶ年新規定免願

一高千八百九拾弐石三升七合

此反別八拾四町三反七畝廿壱分

此訳

田高千七百三拾壱石壱升三合

此反別六拾町壱反五畝拾四ト

内高弐百八拾八石九斗七升三合　跡引

此反別九町八反六畝拾八ト

残高千四百四拾弐石四升

此反別五拾町弐反八畝廿六ト

此取米三百六拾九石弐斗弐升三合

内米弐斗　定免願ニ付増

畑高百六拾壱石弐升四合

此反別弐拾四町弐反弐畝七ト

内高三拾弐石壱斗壱升五合　跡引

出羽國村山郡

松橋村

畝廿五ト
九合
反三畝於弐ト
弐斗三升六合

升六合　上組
九反三畝廿ト

石三斗弐升九合
升　畑田成
反三畝十三ト
石三斗九升壱合　諸引
壱反四畝ト

反高五百於弐石九斗三升入合
此反別於七町四反九畝於三ト
此取米百弐於弐石六斗六升四ハ
内米壱斗　定免願ニ付増
畑高六於九石壱斗九升七ハ
此反別於町三反七ト

内高九石五斗壱升　　諸引
此反別壱町壱反弐畝九ト
畑高五拾九石六斗八升七ム
此反別九町壱反弐畝九ト
此取米弐拾三石壱斗七升四合
高千百六拾壱石五斗壱升壱合　下組
此反別五拾壱町四反四畝壱ト
此　訳
田高千六拾九石六斗八升四合
此反別三拾七町五反弐畝壱ト
内高百四拾石五斗八升四合
此反別四町七反弐畝拾八ト
畑高九百弐拾九石壱斗弐合
此反別三拾弐町七反九畝拾三ト
此取米弐百四拾六石五斗五升九合
内米壱斗　　定免願ニ付増
畑高九拾壱石八斗弐升七ム
此反別拾三町九反弐畝ト　諸引
内高弐拾弐石六斗五合

此反別弐町九反サ七ト
疾高六拾九石弐斗弐升弐合
此反別拾壱町壱畝三ト
此取米弐拾四石六升弐合

丑年ハ
慶応元年

右は当村の儀御検見取にい処当郡は一躰雪國に付早雪の年柄は御検見請いては雪下に相成い年柄も向々有之既ゑ去丑年中旁取入相後れ悉皆雪下に相成生干御米にて御廻米可挺之様無御座御救歎願をも相願い御年柄百姓同様不小難渋罷在い次ゑニ付御定免相願旨小前の者共相願尤定免相願いには格別の増米不在いては容易ゑ難ヒ仰付御趣意の趣奉承知い得とも近年引續遠作の上都て物価は存外の高値に付自然疲果困窮ゑ罷成且亦荒地起返等は追々免増并本免入等ヒ仰付猶昨年

寅ハ
慶応二年
申ハ
明治五年

御勘定様御下向の砌御厳重ヒ仰付い上の儀増米難義には御座い得共御趣意難黙止奉存右増米仕い向何卒当寅より申迄七ヶ年定免ヒ仰付い様仕度此段幾重にも奉願上〆右御聞届ヒ成下置いは丶百姓一同難有仕合ゑ奉存丶依之村役人連印を以奉願上〆

右村下組
百姓代　勘　平
組頭　孫三郎
〃　左　七
同村上組
百姓代　万次郎

寅ハ内寅デ
慶応二年
（一八六六年）

寅　二　月

組頭　三　德
〃　久五郎
名主見習　堀米　要之助
名主　堀米四郎兵衛

三宅監作様
柴橋御役所

二六、
乍恐書付を以奉願上い

当御支配所松橋村大町村工藤小路村新町村戸沢上総之介様御領分北口村下工藤小路村秋元但馬守様御領分前小路村荒町村右八ヶ村村役人惣代新町村組頭源次郎外七人奉申上ゝ右八ヶ村は谷地郷と唱え宿場にも無之織田兵部少輔様御領分郡山村并谷地郷村々横道にて諸家様人馬其外継立来い処分般右郡山ゟて彼是難渋申立已来継立難仕旨願上て　趣を以右御役場より御掛合御座い趣ヒ仰付承知仕い然ル処一谷地郷の儀前申上い通御料御私領入会の村々且横道の儀ゟ付人馬差支の儀向々有之難渋には御座い得共御遂行御差支ゟ相成いては恐多義と存天保度右八ヶ村役人申合壱ヶ月の日数村高ゟ割合相当の日数を以順番に継立分勤来い処郡山ゟおるて難渋筋申立継立方不仕谷地郷より六田村迄継立い様罷在いては仕来ゟ抱り難渋は御座い得

卯ハ
慶応三年
子ハ
明治九年

共此節差支難渋申立御用人高差支いては恐入い義に付来卯より来る子迄拾ヶ年限り郡山に助人馬差出い心得を以六田村迄継送い様可仕尤又々郡山より渋ゝ申立同様の継立いては仕来を破村方のもの気変ゑ抱り兎角人馬差支い様可相成は歴然の義ニ付拾ヶ年過る年ゑ至りいは、仕来通り郡山村にて継立い様天童御役場江御掛合ヒ成下度此段偏ゑ奉願上く右願の通御聞届ヒ成下置いは、難有仕合に奉存く　以上

寅ハ丙寅デ
慶応二年
（一八六六年）

寅　五　月

新町村
組　頭　源　次　郎
名主見習　卯　兵　衛

大町村
名主見習　龍　二
名　主　弥　之　助

工藤小路村
組　頭　仁　衛
名　主　宇井　竹次

松橋村
組　頭
名　主　堀米四郎兵衛

山田佐金二様
御役所

二七、

私共村々当寅定免年季明ニ付切替又は新規定免の儀先御支配中奉願上御吟味の上御伺ヒ成下い処今般左の通り御下知相済い段ヒ仰渡承知奉畏い然ル上は年季中假令水旱損等にて損毛相立いとも田方三分以上に不相当分は定免通上納仕畑方の儀は一國江も抱い程の義は格別容易に御引方不相成且田畑とも損地小前持高十分一ヨ不相当分は定免中御引方不ヒ仰付旨とも上仰渡承知奉畏い右に付小前惣連中の御受書は村役人共方江可取置旨是亦ヒ仰渡奉畏い依之御請印形差上申処如件

寅九月十二日

寅（丙寅デ慶応三年（一八六六年））

仰ハ慶応三年

新規当寅より仰迫定免二ヶ年

一高千八百九拾弐石三升七合　　松橋村両組

此反別八拾四町三反七畝廿壱ト

此取米四百拾六石四斗五升九合

内米弐斗　新規定免去丑増

此訳

高七百三拾五石五斗弐升六合　　松橋村上組

此反別三拾弐町九反三畝廿ト

此取米百四拾五石八斗三升八合

内米壱斗　新規定免去丑増

高千百六拾壱石五斗壱升壱合　　松橋村下組

此反別五拾壱町四反四畝壱ト

此取米弐百七拾石六斗四升壱合

内　米壱斗　　新規定免去丑増

寅九月十二日

松橋村上組

百姓代　与　吉　印

組　頭　仁左衛門　印

〃　佐　七　印

同村上組

百姓代　万次郎　印

組　頭　久五郎　印

名　主　堀米四郎兵衛

山田佐金二様

柴　橋

御役所

二八、

乍恐以書付奉願上〳〵

当御支配所

羽前村山郡松橋村

堀米四郎兵衛元尼介弟

友　蔵　当寅三十三才

右の者儀一躰淫酒にて家業向不精身持放埒に付親類のものと異見差加へいても不相用弥増身持不埒にい向林伊太郎様御役所江勘当帳外願上御聞済の上帳外ヒ仰付身寄のもの江罷越後悔相慎居今般親類組合のもの江只管詫入已来心底相改農業出精可仕帰住願いたし呉い様申に付篤と心底承リ届い処相詫い通尤出先におゐて悪事出入故障等無御座実に改心仕い躰に御座い向何卒御慈悲を以帰住ヒ仰付ヒ下度此段書付を以奉願上〆

右願の通ヒ仰付ヒ下置いはゝ難有仕合奉存〆依之親類組合村役人一同連印書付を以幾重にも奉願上〆　以上

右

友　蔵　兄

堀米四郎兵衛

親類惣代　利　助

組合惣代　四郎次

村役人惣代　組頭　久五郎

慶応二寅年（一八六六年）十月十七〆

山田佐金二様

柴橋

御役所

二九、

乍恐書付を以奉願上〆

一米八拾俵や　　但　売人ニ付米拾俵宛

右は当御支配所村々之内極窮民のものゟて病気又は営方差支餓命にも可及程の窮民にて縦令親類有之いても供に困窮にて扱方手届兼いもの共江扱方取斗い様仕度奉存〆乍恥書面の通差出相備置い様仕度乍恐書付を以此段奉願上〆　以上

慶応三卯年十二月　　当御支配所

羽前村山郡

堀米四郎兵衛

安部権内

柏倉文蔵

工藤八之助

宇井半左衛門

槙久右衛門

安孫子伝四郎

青柳

長岡仮御役所

三〇、

乍恐書付を以奉願上〆

当御支配所羽前村山郡松橋村名主堀米四郎兵衛奉申上〆先　御支配中私儀硝石献納奉願上御
聞済の上去々巳年中硝石目方百貫江戸表江為差登献納相済の処御請取書御下ヶ無之ハ間右御
下ヶ御座ハ様仕度此段乍恐書付を以偏ニ奉願上〆　以上

右
松橋村
名主　堀米四郎兵衛

慶応三卯年
（一八六七年）
十二月十二日

山田佐金二様
長岡御役所

三一、

乍恐書付を以奉願上〆

当寅より卯まて弐ヶ年定免明
当辰より戌迄七ヶ年定免願

一　高七百三拾石五斗弐升六合
此反別三拾弐町九反三畝七ヶ

松橋村
上組

此訳

田高六百六拾壱石三斗弐升九合

此反別弐拾弐町六反三畝拾三ト

内

高百四拾八石三斗九升壱合

此反別五町壱反四畝ト　連々引

残高五百拾弐石九斗三升八合

此反別拾七町四反九畝拾三ト

此取米百弐拾弐石六斗七升四合

内

米壱斗　定免切替増

畑高六拾九石壱斗九升七合

此反別拾町三反七ト

内

高弐斗六升七合　年々引

此反別弐畝廿一

高九石弐斗四升三合　連々引

此反別壱町壱反五畝八ト

此高九石五斗壱升

此反別壱町壱反七畝廿八ヽ

残高五拾九石六斗八升七合

此反別九町壱反弐拾九ヽ

此取米弐拾三石壱斗七升四合

取米合百四拾五石八斗四升八合

内 米壱升　定免切替増

右同断

一 高千百六拾壱石五斗壱升壱合　同 村下組

此反別五拾壱町四反四畝壱ヽ

此 訳

田高千六拾九石六斗八升四合

此反別三拾七町五反弐畝壱ヽ

内 高百四拾石五斗八升弐合　連々引

此反別四町七反弐畝拾八ヽ

残高九百弐拾九石壱斗弐合

此反別三拾弐町七反九畝拾三ヽ

此取米弐百四拾六石五斗六升九合

内 米壱升　定免切替増

畑高九拾壱石八斗弐升七合

此反別拾三町九反弐畝ト

内　高四斗弐升　年々引
　　此反別四畝六ト
　　高弐拾弐石壱斗八升五合
　　此反別弐町八反六畝廿壱ト　連々引

此高弐拾弐石六斗五合
此反別弐町九反廿七ト

残高六拾九石弐斗弐升弐合
此反別拾壱町壱畝三ト
此取米弐拾四石六升弐合
取米合弐百七拾石六斗三升壱合
内　米壱升　定免切替増

寅ハ慶応二年
卯ハ慶応三年
辰ハ慶応四年

右は当村の儀去ル寅より卯迄二ケ年定免の処当辰年季明に付継年季の儀格別の増米を以可願上旨ヒ仰渡奉畏ル得共近年未々引続凶作物価は積年の引上にて古今未曾有の高直ヨ相成百姓共殆ヒ困窮差迫り殊ヨ損地起返等の儀は追々御厳重の御吟味に付本免入又は増米いたしル儀ヨて増米の義難渋の旨申上ル処御趣意不弁段種ゝ御利解ヒ仰聞右難黙止前書の通増米仕ル間何卒格別の以　御慈悲当辰より戌迄七ケ年定免ヒ仰付ヒ下座ル様偏奉願上ゝ

戊ハ明治七年

右の通御聞届ヒ成下座ルは、難有仕合に奉存ル仍之此段村役人連印書付を以乍恐奉願上ゝ

以上

右村
下組
百姓代　与七
組頭　孫三郎
〃　佐七

慶応四辰年正月

慶応四辰年この年九月明治と改元（一八六八年）

上組
百姓代　万次郎
組頭　久五郎
名主　堀米四郎兵衛

長岡仮御役所

三三、
差上申一札の事

私共村々当辰定免年季明に付切替又は新規定免奉願上（処左之通ヒ仰渡承知奉畏ル然ル上は年季中仮令水旱損にて損毛相立ルとも田方三分以上ニ不相当分は御定免迚上納仕畑方の義は一國江も抱リル程の義は格別容易ヲ御引方不相成且田畑とも損地小前持高十分一に不相当分は御定免中御引方不ヒ仰付ル向其旨相心得右ヲ付小前連印の御請書は名主方江可取置段なも上仰渡是又承知奉畏ル依之御請印形差上申処如件

慶応四辰年（一八六八年）八月

松橋村上組
百姓代　万次郎
組頭　久五郎
〃　徳三

庄内様
寒河江御役所

三三、

乍恐以書付御歎願奉申上ル

当御支配所
羽前國村山郡
新町村
百姓 金次郎枠
〃 徳 蔵
〃 次助枠
駒 次
工藤小路村
百姓 只七二男
〃 太 七
大町村上組
百姓 房 吉
〃 善 蔵
松橋村上組
百姓 九郎右衛門

右のもの共親類組合村役人一同奉申上ゝ前書徳蔵外五人風聞不宜趣を以去月九日御召捕の上徳蔵太七房吉は入牢駒次善蔵九郎右衛門は村御預ケヒ御申付当時御吟味中の処一体同人共儀は平素農業出精罷在ル得共何れも酒を好ミ酩町の上仕成振兎角不宜ルに付右次第に至一同恐

入相慎心得違の段後悔仕以来は急度改心禁酒いたし農業出精可仕い向何様ニも御宜免の儀御慈悲願上呉い様私共江只管取掘り相歎いニ付篤ヒ相糺い処事実改心発明致い体に相見且田植時ヨ差掛り農業肝要の時節にも御座い向何卒出格の以御仁慈右のもの共一同御過怠御宥免ヒ下置い様御憐愍の御沙汰一同挙て幾重にも御歎願奉申上て　以上

右

親類組合兼惣代　左次兵衛　印
　　源　蔵　印
　　甚三郎　印

村役人惣代
百姓代　太兵衛　印
組頭　藤四郎　印
〃　久五郎　印
〃　源次郎　印

明治三年午五月十八日

（一八七〇年）

長岡
御役所

三四、

乍恐以書付奉願上て

私共村々今般当御縣御支配相成いニ付郷宿の儀当七日町足利屋新兵衛方江相頼御用相勤い様

仕度尤壱飯銀壱朱ツヽの積リ熟談仕い向何卒右郷宿の儀御聞届ヒ成下度乍恐此段連印以書付
奉願上〳〵　以上

当御支配所
谷地大町村上組
名主見習　太　三　郎
同
工藤小路村元組
名主見習　鶴　之　助
同
新町村元組
組　頭　源　次　郎
同
松橋村上組
名　主　四郎兵衛
同村　下組
組　頭　佐　七
同
大町村下組
同
新町村高関組
同
工藤小路村要害組
野　田　村

明治三年
（一八七〇年）　明治三年　十一月

山形
御役所

明治四辛未
（一八七一年）

三五、

明治四未年正月五日神主共一同山形縣より御年頭ゟ上出い節上仰渡い御書付

寫し

神職

敬神崇礼之儀ニ付テハ深遠ノ
聖慮モ被為在候條別テ御身慎其學ヲ勤潔礼典祭日夜無怠
神州國體ヲ不令辱正明ノ
神慮ニ不背様可心掛事

明治四辛未正月　　山形縣廳

三六、

醫

醫ハ濟生ノ要術衆庶之司命苟モ其技ヲ學其事ニ關スル者不容易
大任ニ候　然ルニ近世不學無術ノ徒妄ニ方藥ヲ弄　生命ヲ損ス
ル等往々有之好生之
御仁意ニ相背候儀ニ付廣ク其法ヲ採リ周ク其道ヲ盡シ至誠懇切
益勉勵可有之事

明治四辛未正月　　山形縣廳

年号記入ナキモ
明治四年
（一八七一年）ト
推定ス

三七、

山形縣專斷を以雜稅免許及布告い段兼て御法則に相悖不渦事に
い依之民部大藏両省より官員出張右布告差戻夫々處置可致樣ヒ
仰付右為心得奥羽越藩々江申達いも

二月　　太政官

三八、

乍恐以書付奉申上〆

当御管内羽前國村山郡山形縣柴橋寒河江両御出張附村々役人惣代名主共一同奉申上〆先般御
一新に付ては万民御撫恤の折柄近年凶歳打続米価並諸物価共沸騰加之辰年の動揺已来貧民一
層疲弊難渋の次第ヒ為在
御見廻今般衆を恤み深き思召を以雜稅御廃止の御布告万民一同難有奉存〆然ル処右は
御当縣ゴおゐて專斷の御布告にて御法則にも相悖リい＝付右為御引戻民部大藏御両省御官員
樣方御下向ヒ為遊諸藩江御達有之趣相承奉恐惶い就ては御上におゐても深御苦慮ヒ為在い趣
詳承仕何共恐入い次第に御座い向前願奉申上〆通疲弊必至の場合には御座い得共雜稅御免除
の御布告は奉返上い向何卒是迄の通永御支配引続郡民一同安堵勤農仕い樣いたし度此段奉申
上〆　以上

辛未八
明治四年
（一八七一年）

辛未三月

山形縣
御役所

柴寒名主共
一同連印

三九

先般雑税欠米込米等の儀申達い処於
朝廷は当縣管下のみに無之廣く民を愛し衆を恤み給ふ至大の御仁意を以天下一般税法御改正
ヒ為在い御趣意に付追て相達い迄先囲覧の通相心得可申此段相達い也

辛未三月

山形縣廳

辛未八
明治四年
（一八七一年）

四〇

乍恐書付を以奉申上て

当御管内羽前國村山郡松橋村名主堀米実奉申上て頃年御國内物産の多少自然出入損益一ヶ年
の惣括は邊土草芥中至愚の小民不可量知勿論不奉弁万事諺に井蛙の見殆と恐入い得共愚念の
思処不奉申上いも又御趣意に相悖り い義ヒ無餘義奉申上て世上の言語伝承仕い に物産多く利
益年毎に積いは、富國強兵の自然の形勢不待論産物無数損費盈過いは、兵気弛弱一和の快力

を失ひ迚年御國威にも抱い様可相成歟右様の大事は愚昧浅知の私共是非可申上様無御座い得共情慮、栄枯得失を愚考仕いに近年日用の諸物品価十倍餘ヨ相成出入の諸品比較仕い得は不平均の価不少就中郡中大一の産物干紅花青苧の義は天保の度米壱俵価金三朱程の節干紅花壱駄六七拾両程凡壱ヶ年産荷一千駄価七万金此節を駄価八九拾両諸品十倍とは六拾余万金の不足相立青苧其外の物産不平均の不益夥敷生糸蚕卵紙の増益金有之い得共素より荷数無之聊の義にて諸國より買入い繰綿木綿絹布渡来品塩干物砂糖薬種類蝋小向物類其他の数品出入い価算計仕い得は凡壱ヶ年五拾万両余正金を以損費相立い様奉存〆

右当算にいは、拾ヶ年全郡の金銭殆と盡果他國他郡より借財夥敷出来自然と日用の諸品も乏敷相成活計相續難相成迚多も

御貢上納にも差支い様可相成は眼前と歎息の至りヨ奉存、就ては愚慮仕いに干紅花其外価不平均の不足別品価を以満足仕いては養蚕茶製より外無御座い間有志の輩有之厚く心配可致い得共地面又は雑費金所持無之いては制行難相成空論に而已押移り実行難相立と奉存い尤有金のものは差当り急、にも無之一已の安危に相泥ヶ聊も憤発盡力の心得無之全郡困窮仕、いは、後患果て可及其身と不心付ものも可有之歟又生糸の儀当郡の弊習にて糸制粗略唯々簡便を旨とし陸中国清水川出産金花山銘の生糸より価五ト余の下値にて素々物品の下悪ミ無之糸制の粗悪には糸の引方甚太く其上太細更に無定則繰方も一編にて尤不揃に御座い右等の次才弁別いたし極細に引二編繰に一統念入相製いは、其利益莫大にて壱駄価七百金の処上制五分増壱千五拾金に相成いは、一百駄に付三万五千金の有益にい処数百駄の価算計仕年々増益入金仕いは、郡益不少義と奉存い前、両様心付いもの不少可有之い得共區々にては迚もヒ行間敷

且は水一養蚕茶制の義は乍恐御威光を以御精諭誘導ニ成下座其実行御賢察ニ成下勉励盡力の有無を以御賞叱御座いは、全郡困窮相凌無難永続廣大の御仁恵と難有仕合奉存、依之此段書付を以奉申上、　以上

辛未五月

辛未八
明治四年
（一八七一年）

右書面武助正兵衛両名ゟ相直ー
同人共の心付の積を以
田所権大属様江差上ゟ事
として消してある

四一

乍恐書面を以御届奉申上て

子八
元治三年
巳八
明治二年

今般河西村の社寺領去ル子より巳迄六ケ年平均収納高並元御朱印除地山林小物成等迄洩落無之様巨細取調今十七日迄寒河江御出張先江可差出旨御通達之趣奉拝承ゟ得共当組ゟおゐて右等の地所は勿論社寺共一切無御座て向此段御届奉申上て　以上

辛未六月十七て

辛未八
明治四年
（一八七一年）

山形縣
租税方
御役所

当御管内
羽前国村山郡
松橋村上組
村役人惣代
堀米実

四二、

乍恐以書付御届奉申上ゝ

当御管内私共村々当田方の儀春中より晴雨片寄不順気にて田植後雨天曇天打続快晴更ゝ無之自然元植不仕其後蒸気強く相成蝗夥く出来稲元喰枯し一同打驚虫除種々手当を盡しゝ内土用入より照続畑作大小豆荏大根等枯果ゝ場所も出来田方は寒河江川より分水の場は先え無甲斐ながら追々出穂の躰に相見ゝ得共弐分通程山寄の分沢水涌水掛場所は一圓白割黒割よ相成稲草凋黄し此上降雨有之ゝ共迚も稔申間敷と右耕地の百姓共一同悲歎涕泣罷在ゝ依之土用明当時の模様乍恐書付を以此段御届奉申上ゝ　以上

羽前国村山郡
新町村
組頭　石垣源七
工藤小路村
名主　宇井竹司
組頭　宇野三郎

辛未六月

辛未八
明治四年
（一八七一年）

山形県

御役所

大町村上組
名主　柴田　弥
松橋村
名主　堀米　実

四三、

乍恐以書付奉願上て

辰変動ハ明治元年戊辰の役

当御管内羽前国村山郡え長岡附左の村々役人共一同奉申上ゝ私共村々旧来御陣屋向近ゝ有之御用相勤罷在ル処　御維新に付山形表江御本縣ヒ為建村々同所江ヒ出御用相勤ル様去冬中御達ゝ相成歎息仕小前のもの共種ゝ難渋申聞且山内村々は不及申里方村々迚も数里相隔聊の御届願又は御呼出にて罷出ルにも往返二三日も相懸リ失費多く夫而已ならす邊土貧朴不弁の村役人情実も貫通不在自然不行届より不束の義出来ルは、恐入ル義と甚心配罷在ル処格別の以御沙汰夫々御出張所御取建万端御取締ヒ成下座一同難有安心罷在ル処無向も一ト先御引揚の御沙汰ヒ仰出速ゝ御帰縣ヒ為遊ル間一同驚歎仕自然取締相弛み遊惰のもの出来勧農勉励の輩も必然蔑農に押移リ可申尤去ル辰変動以来未タ何となく人心不穏業躰浮薄の向も有之右ゝ便リ無頼の徒立入可申哉も難斗遠方村々にては別レて取締方行届向敷殊ゝ諸上納物取立方の儀も精々可仕ル得共兎角相弛遂に不納出来無余儀御訴申上御本縣より御召出ら成御取調受ル様相成ルは、困窮の上尚一層の疲弊相増勿論山口小高の村々は諸雑費相嵩潰退転のものも出来

明治四未年八（一八七一年）

可申哉且は山形に訴ハは容易の義に有之間敷と存我意の不行多く薄力愚直のものは心得違愛
樹黙止ケ様可相成は眼前の義にて御取締不行届ケ様立至ハは、出入ハ御義旁歎敷次第、付何
卒前にヒ仰聞ハ格別の以　御仁恵最上川西江壱ケ所御分轄ヒ為建都ての御取締ヒ成度一同挙
て奉願上、　右願の通ヒ仰付ヒ下座ハは、郡中一同難有仕合奉存、　以上

明治四未年六月　　柴寒両郡村々
山形縣　　連印
御役所

四四、

乍恐以書付奉願上て

当御管内羽前国村山郡前小路村名主平十郎松橋村大町村荒町村工藤小路村四ケ村惣代工藤小
路村要害組組頭宇野三五郎奉申上、前小路村地内根際山の義は御林反別弐百九拾弐町八反七
畝廿八歩之内裏山と唱ハ反別百五拾六町六反歩并反別弐拾五町弐反九畝拾八歩ゝ場所は往古
より西里村松橋村大町村工藤小路村荒町村地元前小路共六ケ村入会小前のもの共夫々分持仕
柴賣銭と唱ひ合御役永四貫七拾四文村々御年貢御割付、組込年々上納夫々進退仕来ハ処其節
前小路村の義は米沢様御預り所に御座ハ処去ル天保十二丑年秋元但馬守様御領分渡ヨ相成翌
○寅年より秋元様御役場江上納仕居ハ処万延元申年中西里村のもの共山稼の事ヨ付地元山守の

寅年八
天保十三年

ものと爭論相発柴橋御役所と御懸合相成御取調中證人等立入示談有之義は右山と見取反米壱
升宛年々上納仕ゝは丶御役所免除聊無差支銘々進退可為致の趣に付先規の通御役所にて進退
仕度段一応歎願仕ゝ得共其埒明不申右山江不立入様にも無相成旁難義には御座ゝ得共其節は米
価至て下直米三斗九升に付金壱分一二朱位の義故深く思慮も不在唯々無故障山進退仕度存意
にて無余儀見取反米壱升の御請仕柴草等苅取罷仕ゝ処右山地味の厚薄は勿論八九分は赤白の
砂土而已ゟて苗類植付不相成甚敷場所柴草等も無之不毛の分多く反米壱升御上納仕ゝ様ゟて
は難義の次第加之追々米価高直此節の姿に押移り連年凶作困窮の上尚一層の疲弊相増難義至
極に付素の御役所に立戻り見取米の義は御免除ゟ下座ゝ様歎願の義ゝ前一同度々相歎ゝゝ付
其段申上ゝ得共其侭にて御免除不相成追々未進相嵩地元村役人は勿論遠近村々役人一同当惑
仕此上永続可仕見詰更に無御座尤前ニ奉申上ゝ通地味厚薄ゟ寄難易の差別ゝ前毎ゟ出来何分
不平等に付民心居合も不宜何卒格別の思召を以右見取場御見分の上御明察ヒ成下座作付可成
出来ゝ場所は無余儀次第にゝ得共右不毛の分は荒地引にゟ成下窮民御救助ヒ成下座ゝは丶廣
大の御慈悲と難有仕合奉存丶依之此段乍恐書付を以奉願上丶　以上

工藤小路村要害組
組頭　宇野三五郎

辛未七月

山形
御役所

辛未八
明治四年
（一八七一年）

四五、

乍恐以書付奉願上て

当御管内羽前村山郡松橋村上下両組役人共奉申上て今般雑税の内有来無実の分何年何様の何を以納始め何年より相休又何年より納来り且何の誰様御支配の頃より相始り右年数起立委く取調来月朔日迄差出可申旨御達の趣承知奉畏い当村の儀は速ヶ役替りしその書類紛失いたし何分調向疎と出来かね恐多奉存い得共谷地郷と唱ひい村々は従前組合同様に仕来い向今般隣村大町村三組より差上い次第ゝと別段振合相替りい義も有之向歎と乍恐奉存く向此段書付を以奉申上て　以上

辛未七月

松橋村上下両組
役人惣代
組頭　田代佐七
名主　堀米実

辛未八
明治四年
（一八七一年）

山形縣
租税方
御役所

四六、

乍恐以書付奉申上て

当御管内大町村外三ケ村役人共一同前小路村地内字根際山御林見取場御見分之儀奉願上い処
来ル十五日頃御見分ヒ成下置いに付小前持場帳明路絵図面取調万端無差支様可致旨一昨八日
ヒ仰渡承知奉畏い然る処絵図面江小前持分限明細書入いには村々役人一同打寄小前銘々及立
會取調い儀に付場所地境等再応相糺い分も可有之旁不行届之儀出来いては恐入い儀に付来る
十七日迄精々取調十八日頃奉御見分請い様被成下置いはゞ難有仕合に奉存い依之乍恐此段書
付を以奉申上い　以上

辛未九月十日　　大町村外弐ケ村代兼
　　松橋村
　　名主　堀米実

山形縣
御廳

辛未八
明治四年
（一八七一年）

四七

乍恐以書付奉申上ゝ

当御管内松橋村役人奉申上ゝ今般除地有無共明細取調来ル廿日迄可申上旨ヒ御申聞承知奉畏
い然ル処当組には除地無御座ゝ仍て乍恐此段書付を以奉申上ゝ　以上

辛未　九月十八日　　松橋村上組
　　名主　堀米実

山形縣
御廳

辛未八
明治四年
（一八七一年）

記

一金百弐拾両也　松橋村上組
一〃弐百両也　同村下組
一〃弐百九拾両也　大町村上組

右は当未石代金之内書面之通御上納仕度奉願上〆　以上

前同断

名前

四八

記

一米拾四石五升　官録置米
内
米三石五斗　当村困窮人江御救助ト下米渡し

右は当村置米の内渡米書面之通御座い　以上

辛未十二月

山形縣

御役所

第二十一区
六番　松橋村上組

松橋村上組
百姓代　板坂弥平
組頭　布川万次郎
〃　嶌田久五郎

辛未ハ明治四年（一八七一年）

四九

乍恐書付を以奉願上て

当御管内才十一区松橋村両組大町村上組役人一同奉申上て私共村々当未御貢米の儀田米其外皆石代奉願上て に付年内大分通御上納可仕旨今般ヒ御申付承知奉畏い然る処小前取立方勉励罷在い得共何分捗取ふ申い向夫食米融通請取渡未タ不行届依ては重立百姓手元繰合差替御上納可仕い得共月迫にて迚も調合難相成無拠別紙の通内金上納仕残金の義は来春上納金御上納の節迫には聊無相違御上納可仕い向右願の通御聞届ヒ成下置い様幾重にも奉願上い　以上

辛未十二月

当御管内
第廿一区　松橋村上組
百姓代　板坂弥平
組頭　布川万次郎
〃　島田久五郎

同村下組
百姓代　山本勘平
〃　阿部与吉
組頭　板垣佐五兵衛
〃　宇野仁左ヱ門
〃　宮地孫三郎
〃　田代佐七
重百姓　宮地次兵衛
秋場文蔵

辛未ハ明治四年（一八七一年）

大町村上組
百姓代　武田信八郎
組頭　横田藤四郎
〃　横田義藏
〃　桜井源三郎
惣百姓　細矢太郎左エ門
〃　奥山正三郎
名主　柴田弥

山形縣
御役所

五〇

乍恐書付を以奉願上、

去ル午より未迄　弐ヶ年　定免明
当申より戌迄　三ヶ年　定免明

一高　七百三拾石五斗弐升六合　松橋村上組
此反別三拾弐町九反三畝弐拾ト
此訳
田高六百六拾壱石三斗弐升九合
内　此反別弐拾弐町六反三畝拾三ト

午六明治三年
未八〃四〃
申八〃五〃
戌八〃七〃

高百四拾八石三斗九升壱合
此反別五町壱反四畝ト
――此向反別等略す――

右は当村の儀去ル午より未迄弐ヶ年定免の処当申年季明に付格別の増米を以往年季の儀可願上旨ヒ仰渡奉畏い得共迚年来引続違作物価は積年の引上にて百姓共殆ヒ困窮差迫いに付増米の義難渋の旨申上ゝ処御趣意不弁段種ゝ御利解ヒ仰聞右難黙止前書の通増米仕ゝ向何卒格別の以 御仁意当申より戌迄三ヶ年定免ヒ御申付ヒ成下置い様此段連印書付を以偏に奉願上ゝ

以上

右村上組
百姓代 板 坂 弥 平
組 頭 布 川 万次郎
〃 嶌 田 久五郎
下組
百姓代 山 本 勘 平
〃 阿 部 与 吉
組 頭 板坂 佐五兵衛
〃 宮 地 孫三郎
〃 宇野 仁左衛門
〃 田 代 佐 七

明治五年壬申
（一八七二年）
明治五年
壬申二月

山形縣
御役所

五一、

質屋渡世年季継願書

元治元子年より
明治四未年季明
一質屋株
此御冥加永弐百弐拾文　但継年季増永
内永弐拾文
但当申より巳迄　十ヶ年季

同断
一質屋株
此御冥加永弐百弐拾文　但継年季増永
内永弐拾文

但右同断

同断
一質屋株
此御冥加永弐百弐拾文　但継年季増永
内永弐拾文

右　村
当御管内
羽前國村山郡
六番　松橋村下組
宮　地　治　兵　衛

同　村　同　組
秋　場　文　藏

同　村　上　組
堀　米　養　意

但右同断

右は廣屋株継年季精々増永仕奉願上〆に付書面の通御聞届ヒ成下置度此段乍恐奉書上〆以上

右村
願人　宮地治兵衛
同所　秋場文蔵
同所　堀米養意
組頭　宮地孫三郎
〃　布川万次郎

明治五年壬申
（一八七二年）

明治五年
壬申三月

山形
天童
御出張所

五二

乍恐以書付御届奉申上〆

当御管内ヲ四大区小七区左の者共一同奉申上ハ当区村々物産繁盛仕度重立百姓共奮発勉強仕桑茶植立追々養蚕茶製等を起し無作無業の者一般営業為致度就中吉田村の義は畑勝の故歟連年米価高値村内損に困窮仕ハ向多分桑植立養蚕の大利を為得度尽力罷在尤堀米要柴田弥壬申、壬申ハ明治五年

以来格別丹精仕桑苗数千本植付盗難為豫防番小屋設立相応の年給を以番人相雇着置い処過般御届奉申上く通右小屋江火を附焼拂いに付相糺い得共何者の仕業にい哉不相分無拠猶又小屋造作仕更に番人を相雇為見廻置い得共手廣の耕地悉くは不行届去年来桑苗十本二十本宛盗取木は抜き捨い分も不尠且夜中桑葉処々多分に盗コキ取い義に付追々聞糺手掛り有之ハは、速に御訴可申上と心配罷在い処当月十四日番人見廻に罷出い留守中右小屋壁障子等散々打破り住居難相成様仕右吉田村小前の者共追々営業可相成と多分相悦罷在い得共何者にい哉不良盗人有之番小屋等ヒ取設いては我意の通不相成より右様の所業仕い義と奉存夫々相糺い得共不相分前、奉申上く通桑植付い義はヌ一御趣意を奉戴し且は貧村を更に富実仕い様致度多分の金差出植立方精々罷在い処聊の事とは乍申自然尽力の気込も相弛ミ物産繁殖の妨害可相成と深く歎息仕前段の次ヌ御届旁奉申上く　以上

第四大区小七ノ区
松橋村
二等戸長　堀米　要
二等区長　柴田　弥
吉田村
副戸長　渡部善次郎
同村
戸長　細矢条治

明治七甲戌年
正月十七日

明治七甲戌年
（一八七四年）

山形縣権令　関口隆吉殿

五三

記

一籾千五百三拾壱石七斗六升

此代金千百七拾壱円七拾九銭六厘

但入札直段籾壱石ニ付
金七拾六銭五厘ツヽ

右は其区内柴橋村積穀先般入札拂申達ハ処元積出ハ村々より拂受度旨申出入札を以願出ハ向
格別の訳を以前書之通払下ハ条前書金高早々取纏上納可致此段相達ハ也

明治七年
（一八七四年）

明治七年五月十七日

租税課

五四

第四大区小二ノ区

区長副

別紙の通御達相成ハ条明二十一日午前ヤ八時迄無御名代御出張ヒ成下度此段御依頼申上ヽ也

明治七年
（一八七四年）

明治七年
五月廿日

第四大区小二ノ区

小六区
御区長　西川耕作様
松橋村　堀米要様

区長　渡部藤右エ門

第四大区七小区
松橋村　堀米実

上書願書

本文の趣願出ハヽ付検印仕ハ以上

第四大区小七区々長
細矢巌太郎

五五、

乍恐以書付奉願上ゝ

私儀

兼て病院御資本金として金五百円献納願の上勝手を以永拝借罷在ハ処今般特別の御詮議を以本年の七月より更に無利息拾ケ年賦上納可ヒ仰付段御達の趣拝承難有仕合ヨ奉存ゝ仍之別紙証書奉差上ハ条最前差上座ハ証書ヒ御引替ヒ成下度此段奉願上ゝ　以上

明治八年
（一八七五年）
十二月

第四大区七小区
松橋村　堀米実　印

前書の趣願出ハヽ付奥印仕ハ以上

古同村戸長　堀米要　印

書面願の趣聞届証書引替下戻し置事

明治八年十二月廿五日

権令 開口隆吉 代理

山形縣七等出仕 河野通倫 印

五六

乍恐以書付再御届奉申上ゝ

第四大区七小区松橋村堀米実奉申上ゝ当四月二日午後十一時私屋敷内居宅より四十間余相離ゝ藁小屋壱ヶ所焼失仕ゝ二付副戸長宇野仁左エ門より其段御届ヶ申上ゝ処右は取急きゝ故乱方不行届盗賊の仕成にもゝ哉判然不仕旨申上ゝ処跡にて篤ヒ相糺ゝ処同日日雇に参り居ル宇野富蔵右小屋江縄仕事に参り煙草火持参の処ヲ方其侭引取ゝ二付右火鉢より出火に相成ゝ段分明ゝ二付乍恐此段再御届奉申上ゝ 以上

明治九年四月六日

右 堀米実

山形縣七等出仕 河野通倫殿

明治九年（一八七六年）

五七

第四大区七小区
松橋村堀米寅方当時雇人
同区同村十七番地借地居住
農　宇野富藏
五拾弐才六ヶ月

禅宗

自分儀明治九年四月二日夜堀米寅屋敷内に有之小屋壱ヶ所焼失仕い仕末御召に御座て
此段私儀兼て堀米寅方江雇人にて農稼罷在い処本年本月二日雇主寅居宅より四拾間余相離
れい小屋江て藁仕事致居其節同所江兼末の瀬戸火鉢持行煙草を呑午後六時頃其場江其侭差
置引取い処右小屋江は別段囲等も無之儀に付聊吹風にて右火鉢江藁飛入夫より火気移り及
出火に小屋壱ヶ所焼失仕い義相違無御座い右者全ク兼コッの取扱仕いより出火及焼失い段
重々奉恐入い
右之通相違不申上い　以上

右　宇野富藏

明治九年
（一八七六年）
四月十日

山形縣七等出仕　河野通倫殿

羽前國村山郡松橋村
堀米寅屋人
宇野富藏

其方儀本年四月二日雇主実方物置小屋ヨテ薫仕事致ス砌火鉢持入リ其侭差置ニ付午後大時頃ニ至リ火鉢より自然薫江火移リ終ニ右小屋及焼失科改定律令第弐百七十四條ニ比照シ徴役三十日の贖罪金弐円弐拾五銭申付ル

但贖金ハ五月以内可納事

明治九年四月十一日

四ノ第五十号	納人	松橋村 宇野富蔵
一金壱円弐拾五銭	摘要	
右正ニ請取候也		
明治九年四月十一日		山形縣裁判所

本文之趣願上奏ニ付検印仕奏以上

第四大区小四区　区長　入向　昇　印

五八

乍恐以書付奉願上〻

第四大区小四区　吉川村地内

新山神社元朱印地

一反別　弐反五畝弐歩

内訳ケ

字五百十番　中田壱反三畝廿六歩

字五百三十六番　中田五畝拾三歩

字六百廿九番根際　田六畝三歩

字六百五十四番根際　田　廿歩

右は第四大区小四区吉川村新山神社元朱印地上地之分去ル文政午年正月中別紙確書之通同村右衛門四郎ヨリ譲受所持来リ矣ニ付何卒出格之以御詮議無代価ニテ私江御下渡シ被成下置度保証人連印此段奉願上ヽ　以上

第四大区小七区松橋村

願人　堀　米　実

代印　梓　要

保証人　堀　米　直　蔵

明治九年
（一八七六年）

明治九年
九月三十日

山形縣参事薄井龍之殿

前書之通願出候ニ付奥印仕矣　以上

戸長　笹嶋長左エ門　印

五九

學校資金拜借ニ付願書

一金百五拾七円六拾弐錢五厘

右は今般要用の儀有之学校資本金の内拜借仕度尤元利返納の儀は御定規の通違背仕間敷引当物の儀は別紙の通差出申い間此段奉願い也

第二大区七小区松橋村
願人　堀　米　実
同郡同村
請人　堀　米　利四郎

明治九年
(一八七六年)
十一月

山形縣令　三嶋通庸殿

六〇、拜借証書之事

一金百五拾七円六拾弐錢五厘　但　六月十二月両度上納

此利　年壱割

此引当

松橋村地内
百四十六番
字吉田東

一田五反四畝拾四歩

此地価金弐百三拾入円九拾七銭三厘

右者今般要用之儀有之学校資本金之内ヨリ前書ノ引当ヲ以テ拝借仕ル処相違無御座ヽ然上ハ利子上納ハ前書ノ期月元金ハ満壱ヶ年ニ至リ無相違返納可仕ル万一期限ヲ過上納滞ル節ハ引当地券面地所直ニ御引上ヒ成ルトモ一言ノ申分等決而仕間敷依之証書差上ル処如件

明治九年
（一八七六年）

明治九年十一月

第二大区七小区松橋村
拝借願人　堀米　実
同所同村
請　人　堀米利四郎

山形縣令　三嶋通庸殿

六一、

民費課出ニ付伺

村々人民ヨリ民費課出ノ儀ニ付左ノ件々伺出矣向左之通奉伺ル　　私共

一本年二月乙第十五号ヲ以テ御達相成ル民費御課出ノ儀ハ正租五分ノ一ヲ以テ御課出相成ル哉

一民費ト称スル者本年乙第十五号御課出ノ費額ニ限此ヲ民費トナスヤ将タ地価戸数ヲ以テ総テ人民ヘ徴課スルモノ亦民費トナスヤ

乙第十五号御達中

一里保正年給之儀何ヲ以テ民費御課出ナキヤ下民恐クハ惟ク区長ハ其大区中人民ノ惣代戸長ハ一小区人民ノ惣代里保正ハ一町村人民之惣代タリ職務上其事ニ大小アリト虽モ同シク官ト民トノ間ニ在リテ其人民ヲ保護スルハ一也此理ヲ以テセバ里保正ノ年給タルヤ区戸長ノ月給ト民費課出同一タルモ亦可ナラン然ニ其区分アル如何

一民費御課出ノ縣庁修繕費ノ目アリ

一本年民費御課出之儀地價ニ課シテ戸数ニ課セサル何ソヤ夫レ警察区入費ノ如キ人タル者幾分カ其費ヲ出シテ其労苦ヲ酬ハサルノ道理ナキモノトス然ルニ本年ノ民費戸数ニ課セサル其故如何

一官ヨリ徴課スル民費ノ外民費調ノ書目ニ一町人民ニ管スル云々ノ費目アリ其ヲ何ト名ツクルヤ将官ヨリ課出ニナル民費外何程増課アルトモ官是ヲ問サルカ

一当郡置縣以来六七小区ノ区入費ヲ概算スルニ一ケ年金八九拾円或ハ百弐三拾円多クモ百五拾円ニ満タス然ルニ本年区入費之多キ実ニ民費ニ堪エ難シ下民或ハ誤認アルモ何ヲ以テ費額ノ増額アルヤ右之趣私共村々人民ヨリ伺出ルニ付無余儀奉伺ル間何分之御指令ヒ成下度此段奉伺ル也

明治十年三月五日　　第二大区六七小区　村々連印

明治十年（一八七七年）

山形縣令　三嶋通庸殿　代理

山形縣大書記官　薄井龍之殿

書面伺之件々太政官　第五十三号公布も有之
本年六月迄は適宜賦課ハ義と可相心得置事
明治十年三月廿三日

六二、民費課出之義ニ付願

第二大区六七小区村々私共一同奉願上ハ凡ソ百般ノ公費タルヤ一般ノ人民江之ヲ課ス人民又之ヲ納出スハ今日人民タルモノ、義務然レトモ地価ニ課スベキモノアリ戶数ニ課スヘキモノアリ本年乙第十五号民費御課出ノ御達ニ因レハ公明ナル縣广ニ於テ深キ御主意モヒ為在御課出ニ相成ハ儀ト奉存ハヘハ一小区一小村細民私共ニ彼是可奉申上儀ニハ無御座ハ得共恐ラクハ之ヲ云ハン夫レ区戶長ノ月給大小区ノ費用及警察費ノ如キ道理上幾分カ戶数ニ課ス人民モ本此費ヲ出スハ至当ノ事ト奉存ハ之ニ依テ地価戶数ノ分折課出法御施行ヒ成下度奉存ハ且区費ノ儀或ハ其所以アルモ本年太政府第一第二号公布ニ因レハ日ヲ追テ費用制減相成ハ義ト奉存ハ得共本年乙第十五号ノ御課出ハ当郡置縣以来ノ増額尤凡百ノ公費渾テ地価ヲ以テセラル農民納收ノ苦忘ル、日ナシ実ニ困却仕ハ間何平右難渋ノ事情御洞察ノ上大小区ノ費用ヲ制限セラレ幾分カ戶数江賦課相成ハ極速ニ御聞届御施行ヒ成下度此段一同奉願上ハ也

（朱筆ニテ）書面之趣第一條区費戶数割の儀は一應尤之次第ハ得共一区一村の都合を以テ今更御改正相

成い儀無之道理上戸数ニ課ス云々縦令借家之者と雖モ借料ヲ差出家主石金円ヲ以テ区費ニ充ル上ハ幾分ノ当リ有之筈事務取扱上ニ於ケルモ戸数ニ課シいテハ不都合ふ容易村落モ有之儀ト存い一応廣リ管内ノ便宜ニ着目更ミ伺出い儀ト可相心得い事オ二條一号二号ノ公布且置縣以来ノ増額ト記載有之ハ文意相当ラスオ廿三号御達ノ通区費節減ハ後半年ト可相心得今日ニ於テ論議主張スル権理聊無之事オ三條区費節減ノ儀ハ即今取調中ニ付追テ調書可觸示い事

但一小区五百円ト有之分大低弐百五十円位ニ見込致事

前書ノ通可有之進達ニモ無詮次第先以本紙及返附い也

明治十年四月廿四日　　服部副区長

見留印

明治十年
（一八七七年）

六三、

委任届

私共儀

今般民費正租五分ノ一ヲ以里保正給料ハ勿論村費共悉皆消費相成い様其筋へ上申イタシ呉い段オ二大区一小区西根村小野真萩殿同区五小区海味村佐藤里治殿同区大小区西里村西川耕作殿右三人江懇願いニ付テハ時トシテ照会等相成い節ハ何分可然様御答議ヒ成下度依頼ミい依之一同連署ヲ以委任書差出申処如件

但惣代旅費日当共金七拾弐ツヽ其他右江関スル諸費一切可差出事

明治十年
（一八七七年）

明治十年八月三十一日

山形縣羽前國村山郡
第弐大区七小区松橋村

堀米寅印
堀米直藏〃
堀米利四郎〃
宮地治兵衛〃
宮地啓藏〃
秋場文藏〃
宮地文七〃
布川万次郎〃
板坂佐五兵衛〃
黒坂伊七〃
堀米養意〃
堀米四郎治〃
中野与藏〃
阿部興吉〃
斉藤吉兵衛〃
阿部太兵衛〃
宇野佐平治〃
小野長兵衛〃
斉藤清之助〃
内藤金三郎〃
嶌田久五郎〃
青山小助〃

第二大区七小区
小区惣代人
大町村
柴田彌殿

斉藤勘兵衛
細矢九十郎

六四

委任状

私共儀

今般委任候儀ハ民費正租五分ノ一ヲ以テ里保正給料ハ勿論村費共悉皆消費相成ル様各位ヨリ其筋ヘ何分上申ノ末速ニ御施行相成ル様願ニ候然ル上ハ右事件ニ付何様ノ義立至リル共取申分等決而無之ル依之一同連署ヲ以委任書差出申処如件

明治十年八月三十一日　山形縣羽前國村山郡
第二大区七小区松橋村

第二大区壱小区
西根村
小野眞萩殿

同区五小区
海味村
佐藤里治殿

同区六小区
西里村
西川耕作殿

明治十年
（一八七七年）

六五、

民費之儀ニ付伺

一明治六年太政官第弐百七十弐号及昨明治十年第弐号郡村費トスル正租五分一民費ノ儀大小区区費及警察費等ニノミ止ラス必ラス一町一村ノ事務ニ係ル定用民費トスルモノモ亦郡村ノ部分トナルハ論ヲ待タス此理ヲ以テセハ各町村ノ費用ハ一般五分一ヲ以テ支給可相成筈然ルヲ昨十年村費ヲシテ別途協議費ニ附スルハ人民ニ於テ了解難仕ニ付其事由御示ニ相成度

一本年乙第六号ヲ以テ十年度後半ヶ年民費概算御課出科目ノ内堤防橋梁費ノ儀ハ素ヨリ御成規ノ通リ土木起功ノ協議ニ因ルヘキモノニシテ仮令五分一民費ヲ以テ支消スルモ各勉代人ノ協議ニ附シ其承諾ヲ得サルベカラサルモノト各人民ニ於テ確認仕ニ依之右費用ハ概算科目ヨリ御除キ相成度

一正租五分一民費ノ儀客幾丙第十七号ヲ以テ緩急民費ヘ適宜支消スヘキ旨御達相成ニ得共素ヨリ適宜消費スヘキ民費ニハハヽ何ヲ以テ概算民費御課出アルヤ尤御達ノ通リ適宜消費スヘキ民費ナラハ概算ヲ以テ御徴課アル理由ナシ然ラハ概算科目外ノ費用ハ多少ノ贏余ヲ向ハス一応下民ヘ御下向ノ上消費スルハ当然ノ事ト奉存ヽ先以縣广新築师範学校建築費用ノ如キ皆是土木起功ノ協議ニ憑ルベキモノニシテ前條堤防架橋費ト同シク五分一ノ民費ヲ以テセラレニテハ下民ニ於テ敬服難仕義ニ付右費用ハ更ニ協議ニ附シ別途御課出相成度右之趣奉伺ニ付何分御指令相成度此段奉伺候也

明治十一年
（一八七八年）

明治十一年
二月廿四日

山形縣令
三嶋通庸殿

第二大区一小区
楯南村　安孫子久右衛門
楯西村　佐藤清七
西根村　安達市兵衛
同　大区二小区
米沢村　工藤八之助
八鍬村　国井門三郎
同　森谷与兵衛
柴橋村　安孫子傳四郎
同　大区三小区
左沢村　山家孫四郎
同　大区四小区
貫見村　松田助太郎
同　大区五小区
睦合村　長登山人
同　大区六小区
田井村　今田弥五兵衛
同　大区七小区
新町村　槇長
上工藤小路村
同　大区八小区
宇井鶴之助
大槇村　高橋勝兵衛

六六、

舊藩學制沿革取調ニ付上申

谷地組合大町外十ヶ村ハ領主各々相異ルアリ　即チ大町松橋上工藤小路新町ノ四ヶ村ハ幕府領北口下工藤小路吉田岩木新吉田ノ五ヶ村ハ戸沢領前小路荒町ノ二ヶ村ハ秋元領ナリ虽然村内一二ノ学識者アレバ何ノ領ヲ論セス皆混同シテ子弟ノ教育ヲ請ヒ而シテ授受スルガ故ニ其学制ニ至テハ聊カモ異ナルナシ依之別紙之通一紙ニ取調以連署上申奏也

明治十六年八月三日

西村山郡岩木村戸長　松田　緑郎
仝郡吉田村新吉田村戸長　鹿野　武右衛門
仝郡北口村戸長　伊藤　豫
仝郡下工藤小路村戸長　竹谷　政吉
仝郡上工藤小路村戸長　宇井　鶴之助
仝郡大町村戸長代理係　菊田　陌
仝郡新町村戸長　髙橋　伊左ェ門

明治十六年
（一八八三年）

西村山郡長
吉見　輝　殿

仝郡荒町村戸長
石川　保　三

仝郡松橋村戸長
堀米　要

舊藩学制沿革取調書

舊内学事上ノ諸制度

舊主ノ布令諭達及ヒ学業上進ノ者ニハ加役米又ハ引米等ノ名義ヲ以テ徴課セン間接ノ禄税ヲ免除スルカ如キ奨励法等スル民ヘハ無之

士族ノ子弟教育方法

本民ノ子弟教育方法

家塾子屋ニテ修学セシノミ舊立学校ヘ入学スルヲ許可セシコトノアルヲ聞カズ又農民等ハ学事ニ従事スルヲ禁止セシコトモナシ

家塾寺子屋設置ノ制度

家塾寺子屋ヲ開設スルニ奉行郡宰里正等ノ許可ヲ受ケシ事ナク或ハ他ノ検束ヲ受クルナシ学識ノアル者ハ自由ニ開設シタリ

舊藩立学校取調要項

学校名称

領内ノ村落ニハ学校ト称スルモノ無カリキ

校舎所在ノ地名

前仝上

沿革要略

前仝上

教　則

前仝上

学科学規試験法及諸則

前仝上

職名及俸禄

前仝上

職員概数

前仝上

生徒概数

前仝上

束修謝儀ノ有無

前仝上

学校経費

前仝上

舊主臨校
前仝上
祭儀
前仝上
学校構造及建物図面
前仝上

舊藩領地内家塾寺子屋
取調要項

名称
名称ヲ附セシモノ無カリキ
所在地
新町村　大町村　北口村　岩木村
塾主氏名
槙藤左エ門　和田利兵衛　田原純達　大倉松峯　石垣吉十郎
学科
修身　讀書　作文　習字
教師ノ数
一塾　壱名ニ限ル

生徒ノ概数

一塾ニ付盛ナリシ時五拾名ニ過キス　衰テ廿名下ラス

授業ノ順序

習字　讀書　習書　修身　作文ハ稍生長者ニ隔日コレヲ授ク

教科用書

初登山　商賣往来　実語童子教　庭訓往来　四書　五経　唐詩選　文選　左傳

学習年限

七年乃至三年

束修謝儀

壱ヶ年金弐朱ヨリ壱両

歳末ニ至ッテコレヲ納ム

塾生ノ行事及著書藏書ノ種類部数

其著シキ行事及著書等アルヲ見ズ

藏書ノ如キハ四書五経唐詩選文選左傳漢書史記等

四書五経ノ如キハ二部或ハ三部モ藏スルモノアリ

塾生ノ身分

平民里正ノ職ニ付キタルモノ或ハ醫師

沿革及雑事

安政年間　極メテ盛ンナリキ

調査セシ事実計数ニ関スル年代
村落家塾ノ如キモノハ領主代官調査セシコトナク唯学制御領布達ノ各目視スル處ヲ以テ之
ヲ調フ

第三部

まえがき

旧松橋村名主堀米四郎兵ェ家には、同村及び広く村山地方に関係する記録や文書類が、いわゆる役筆笥に沢山保存され、郷土史研究家のために、度多く利用の機会を与えられて来たことは、さぞ御迷惑のことであったろうと思うと同時に、感謝に堪えない所である。

前集逸見委員の筆写になったものは、概して堀米四郎兵ェの名主としての、或は地方の分限者としての動きが中心となっているが、第三部は今田委員の借覧したもので、松橋村の経済事情の極く一部を窺う資料である。手元にはこの外に筆写されたものがあるが、これらは他に引用しているので、この部の中から除いてしまった。また農兵関係の資料等は、他の方が研究資料として利用し、既にその成果を世に向うているので、これらも割愛した。

現在のような世相で、村々に残る役筆笥の中の大切な資料が、どしどし散いっして行くことは、町誌編纂を急いでいる我々にとって、此上もなく困ったことであり、残念なことでもある。従って瑣末であると思われる資料でも、このような形で残すことは、急務中の急務である。（今田信一）

昭和三十四年一月

河北町誌編纂委員会

堀米四郎兵衛文書一覧

順位	頁	年月日	紀元	宛先	差出人	内容等
一	142	元禄三年	一六九〇	庄屋惣百姓	小野朝之亟	松橋村善兵エ組午御成箇割付
二	146	享保六年	一七二一	名主惣百姓	柘植兵太夫	松橋村丑御年貢可納割付之事
三	150	〃十年	一七二五	名主、百姓	森山勘四郎	松橋村皆済目録
四	153	文政十年	一八二七	奉行所	堀米四郎兵エ	金子返済相滞いに付出入
五	155	天保四年	一八三三			御普請所用水路掛組合村〻取締議定書
六	159	弘化四年	一八四七	寒河江役所	松橋村百姓	根際山一件に付歎願書
七	163	慶応三年	一八六七	長岡役所	松橋村役人	諸運上冥加納高其外書上帳
八	167	〃四年	一八六八	両所組伝四郎	堀米要之助	借用證文
九	167	不明 亥年		堀米要七	肉山、清野清吉	煙草売買約定
一〇	169	不明 未年		寒河江役所	堀米四郎兵エ	芝居興行に付申渡書

一一	170	明治五年	一八七二	第廿六区会所	松橋村役人	私分総計
一二	172	〃 〃	〃	山形県天童出張所	仝	桑茶取調書上帳
一三	173	〃 〃	〃	仝	仝	雑税取調書上帳
一四	175	〃 〃	〃	山形県役所	仝	年中物産取調書上帳
一五	178	〃 六年	一八七三	養蚕人惣代	蚕種世話係	蚕種掃御税
一六	179	〃 〃	〃	関口隆吉	松橋村業者	生糸売買鑑札下附願
一七	180	〃 七年	一八七四			医師調
一八	181	〃 八年	一八七五	松橋村役人	松橋村々民	地租改正に付上納方御請書
一九	182	〃 九年	一八七六	区役所	堀米 要	民費取調書上
二〇	184	〃 十年	一八七七	薄井龍之	細矢 藤助外	道路開鑿之儀に付延期願
二一	185	〃 十一年	一八七八			人力車調
二二	186	〃 十五年	一八八二	西村山郡長	堀米 実	陶器屋根瓦営業中止届
二三	186	不明				地位評決

一

出羽国谷地領松橋村善兵衛組午御成ケ割付事

一高七百九拾七石壱升三合　田畑屋敷共

此取米弐百弐拾弐石五斗三合

此反別

上田七町三畝弐拾五歩

内　三畝弐拾七歩　前〻川欠引

壱町八反三歩　当午悪毛引

残五町壱反九畝弐拾五歩

此取米六拾弐石九斗　壱反壱石弐斗壱升取

中田拾壱町弐反九畝拾弐歩

内　壱反三畝弐拾弐歩　前〻川欠引

五畝九歩　日損付荒引

弐町六反三畝弐拾弐歩　当午悪毛引

残八町四反六畝拾九歩

此取米九拾八石弐斗九合　壱反壱石壱斗六升取

下田三町弐畝歩

五畝弐拾歩　日損付荒引
内
五反八畝四歩　当午悪毛引
残弐町三反八畝六歩
此取米弐拾六石四斗四升　壱反壱石壱斗壱升取
下ミ田七反七畝弐拾歩
内壱反九畝九歩　当午悪毛引
残五反八畝拾壱歩
此取米六石壱升弐合　壱反壱石三升取
田小以弐拾弐町壱反弐畝弐拾七歩
上畑壱町七反八畝三歩
内七畝拾壱歩　前ミ砂置引
残壱町七反弐拾弐歩
此取米八石七斗弐升四合　壱反五斗壱升壱合取
中畑壱町七反七畝弐拾五歩
内
九畝六歩　前ミ川欠引
七畝拾弐歩　前ミ砂置引
残壱町六反壱畝七歩
此取米七石三斗三升六合　壱反四斗五升五合取
下畑四反四畝弐拾三歩

此取米壱石七斗七升　壱反三斗九升六合取
下〻畑壱畝弐拾九歩
此取米六升七合　壱反三斗四升取
屋鋪壱町九反四畝弐拾四歩
此取米拾壱石四升五合　壱反五斗六升七合取
畑小以五町九反七畝拾弐歩
一高拾六石五斗五升三合
此取米七石六斗六升　同所新田
此反別
中田弐反四畝弐拾壱歩
内九畝六歩　当午悪毛引
残壱反五畝拾五歩
此取米壱石弐斗四升　壱反八斗取
下〻田壱反壱畝弐拾五歩
内弐畝拾三歩　当午悪毛引
残九畝拾弐歩
此取米五斗六升四合　壱反六斗取
田小以三反六畝拾六歩
中畑壱反六畝六歩

此取米四斗五升八合　　壱反弐斗八升三合取

下畑弐町七反九畝七歩

内四反八畝四歩　　前〻砂置引

残弐町三反壱畝三歩

此取米五石弐斗四升六合　　壱反弐斗弐升七合取

下〻畑八畝弐拾八歩

此取米壱斗五升弐合　　壱反壱斗七升取

屋鋪弐畝弐拾歩　　御蔵屋鋪引

畑小以三町七畝壱歩

取米合弐百三拾石壱斗六升三合

外

一永七拾九文　　年〻高下　柴売銭

一漆五拾三文　是八前小路村御林下草買請永納如斯　　年〻高下

一漆〻実　　同　断

右之通村中大小百姓不残立会勘定仕来ル極目十日以前急度可致皆済者也

元禄三年午十一月　　小朝亟

庄屋

惣百姓中

享保六年（一七二一）

二

松橋村双御年貢可納割付之事

一、高七百九石七斗壱升三合　　名主　九郎右エ門組

此反別弐拾八町壱反九歩

内　弐拾弐町壱反弐畝廿七分　　田方

五町九反七畝拾弐分　　畑方

此わけ

上田七町三畝廿五分

内壱反歩　　前ゝ永引

残六町九反三畝廿五分

此取米六拾石三斗六升三合　　反八斗七升

中田拾壱町弐反九畝拾弐歩

内弐反五畝拾七分　　前ゝ永引

残拾壱町三畝廿五分

此取米九拾弐石七斗弐升弐合　　反八斗四升

下田三町弐畝分

此取米弐拾三石弐斗五升四合　反七斗七升

下〻田七反七畝廿分

此取米五石四斗三升七合　反七斗

小以米百八拾壱石七斗七升六合

上畑壱町七反八畝三分

五反七畝廿六分　前〻永引

内

壱反三畝九分　去ル戌川欠引

残壱町六畝廿八分

此取米五石三斗四升七合　反五斗

中畑壱町七反廿五分

四反八畝拾四分　前〻永引

内

弐反七畝拾壱分　去ル戌川欠引

残壱町弐畝分

此取米四石五斗九升　反四斗五升

下畑四反四畝廿壱分

此取米壱石七斗八升八合　反四斗

下〻畑壱畝廿九分

此取米六升五合　反三斗三升

屋敷壱町九反四畝廿四分

此取米拾石五斗壱升九合　反五斗四升
小以米弐拾弐石三斗九合
一高拾六石五斗五升三合　同所新田
此反別三町四反三畝拾七分
内　三反六畝拾六分　田方
三町七畝壱分　畑方

此わけ
中田弐反四畝廿壱分　反四斗五升
此取米壱石壱斗壱升弐合
下ミ田壱反壱畝廿五分　反三斗五升
此取米四斗壱升四合
小以米壱石五斗弐升六合
中畑壱反六畝六分　反三斗壱升
此取米五斗弐合
下畑弐町七反九畝七分
内壱町九反六畝四分　前ミ永引
残八反三畝三分　反弐斗六升
此取米弐石壱斗六升壱合

下ミ畑八畝廿八分　　前ミ永引
内四畝分
残四畝廿八分
此取米九升九合　　反弐斗
屋敷弐畝廿分　　郷蔵敷引
小以米弐石七斗六升弐合
外
一永五拾三文　　年賦漆之代
一永拾弐文　　同　同実之代
一永百拾弐文　　年ミ高下柴売銭
米納合弐百八石三斗七升三合
永納合百七拾七文
一米壱石四斗五升弐合　　六尺給米可納
一米五斗八合　　伝馬宿入用可納
右ゟ当丑御成箇如斯相定候村中大小之百姓並出作之者迚不残立合無高下割之来ル極月十日限
リ急度可皆済者也
享保六年丑十月　　拓　兵太夫
羽州村山郡松橋村名主惣百姓

（裏）
右御割付之趣惣百姓慥ニ拜見仕い以上
十月
名主九郎右エ門
組頭　善太郎　惣右エ門　勘十郎　弥吉　吉右エ門
長百姓　孫左エ門
平八　清五郎　平兵衛　長兵衛　東蔵　弥左エ門　作右エ門　作兵衛　弥五兵衛
八蔵　太郎三郎　五郎右エ門　庄左エ門　勘兵エ　市兵エ　惣五郎　庄三郎
次兵エ
以上
25人

享保十年（一七三五）

三

皆済目録

高七百弐拾六石弐斗六升六合

羽州村山郡
松橋村
九郎右衛門組

一米弐百拾四石四斗六升弐合　本途
一米壱石四斗五升三合　六尺給
一米四斗三升六合　御伝馬宿入用
一永拾壱貫百八文四分　畑米之内金納
此石弐拾三石壱斗壱升八合
此斗立弐拾四石四斗三升九合　但金壱両之斗立弐石弐斗替
一永壱貫八百拾五文　高掛金
一永壱貫三百九拾壱文六分　丑夫食拾ヶ年賦辰年分上納
一永百七拾七文　小物成
一永七分　高掛金納不足之分
合米弐百拾六石三斗五升壱合
永拾四貫四百九拾弐文七分
右納次第
米百八拾三石六斗六升弐合七勺　江戸御蔵納
米九石壱斗八升三合壱勺　谷地河岸ゟ酒田湊迄川下賃米百俵ニ付五分
荏七斗弐升六合　江戸御蔵納
此代米三斗六升三合　但米壱升ニ荏弐升替
米弐升四合弐勺　右同断川下ヶ賃五分
米弐拾三石壱斗壱升八合　但米壱俵ニ荏壱俵半之積り金納ニ成

永拾四貫四百九拾弐文七分

納合 米百九拾弐石八斗七升
荏七斗弐升六合

永拾四貫四百九拾弐文七分

外永五百文

米六石四斗三升四合

永五文四分

右者去辰御年貢米永並小物成口米永共令皆済者也

享保拾年巳五月

森勘四郎

右村

名主

百姓

紅花荷出役

口米

口永

口〻納

文政十年
（一八二七）

四

乍恐以書付御訴訟奉申上ゟ

池田仙九郎御代官所
羽州村山郡松橋村
百姓四郎兵衛煩ニ付
代弟
訴訟人　七郎兵衛

一、先納金并御書替米引原ニ而
貸付ゟ金子両様へ返済相滞ゟニ付　出入
戸沢大和守様御領分
同州同郡工藤小路村
庄屋
相手　工藤弥次右衛門
右同断
北口村
庄屋
〃　細矢　儀七
右同断　大久保村

庄屋
同　井沢　吉内
右同断　湯野沢村
庄屋
同　海老名権左衛門
右同断　吉田村
庄屋
同　渡辺　今内

右訴訟人四郎兵衛煩ニ付代弟七郎兵衛奉申上い儀ち去ル文政五午年十二月中工藤小路村北口村吉田村三ケ村江同六未年御物成米之内先納金被仰付い處右村〻百姓御上納方難澁之由ニ而右三ケ村役人共申合吉田村御高千三百五拾石余之場所引屋ニ差出シ返済之儀ち未〻御物成米村〻ゟ取立先納御直段を以元利代米相渡し返済可申約定ニ而則新庄御役人武田藤吾殿奥印被差出いニ付金子弐百両才覚仕貸付申い猶又同年十二月中工藤小路村大久保村湯野沢村三ケ村江川下ケ米之内急速代納被仰付い処是又村〻百姓難澁之由ニ而右村役人相談之上村〻郷蔵江取立米之内引屋として御書替米千弐百俵右村〻郷蔵江立会員数取調差出金子才覚致呉い様達之賴入返済之儀ち翌未年三月晦日限り無相違返済可申約定ニ而右三ケ村江金子弐百両才覚貸渡申い処右両様貸金約定を相変し返済相滞いニ付再応懸合い得共右村〻庄屋共内〻申合い儀も可有之哉ニ而一ケ村も返済不仕愚昧之私儀と見掠押倒い所存と相見江歎敷儀ニ奉存い向国元支配御役所江相願御添翰を以相手方御領主新庄御役所江去戌十月中願出い処相手方之者共

被召出当亥六月迫追〻御糺之上済方御利解有之ハ得共一圓相済不申右金相滞ハ而ハ百姓相続方ニ相拘リ難儀至極ニ奉存恐多ハ奉存ハ得共最早難捨置無是非今般御訴訟奉申上ハ何卒以御慈悲を相手方名前之者共並加判人一同被御召出遂〻御吟味之上両様共済方被仰付被下置度偏ニ奉願上ハ則右村〻證文写並明細仕譯書相添奉差上ハ尚御尋之儀も御座ハハヽ乍恐口上を以可奉申上ハ　右願之通被仰付被下置ハハヽ難有仕合ニ奉存ハ以上

池田仙九郎御代官所
羽州村山郡松橋村
百姓　四郎兵衛煩ニ付代弟
訴訟人　七郎兵衛

文政十亥年五六月

御奉行所様

五

御普請所用水路掛組合村〻取締議定書

議定書之事

御普請所用水路普請仕法不取締ニ付今般組合村〻一統集会評議之上取締議定致ゟ處左之通

一、大堰惣見分并普請觸莚觸等堰年番名主共ゟ廻状差出ゟ節無遅滞早〻順達可致事

但莚觸之節日限通不差出ゟ而ち差支ゟニ付無失念差送り可申事

一、堀浚并樫石入築立普請有之節年番ゟ觸廻状之通早速堰口江村役人共出張丁場割引受ゟ上拱人足差出致出情普請出来ゟ様可致ゟ尤丁場引受ゟ而も村〻勝手ニ人足差出ゟ様ニ而ち大切之用水差支ゟ而已ならす無益之雑用相嵩之村〻難澁不軽殊ニ年番名主并堰守共数日堰口江詰合迷惑之儀ニ付以来ち無等困早速普請出来用水無差支無益之費不相掛村之難澁相弛ゑゟ様可取斗ゟ級令一ケ村たりとも不出来之村方有之ゟ而ち通水不相成ニ付相怠りゟ村〻之分地元日和田村江為請負早速普請可致事

但請負賃銭之儀ち普請出来次第早速相済可申ゟ尤渡賃銭ハ其村之役ニて取立出銭いたし入作高江割付申向敷事

一、用水路之流末迄茂水際江柳其外之樹木共植付又ち築出し等決而不相成殊ニ川巾狭〆向敷事

一、雪中ニ相成ゟ而も平水ニ而通水相成ゟ様可取斗ゟ通水有無有之ゟ而ち雪ニ而川筋相埋〆其上江致通水ゟニ付平地江水溢れ村ニ寄家毎ニ水湛難澁之場所も出来又ち日〻之用水ニ差支雪中とち乍申火災等も難斗殊ニ郷蔵ち御年貢米入置ゟ時節万一御米焼失等致しゟ而ち不容易儀ニ付無滞通水相成ゟ様可取斗事

一、堰番之儀ち古来ゟ仕来之通廻り番ニ而相勤可申候且村〻組合左之通

大町村下組　新町村　中嶋組

前小路村　高関組　天満組

荒町村

白山堂組　松橋上組　松橋村下組
両所組　大町村上組　工藤小路村
要害村
下工藤小路村
北口北村

メヒ組
外ニ日和田村ヒ堰番除来い
年ゝ急事為取斗ルニ付如期ニか

一普請入用夏暮両割帳兎並年ゝ寄堰守共江合刀等之割帳是迄者堰守共江渡置い得共以来ヒ筋入ニ致し年ゝ帳面書物等入記江書記し先キ年貢ニ相返り可申事

但入用割之節ヒ是迄之通立会名主可為立会事

一堰番給米並堰入用之儀村ゝ江割当之分日限通堰守共江相済可申事

前書之通今般一同集会及熟談取究メい上ヒ聊違犯致間敷い仍而議定書如件

天保四年巳七月

日和田村名主　次郎兵衛
両所組名主　伝四郎
中嶋組名主　重三郎
天満組名主　市郎兵衛
松橋村下組名主　藤兵衛

大町村上組名主弥之助
同　村下組名主利兵衛
前小路村名主平重郎
新町村名主内蔵介
高岡組名主七郎兵衛
荒町村名主五郎左エ門
エ藤小路村名主半左エ門
要害組名主八兵衛
同兼帯組名主半左エ門
北口村在屋儀七郎
下エ藤小路村庄や次右エ門

弘化四年（一八四七）

六　乍恐以書付御歎奉申上い

当御支配所松橋村下組勘兵衛同村上組久五郎外七人惣代右勘兵衛同村上組政吉乍恐奉申上い
私共義元米沢御預所前小路村持字根際山御林之内立木無之場所御料所松橋村工藤小路村荒町
村新町村大町村西里村メ六ヶ村ニ而古来ゟ御役永柴売銭年〻其村〻御割附江組込有之其村〻
江御上納仕所持罷仕い處去ル寅年右前小路ち秋元様御領分ニ罷成いニ付右御林も御領主様江
御渡ニ相成い向御役永ハ前小路村江直納仕い様相成申い且字根際山御林之義ち立木有之表御
林ち前山ニ而伐出持運も宜敷場所ニ而殊ニ山守相附為致盗（マヽ）木罷有い向所〻江御普請所御渡木
等ニ罷成い義有之私共持山之分ち浦山ニ而伐出運方も不自由之土地殊ニ地味悪敷六〻之雑木
も相育兼い場所故近向之者共斗所持仕御役永年〻御上納仕い上ち乍私自林と唱ひ自由ニ所持
仕来殊ニ当根際と申場所人家七拾軒余有之不残農業一三昧ニ而い處畑方ち一切無之田方而已
ニ而い得共直ク平地故綾之空地も無之い向刈稲干立方ち皆ち せ掛ニ而干上ヶ来いニ付右自林
江致出情松木雑木等少〻相立年〻之ち せ木ニ相用小柴ち朝夕之炊ニ相用旁仕来い得共其分江
ち山守共聊構無之事ニ而斯く自由進退仕朝夕之炊出来露命相続仕いも皆公之御仁恵と相心得
常〻申合山焼野火入等之折ち村内早速駈付防方仕御高恩可奉酬ためと差心得子供等迄も申諭
大切ニ相心得させ罷有い儀御座い然ル處去ル寅年秋元様江御渡ニ付而右御領分前小路村山守
清兵衛申聞ヲ以中嶋組名主重三郎白山堂組名主代久太郎申聞ち今般右御林も御渡ニ付銘〻持
山之分皆前小路村江引上ニ相成い向夫ヲ難澁ニいハヽ根際ニ而金弐拾両差出い得ち矢ちり是

迫之通自由ニ為致所持ハ様相成可申段申之ニ付右持山之儀ヲ素ミ進退仕ハ始ヲ譲主江相應之趣意金も差出置ハ義を御私領渡ニ相成ハ迚無謂引上ニ相成ハ訳有之向歎田畑等之事ニ引競ハ得ヲ如何之事と差心得不審ニ存罷有ハ得共銘ミ被引上ハ而ヲ翌年ハ第一大切之御年貢干立も難澁之義ニ付種々相歎松橋村而組外中嶋組白山堂組ニ而都合金九両三分差出是迫之通無異義進退可致旨山中清兵衛并重三郎久太郎立会ニ而申聞ハ向元ッ案堵いたし罷有ハ處無其詮茂刃年以来表御林ヲ嚴重取締いたしハヲ勿論ニ可有之ハ得共自林之分迫嚴敷取斗ニ而自分持山ハ少ミ之ほけ木等伐取ハ得ヲ山刀鎌等奪とられ其上不容易旨ニ而申成し何様之難事も出来ハ哉と人を以相難ハ得ヲ賄賂沙汰ニ相成金弐朱哉壱分ツヽ差出道具もらひ不返ハ而ヲ不相成様成行山際ニ住居乍罷有ほけ柴等他方ハ相調不申ハ而ヲ差支ハ事ニ而第一年ミ御年貢米干立方差支ハ義歎敷仕合ニ奉存ハ吳ミ歎澁申合居ハ折柄先般西里村四ヶ組名主衆一同私共も最寄之事故呼寄申聞ハヲ先達而当御役所様江罷出ハ節被仰聞ハヲ此間秋元様ハ御林一条之儀御掛合有之右之根際山御林並持山之分共御手払ニ相成ハ間持主共心得違有之ハ而ヲ不相済ニ付心得違等不仕様被仰付被下度前廣御掛合可申段御断有之向其旨小前之者共一同江可申達旨被仰付ハ段被申聞仰天仕ハ得共御達と御座ハ得ヲ彼是申立ハヲ奉恐入ハ得共右御林際田面沢間〳〵之湧水出来ハヲ皆御林諸木之水気ニ而出来ハ水余程之田面養ひ方ニ罷成来ハニ付弥大切之御林と心得罷有ハ義ニ而既ニ文政度右表御林不残伐木之御下知御座ハ節御林皆伐木相成ハ而ヲ湧水出来不申御田地相続方ニ差支ハ訳申立御聞済之上伐木御差止ニ相成ハ例も御座ハ殊ニ種ミ之難澁差支之儀有之ハ旨名主衆江相談しハ得とも御上意ヲ何様御歎ハ共御取上無之向前小路村江我等共ハ相談し何とか取斗可申旨ニ付任其意相頼ハ後名主衆取斗ニ而銘ミ山ニ向ひ五分

通伐木いたし残五分通拾ヶ年之間勝手ニいたし残木有之ハヽ、御用木ニ御取調罷成ハ間拾ヶ年前ニ引取小苗木植付方可致旨ニ而取究ハ間左様相心得可申段被申聞乍難澁承知罷有ハ然ル處五分通之訳ち先年金子差出ハ者も不差出者も一般之事ニ而ち小前之気受不宜旨ニ而内ゝ混雑罷有前ゝ御料所之節ハ御役永御上納出情仕ち廿木其外ニ相用度相育ハ丹誠ち乍恵木皆立置ハ木江さし込罷有ハを表御林同様ニ伐木相成ハ而ち年ゝ御林永御上納仕来ハ筋ニも相ふれ殊ニ寅之暮山守江金子さへ差出ハ得ち其侭御料所節同様自由所持為致ハ積之約定も相欠何分愚昧之心中ニ落入不申間一同手を廻し聞立ハ處当御役所様江御掛合筋ち持山迫致手払ハ而ち差支有無御尋之趣略承知仕ハ然からち名主衆ハ御達とち甚齟齬仕今更驚入石御尋之御掛合ニ御座ハ得ち何分ニも御歎奉申上御料所節之通ニ而永進退仕ハ様御歎可申上處如何之間違ニ御座ハ哉事実一向相訳不申十方ゝ暮ハ次第ニ而大勢之小前日夜打寄相歎罷有ハ尤自林所持之分ち東根附大町村新町村柴橋村附当御陳屋附松橋村私共一同所持仕ハ間当御役所様江ち御掛合可有御座筈乍恐奉存上ハ未タ御通達無御座ハ哉如何之義と乍愚昧心躰ニ落入不申ハ何分先之通御料所節之御取斗ニ無之前奉申上ハ通材木相成ハ而ち水気薄湧水減しハハ、大切之御田地相続方差支殊ニち年ゝ御年貢米ニ立方ニ差支朝暮之薪ニも困入寔ニ難澁差迫御百姓相続方ニ相拘ハ間不奉願恐も今般御歎願奉申上ハ何卒格別之御仁恵ヲ以御料所節之御取斗ニ而御田地相続無差支様罷成右人数銘ゝ永所持進退仕ハ様御救被下置度段乍恐秋元但馬守様漆山御役所江御掛合被成下置ハ様幾重ニも御慈悲之程御歎奉願上ハ

右願之通御掛合被下置ハハ、大勢百姓一統難有仕合ニ奉存ハ以上

弘化四年未七月

石井勝之進様
寒河江
御役所

松橋村下組
百姓
勘兵衛
仝村上組
組頭
久五郎
百姓
勘十郎
〃
三石エ門
〃
弥兵衛
〃
与吉
〃
小助
〃
佐兵衛
石入人惣代
松橋村下組
百姓
勘兵衛
同村上組
〃
政吉

前書之通御歎願奉申上ハニ付奥書印形仕奉差ハ以上

松橋村上組名主　四郎兵衛

同　村下組組頭　仁左エ門

七

諸運上冥加納高其外書上帳

慶応三年（一八六七）

覚

羽州村山郡
松橋村下組

一運上永冥加永上納　無御座ハ

一水車　右同断

亥ノ巳迄七ヶ年季
一厩屋　弐軒　稼人　治兵衛

此冥加永四百文

冥加永不相納分
一醤油造　弐軒　三拾石造　稼人　治兵衛

右同断
一酢造　壱軒　弐拾石造　同　治兵衛

右同断
一油絞　壱軒　壱ケ年　弐拾石　同　文七

一紙漉　無御座い

一楮　右同断

一桑　右同断

冥加永無年期
一永八拾六文

此木数五拾本　漆代

一永十九文　実ノ代

一茶株　無御座い

一藍作　右同断

一温泉　右同断

一蒸湯　石同断

冥加永不相納分
一大工　壱軒　稼人　辰五郎

同　文蔵

一髪結床　無御座い
異加永不相納分
一湯屋　壱軒　同　寅藏
右同断
一家根葺　弐軒　同　藤助
同　與兵衛
一船来渡世　無御座い
一猟師　右同断
異加永不相納分
一商人　三軒　紅苧　農間稼人　仁左エ門
大物見世荒物　同　文藏
荒物　同　八兵衛
右同断
一煙草刻　弐軒　同　與助
同　勘兵衛
右同断
一畳師　壱軒　同　惣吉
右同断
一菓子屋　壱軒　同　嘉兵衛
右同断　同

一八百屋　壱軒　長兵衛
右同断　壱軒　拾石　同　三吉
一桃屋
右同断　弐軒　同　伊之助
一木挽　同　藤五郎

右者当村諸運上冥加納高其外余業稼取調ハ処書面之通ニ御座ハ外相洩ハ品無御座ハ以上

慶応三卯年九月

当御支配所
羽州村山郡
松橋村
百姓代　勘平
組頭　佐七
同　仁左エ門

長岡
仮
御役所

八

借用金證文之事

一金百両也

右者庄内鶴ヶ岡ニおゐて無余議要用之義有之貴殿に頼入書面金百両只今慥ニ受取借用申処実正也尤返金之義ハ國許ニおゐて無相違返済可仕ハ為後日借用証文仍而如件

慶応四辰年五月廿五日　　松橋村

両所組　　金借用人

酒田湊出役　　堀　米　要之助

伝　四　郎　殿

源　太　郎　殿

九

覚

一のし煙草　拾弐メ五百文
内五百匁　風袋引
残り拾弐メ目
此斤七拾五斤
代金壱両壱歩也
一連葉煙草　七拾七連
代金壱両三歩也
元メ金三両也
内壱両也　受取申ハ
右之通売上申ハ処相違無御座ハ残弐両之儀ヲ野田染屋様着之砌ニ而御渡被下ハ約定也此表書
入出入相違無御座ハ以上

関山村
清野清吉

亥十一月廿一日
沢畑村
要七様

不明

一〇

御尋ニ付乍恐以書付奉申上ル

私共村方ニ而芝居興行有之趣御風聞被及御聞御尋被仰付御尤ニ御座ル石芝居いたしル場所ち東根御支配所大町村上組ニ而字南川と唱ル場所へ一昨十五日ゟ私共無断芝居小屋興行いたしル躰ニ相見ル処右場所ち松橋村人家引続ル同様之場所ニ而人寄仕ル而ち百姓農業之障ニも相成勿論大勢之見物入込ル義ニ付何様之変事出来可申哉も難斗方一村内迫迷惑之筋も御座ル節ち御上へ御苦労奉掛上ル様相成ル而ハ恐入其段御役所へ御届可申上旨右村役人へ掛合ル処御役所へ御届之義ハ差替無ル様組頭共罷越相頼芝居打始誠ニ迷惑至極仕ル得共強而掛合ル得(マヽ)も大町村へ差障ル様ニ而気之毒ニ存猶豫仕罷在ル内御呼出御尋ニ相成一同奉恐入ル併芝居之義ハ全大町上組地内ニ而右組之もの共興行仕ル義ニ付私共村方ニおゐて芝居仕ル義ニち曾而無御座ル故御尋ニ付乍恐以書付奉申上ル以上

末七月十七日

松橋村
名主　四郎兵衛
藤兵衛

寒河江
御役所

明治五年
（一八七二）

一一

恥分総計　松橋村一

農　五十人
工　八人
雑業　五人
商　三人
惣計　六十六人

右之通相違無之候
明治五年壬申四月

右村
百姓代　板坂　弥平
組頭　布川万治郎
同　嶋田久五郎

恥分総計　松橋村二

農男　五十八人
大工男　一人
屋根葺男　二人
綿打男　一人
酒造　二人

商男　二人
畳指男　一人
湯屋渡世　一人
日雇取男　五人
女　二人

右寄

農　男五十八人
工　男　五人
商　男　四人
雑業　男六人　女二人
惣計　七十五人内　男七十三人　女二人

右之通相違無之候
明治五年壬申四月

第廿六区
松橋村
百姓代　山本　勘平
同　阿部　与吉
組頭　板垣佐五兵衛
同　宮地孫三郎
同　宇野仁左エ門
同　田代　佐七

第廿六区
御　會　舎

一二一

明治五年
（一八七二）

桑茶員数小前取調書上帳

村山郡
第二十六区
六区
松橋村上組

一桑三千百五拾本	堀米実
一茶種 壱石六斗	同人
一茶種 五升	堀米直蔵
一茶種	堀米利四郎
一桑 三拾七本	堀米利四郎
一桑 拾本	堀米・四郎次
一桑 六拾四本	堀米重四郎
一桑 五拾本	嶋田久五郎
一桑 六拾四本	宇野長太郎
一桑 四拾本	真田松蔵
一桑 六拾四本	宇野留蔵

一桑　於本　　佐藤与吉

右ヶ今般御達ニ付当年植立ハ桑茶書面之通ハ前取調奉書上ハ処相違無御座ハ以上

壬申五月

右村
百姓代　板坂弥平
組頭　布川万次郎
嶋田久五郎

山形縣天童
御出張所

一三、

雑税取調書上帳

当申ヨリ已迄十ヶ年季
廣屋免許税

一永弐百弐拾文

一永弐百弐拾文

一金五両

一金五両

一金壱両弐分

一金弐両

一金壱両壱分

一金三分

一金壱両壱分

一金三分

一金壱両

右之外当村ニ無御坐候以上

壬申六月

宮地治兵エ上納之分

右同断

質屋免許税

秋場文蔵上納之分

清酒免許税

宮地治兵エ上納之分

清酒免許税

宇野兵蔵上納之分

絞油免許料

宮地文七上納之分

同　免許税

同人　上納之分

醤油免許料

宮地治兵衛上納之分

同　免許税

同人　上納之分

同　免許料

秋場文蔵上納之分

同　免許税

同人　上納之分

馬売買免許税

斎藤勘兵エ上納之分

第二十六区

六番

松橋村下組

山形県
天童
御出張所

百姓代　山本勘平
組頭　宮地孫三郎
同　板坂佐五兵エ

明治五年
（一八七二）

一四、

年中産物取調書上帳

一米五百四拾式石式斗五升
内　米百七拾石七斗五升　貢米
　米三百七拾壱石五斗　作徳米
一大麦式拾壱石五斗
一大豆拾九石五斗

一小豆五石六斗五升
一栗壱斗五升
一蕎麦壱石五斗
一荏七斗五升
一菜種弐石五斗三升
一胡麻弐斗七升
一午房五百本
一にんしん三百本
一大根壱万弐千五百本
一菜三百七把束
一雞六把疋
一家鴨把壱疋
一梅壱斗五升
一栗三斗
一柿壱石五斗
一梨三石六斗五升
一桃壱斗五升
一胡桃弐斗五升
一葡萄三メ五百匁

一茶八百匁　但シ製
一紅花拾壱メ五百匁
一青苧九メ匁
一紙入百帖
一草履弐千九百拾五足

壬申四月十七日
（明治五年）

板坂弥平
布川万次郎
嶌田久五郎

山形縣
御役所

明治六年分産物書上

一米千三百八拾七石四斗五升　但現石
内　米四百三拾弐石八斗三升三合　貢米
　　米九百五拾四石六斗壱升六合　自用費消
一紅花　拾八メ五百匁
一青苧　三拾九メ匁
一酒　弐百四拾石
一醤油　百三拾石

一草履表　五千足

右ゟ当村壱ヶ年産物取調仕処書面之通相違無御座ハ　以上

明治七年二月

第四大区小七ノ区

松橋村

副戸長　嶋田久五郎

戸長　堀米要

山形縣権令関口隆吉殿

一五、

記

一蚕種掃卸　四枚

此税永弐百文

外ニ永四拾文　手数料

書面之税永正ニ預リ置申ハ伺済之上沙汰可致ハヤ

明治六年六月十四日

澤畑村

養蚕人惣代

守野仁左エ門殿

一六、

乍恐以書付奉願上候

一、生糸売買鑑札　弐枚

一同　同　壱枚

一同　同　壱枚

蚕種世話役　青木惣内

同断　今田弥五兵エ

第四大区小七ノ区

松橋村願人　秋場文蔵

同区同村　安藤孫子

同区同村　柴田惣平

右ヶ私共生糸売買渡世仕度――

明治六年六月

参事関口隆吉殿

一七

記

一本道医

但農間医業仕ル

一馬医

但右同断

メ

庚午十二月

（明治七年）

羽州村山郡

松橋村上組

卯右エ門

長助

明治八年（一八七五）

一八、差上申請書之事

今般地券御発行被仰出田畑宅地現反別並収穫米御取調之上当明治八年ヨリ地租御改正相成ル義ニ付御上納方左之通更ニ取究メル条順次村費之類タリトモ都而同一之取立方可致ル事

一、諸上納金日限ヲ以御達相成ル節区内各村集議之上取立日限ヲ相定メ納定日三ヶ日ヲ記載シ小札配賦ル条当日午前第十時ヶ午後第三時迄納通持参無相違相納可申事

一、取立方之義者其当日各村区扱所江参集シ取究ル時間順次受取可申事

一、上納金並納通ヲ以伍長又ハ親類ヲ以代兼仕ル義ハ可任情願ル事

一、上納方当日延滞相成候向ハ兼而之約ニ違ヒ甚等困之義ニ付未納ヽ取調縣廳江可申立事

一、日限ヲ定メ日延出願之分ハ相当之日数ニ有之ル ハヽ引当差出シ日延日限猶相滞ル節ハ弁納可致旨ヲ以テ證人相立証書可差出事

一、御定ノ日限皆済不相成相滞ル者ハ兼而被仰出之通利足相添取立可申其上ニモ不相済ル ハヽ身代限リ之御処分ニ上申可致ル事

右之通諸上納金納方并村費差出方共集議之上相定ル ニ付向後前書之通相心得聊モ無違背日限屹度可相納旨被申聞一同承知仕ル然ル上ハ御達日限之通無遅滞上納可仕ル依之一同連印ヲ以請書差上申処仍而如件

松橋村

明治八年十一月

第四大区小七区

松橋村

戸長　堀米　要殿

副戸長　宇野仁左衛門殿

同　宮地孫兵衛殿

板坂伊助

外略

一九

民賈取調書上

明治九年（一八七六）

松橋村

一反別百五拾三町三反九畝廿七歩

此地租金千四百六拾壱円四拾銭

民賈

一第四大区小五区白和田村大堰当区内用水路修繕入費　金四拾壱円九拾九銭七厘
同断堰守給並所〻堰代米料　金弐拾四円五拾三銭九厘
一区内取扱所諸入費　金拾五円入銭八厘
一火防入費　金七円五拾銭
一戸籍取調入費　金三円九拾五銭
一御布達活判料並郵便飛脚賃共〻　金弐円廿七銭四厘
御用ニ付戸長副御県廳出頭旅費　金拾弐円八拾五銭
一道路橋梁修繕入費　金廿七円五拾銭
一元上下両郷藏修覆入費　金五円六拾三銭
一郷村社祭典諸入費　金四円七拾五銭
一現反別取調諸入費　金六拾七円五拾三銭
一正副区戸長以下給料　金八拾八円拾九銭六厘
一地租金及村費取立入費　金五円三拾三銭五厘
一川々堤防費　金三拾四円廿弐銭八厘
一藤助新田山王堤普請費　金拾壱円九拾八銭壱厘
一村取扱所諸入費　金七円六拾七銭
一水害取調諸入費　金三円六拾八銭

合金三百六拾四円六拾九銭八厘

右者当村去明治八年一月分十二月迄之民費取調ハ処書面之通相違無御座ハ以上

明治九年三月

右村
戸長　堀　米　要

区御役所
御中

明治十年（一八七七）

一一〇、道路開鑿之儀ニ付延期願書

私共儀

道路開鑿費上納之義に付而ハ再応御厳達之趣奉承知ハ得共過般地租金及ヒ諸課出モノ上納以後近年稀成金員切迫右ハ私共義別ニ余業ナク只農而已其耕地収穫成品ハ追々下落而已ナラス只今ニテハ買入人等モ無之日々営方ニ差迫朝夕苦痛罷在然ル処今般本月廿日限リ無遅延皆納可致旨戸長並里保正懇篤之説諭ニ被及一体開鑿之儀ハ人民便利ノタメ御施行被成下ハ段難有拝存可成金配上納仕度奉存ハ得共前願必迫旦一昨明治八年ハ引続明治九年ハ悪河江川分水ヲ除ク之外旱損畑方ハ一円不熟御改正ノ際ニ至リ民費ハ相嵩ミ追々疲弊何ヲ以テ其労ヲ償却可

致物無之慨歎之余り就テハ一般之御成則ヲ不奉顧願上ル段誠ニ恐縮之至リと奉存ル得共是迄六分通り余上納ニも相成ル儀ニ御座ル向何卒御憐察残納之分地租皆済後迄御日延御猶豫被成下置度特別之以御詮議ヲ右願之通御聞置被成下ル様此段一同連印ヲ以奉願上ル也

明治十年一月廿七日　　第二大区七小区松橋村

細矢藤助
（外廿九名）

山形県参事薄井龍之殿

（書面願之趣ハ順序ヲ経ス、不都合ニル条差戻ル事）

二一

（収税帳に）

明治十年（一八七八）

人力車壱人乗

明治十一年十月四日

第二大区七小区
松橋村
黒坂次郎助

明治十五年（一八八二）

二二

上申書

陶器並屋根瓦製造営業致居ル処昨明治十四年八月中ヨリ恥丁病気ニ付休業罷在ル故製造品産出更ニ無之ル間此段御届申上ル也

西村山郡松橋村
堀米実
用係
宮地啓蔵

明治十五年六月七日

西村山郡長黒川春造殿

二三

地位評決

筒屋口　上田
南川　中田
ひっり江　中田
砂田　下田
要害北浦　下田
大谷地　下田
五本杉　中田
道木　中田
下タ野　下畑田
荒町東浦　中田
道海　下下畑
長表　上田
中田　下田
大豆田　下田
樋之口　下田
小谷地　下田
要害東浦　上田
月山堂　中田
荒町西浦　上田

田中
高せき西浦
石塚
大出目
勝木沢
吉佐川通り
改メ浦
窪ノ目
梵天
鶴田
稲り塚
たから
叺崎
そり町
かやの下
筒の口
十二堂
悪戸

中田　下田
上田　中田
下下田　下田
中田　下下田
上田　中田
下田　中田
上田　中田
中田　上田
中田　上田
中田　上田
下下田　中田
中田　上田
下下田　中田
下下田　上田
下下田　下田
下田　中田
中田　中田
中田　中田
下田　中田
中田　中田
中田　中田

新宿　下田
的場　中田
中ケベ　下田
嶋　下下田
番匠屋敷　中田
白山堂　中田
西石塚　中田
西里北浦　上田
中嶋北浦　中田
西所下タ　上田
天満北浦　中田
天満南浦　下田
丸森下タ　上田
根際下タ　上田
月山腰　中畑
松橋出口　中田
門先　中田
大曲道
荒宿　中田

宮腰　下畑
金売橋　下田　屋ふこ
念佛塚　中田　寺ノ前
内越　下下田　大佛
千数千苅　下下田　穴田
生佛　上田　沢畑前
栗木田　下田　さゝ
入生田？　下田　不動ノ目
土入　下下田　毛勝サカ
高嶋下タ　上畑　上田
か志らさ　上田　上田
桑から　下田　ミ大寺
水押　中田　馬場
窪田　上田　四ッ塚
沖　中田　吉田腰廻リ
礼堂　下田　中江、
滝ノ口　下田　吉田東
布田　下下田　三千苅
佛ケ森　下下田　口渡リ
下下田　柳原

上畑　吉田南　上田
下下畑　法師川通リ　下下田
下下田　花ノ木　下下田
下下畑　西小路　中田
上田　明府　下下畑
中田　梵天　中田
中田　吉田西浦　下下畑
上畑　新吉田下野　下下畑
上田　荒ごや　下下畑
中田　舞谷　中畑
下下田　海老鶴　下下畑
下下畑　吉野西浦　下下畑
下下田　岩木原野　下下田
下下畑　山口　下下畑
下下田　岩木西浦　中田
中田　若御子　上田
下下畑　藤助新田西浦　下下畑
下下田　観音前　下田
下下畑　五本松　下下田
下下田

第四部

安政五午歳

御仕置五人組帳并約定

十月廿二日再写

沢畑

差上申五人組帳之事

一、毎歳被仰出候五人組之儀宣鋪組交村中大小之百姓前地下人等迄明細に吟味い多レ怪敷もの差置不申様被仰渡奉畏候若隠置後日に相聞候得者当人者不及申名主五人組迄如何様之曲事に茂可被仰付候事

一、前々より被仰出候切支丹宗門之儀村中大小之百姓者不及申召仕男女門屋鋪備屋外出家社人行人山伏虚無僧鉦打機多乞食非人等に至迄穿鑿仕候得共右御法度之宗門無御座候若怪敷宗門有之候得者縦令親類縁者好身之もの多リといふとも見聞候得者無隠早速御註進可申上候若隠置脇より訴人於有者当人者不及申名主五人組迄如何様の曲事に茂可被仰付候事

附他所より越来もの亦者下人等に召抱候に茂宗門相改寺請状入念伐取置可申事

一、人を殺候歟亦者盗賊有之由何方よりも断有之もの村方にて搦捕差出可申候若其村中之力に不罷成候は、早速御註進可申上候事

一、惣て行衛不知浪人もの差置候儀者不及申、一夜之宿をも貸申間鋪候縦令親類縁者たりとも怪敷儀有之おゐては不隠置早速可申上候　併慥成ものにて親類縁者請人に立手形出おゐては得御下知を差置可申候事

附他所より引越候もの有之者其もの之出生江改いたし無揃候は、請人并宗門手形取其上得御下知差置可申事

一、何ものに不依人を殺候歟堂宮山村にかゝまり不審成もの有之者所之もの隣郷にも出合搦捕

置御註進可申上候若其場にて取逃候得者何方迄も跡を志多い落着所江断置可申候事

一、博奕者不及申惣て賭之諸勝負一切仕間鋪候事

一、人賣買仕候儀者弥令禁止召抱候男女或者歳季或者譜代に召抱候儀者相対次第に仕譜代下人にて茂他所江罷越身上有附候もの呼返申間鋪旨被仰渡奉畏候事

一、田畑永代賣并未納之儀者兼而御制禁に候屋地歳季之儀者拾ヶ歳を可限勿論名主組頭之加判證文を以取引可致候置主名主に而候得者相名主歟又者組頭年寄加判可致加判無之證文を以出入申出候方者御取上無之由被仰渡奉畏候事

一、百姓衣類之儀者布木綿麻之外堅差用申間鋪候惣而染模様不目立様にいるし紫紅染用申間鋪候事

附名主百姓共〻御用に而罷越候節者脇差帯候儀可為無用勿論乗物勒置馬に乗候儀停止候事

一、惣而者ヶ間鋪儀不仕婚禮祭礼佛事等に至迄不應分限結構仕間鋪候事

一、差当入用に茂無之山林を伐出し交易致候儀堅可為無用事

一、食事者勿論其外諸色潤澤に候共猥に遣ひ捨不申様酒菓子之類むざと多作出候はぬよふに可相心得事

一、当村賣買之諸色別而不足成旨申ものも無之所此上数多作出候而茂人々分限を越而物を遣い候得者事多り可申畢竟國之衰と成無益之事に而米穀并藥種之外者金銀衣服諸道具等に至迄新規の品者勿論有来候ものに而茂相増仕候儀猥に申付間鋪候事

一、有来候遊所見世物并賣買に而人多集候儀者其所之振を申立るといふとも猥に申付間鋪候事

一、無故して商物俄に高直に賣出過分之利德を貪候而之儀に候条遂吟味為致申向鋪候事
附商物壱ヶ所に詰込下直に可賣出杯といふとも是又取上申向鋪候事
一、國々所々より出候諸色運送不自由に候歟又者途中之計に而損失無之様心を附可申候事
一、耕作等隨分入念御年貢御割付通急度皆済可仕候其外納方之儀米永共御觸日限に少茂違背仕向鋪候事
一、御年貢引負欠落可仕躰に相見得候百姓有之ハは、五人組中詮儀仕名主江相談仕捕置可申候油断い多し欠落為致候て其もの之御年貢其五人組并納仕其上彼之もの尋出可申事
但無紛身上不罷成御年貢皆済成兼候百姓有之候て其五人組并惣百姓仲間に而取替被仰付日限之通皆済可仕候事
一、御公儀様御用之儀何方より申来候共遲滞仕向鋪候御廻状参候はゝ是又遲々仕向鋪候若御配府相滞日限時附相延候はゝ如何様之越度にも可被仰付事
一、道橋損往来差支不申様無断共常々繕拵可申候事
一、企悪心結徒黨誓約をい多し候儀御制禁に候間堅相家業ヲ一にい多し縦令郷中一同之相談に而茂不宜儀に候はゝ相加申向鋪支
附喧嘩口論公事を好常々人柄不宜もの有之候はゝ可申出事
一、御手代衆江何成共進物堅仕向鋪候事
一、御公儀を重御年貢收納之儀も出情其上親孝行に而万端実躰成もの有之は可申出候品に寄御褒賞可被下旨奉畏候事
一、盗人為用心村毎に番屋を作夜番可仕候

郷中之儀者不及申隣郷に而茂盗人見出音を立るにおゐて者早々出合捕候様常々百姓申合油断仕間鋪候事

附往還并道筋者格別其外在々所々に而行衛不知もの山伏行人虚無僧鉦打稼多乞食非人又者盗人之宿を仕候もの有之者早速申上常々吟味可仕奉畏候

一、喧嘩口論出来候はゝ所之もの出合差留呼明可申候若内々に而不相済儀者双方申分承之勿論手負之もの候得者相手共押置早速御註進可申上事

一、堤川除井堰道橋兼御普請被仰付候節者隨分精出正路に可相勤候若人足に出兼候百姓候得者可申上候事

一、御鷹場者不及申御鷹場之外に而茂役永出候もの之外無益之鳥殺生并川渕堅く仕間鋪旨被仰付奉畏候村中大小之百姓水呑下人寺社等に至迄此旨急度相守可申候若相背もの有之者早々可申上候如何様之御仕置に茂可被　仰付候事

附脇々より其所江罷越鳥殺生仕候もの有之者押置早速御註進可申上旨奉畏候

一、老馬病馬又者片輪馬に而用立不申候とて捨馬堅仕間鋪候百姓身上不罷成手前に差置候儀難相成候はゝ名主組頭吟味之上村中又者其五人組に而介抱仕置病馬は馬医に掛養生可仕候事

附何方よりも放馬参り候はゝ近所村々江引取介抱い多レ馬主詮儀い多レ得御下知證文取之可相渡事

一、堤并掛堀落堀又者道を狭め田畑仕出し耕作仕付申間鋪候事

一、如何様成小百姓に而茂名主組頭私として所を追出申間鋪候事

一、前々より有来候百姓を潰し田畑持添に仕候儀は不及申縦令死失にて跡式潰れ百姓に田畑候

共持添不仕得御下知可申上候事

一、本田畑之儀者不及申或者荒廃地或者田畑又者切添之田畑并畑成田等有之候ハ、壱ヶ所成ヒも無隠申上候而御年貢上納可仕候如何様之悪所成ヒも荒申向鋪事

附荒向并古荒向新田畑等におこし可仕処御座候ハ、得御下知向発可申候事

一、郷中火事出来候ハ、御蔵江着御蔵囲い可申候勿論御蔵無気遣火事に候ハ、火元参消可申候火消道具拵置可申事

一、御林竹木伐出候儀者不及申下草成ヒも一切苅取申向鋪候尤風折根返等有之節者早速御註進可申上事

附百姓四壁之竹木成ヒも猥に伐採申向鋪事

御手代衆依怙贔屓無之惣而御下知に至候迄非分成儀御座候て無隠可申上候事

附不断い儀は不及申御用有之郷中江御越被成い節は薪野菜之外何に而茂馳走ヶ向鋪儀仕向鋪候勿論振舞造作仕向鋪い事

一、不依何事御用人馬被仰觸い通急度相勤可申い勿論無高下人馬差出可申い尤郷中勤方印形取置可申上い事

一、御年貢御割附被下い節惣百姓并出作之もの迄立會拝見之上無高下改割賦其趣大小之百姓連判書付差出可申上い事

一、歳々村入用帳差出於御役所吟味を請無甲乙割合此外諸掛無之段大小之百姓帳面印形い多し可差出い事

一、御検見之節下田を中田ヒ申中田を上田ヒ申其上田地所を引替御目掛申向鋪い若偽申上後日

に相聞いは、名主組頭は不及申村中大小之百姓至迄如何様之曲事にも可被仰付い事

一、御年貢納帳并夫銭帳園目毎名主并百姓印形仕置可申い御年貢米金并夫銭等名主方江渡度々帳面に致勿論請取手形其時々名主方より百姓江可相渡い事

一、御年貢米納之節は御米は不及申升目無不同俵拵之入念可申い御米江戸御米納之節自然俵数不足か又は船中澤手鼠喰并腐米等御座いは、急度弁納可仕い事

一、御年貢米郷蔵江納い節御手代衆名主百姓立會封印仕置津出之節度々立會御蔵出し可仕い勿論御米何方江御渡被成い共請取手形取置勘定可致事

一、惣而夫銭諸掛名主立替い而茂利足を加へ割掛申於も有之由左い得ば百姓迷惑仕い向其時々割合罰明可申い事

一、百姓之子幼少に而親に別れ百姓仕い儀不罷成いは、親類并名主五人組相談之上證文い多し田地預置御年貢御役相勤其子成人仕いは、断次第預置物無相違相返百姓為致可申事

一、名寄帳毎歳仕直し可申い事

一、百姓方に而茂名寄之写仕置御年貢割明細可仕い事

一、御手代衆并百姓地主小作其外親類縁者にても御年貢取引は不及申少々之事にても無手形取引仕向鋪い證文無之事に時過出入等罷出いは、双方御穿鑿之上何分之曲事にも可被仰付い事

一、夫銭其外成ヒも不審成入用名主方より割掛いは、詮儀仕早速其時々可申上い事

一、御蔵番之儀其時々無油断急度相勤可申い事

一、郷蔵屋根念を入雨もり不申様にい多し壁垣木は下敷等迫入念を可申い事

但風雨之節は御藏参りいて破損い所も有之は、御手代衆江申上繕可申い事

一、人馬之儀御公儀様御傳馬御手代衆之外無益之人馬一切出申間鋪い事

一、酒造之儀兼而被　仰付御法度之通急度相守可申い事

附勿論新酒屋は不及申酒造米員数之儀

前書申上い通少成ヒも餘慶に造申間鋪い

一、毎歳鉄炮御改に付此度猶又御吟味被遊被仰渡い趣奉畏い若違背仕悪事仕い得ば当人は不及申名主五人組迚如何様之曲事にも可被仰付い事

一、在々於所々牛馬盗人有之不限晝夜不審成もの馬牽通りに付ては其落着所を相尋有躰に相見得いは、郷次に送り届落着所之名主五人組慥に断可申い事

附慥成無口入て牛馬売買一切仕間鋪い事

一、盗人贓物郷中之もの見出い歟又は他所之もの見出聞出其届有之は名主五人組早く詮儀仕可申い事

附諸道具其外何にても無筋之方預物一切仕間鋪事

一、勧進能芝居操相撲其外何にても見物類一切留置申間鋪い事

一、惣百姓仲間公事出来不仕様常々吟味い多レ物毎正路に　御公儀様御用大切に可仕い

万一他所之ものより出入之儀は不及申に同百姓仲間にても六ヶ敷儀出来仕いは、名主立會詮儀仕将明可申い内々にて不相済儀は名主取次を以可申出い若名主組頭相手にていは、直に無遠慮可申出い事

一、御公儀様江差上い證文之儀は不及申々之手形證文にても五人組帳江押い印形可仕い

右之印形自然紛失仕相調替ハは、其節名主五人組御断可申上ハ百姓は名主方江相断可申ハ
事
附何事にても印形仕ハには自分の印形　人に誂申向鋪ハ人之印形を備申向鋪ハ印形不持
ものは支度可仕ハ御用に付小百姓にても印形無失念持参可仕ハ事
一御公儀様江差上ハ手形證文之儀は勿論百姓仲間にて取引仕ハ手形證文ホは印形仕ハ儀文言
吟味之上可仕ハ左も無之ハて後日に出入に被成詮儀之節文言は不存ハ得共印形仕ハ杯と申
間鋪ハ事
一、川通堤之儀永雨降水出ハは、無油断郷中壱人も不残罷出堤切不申様禰之所江土俵をハ多し
置其村々は不及申隣郷村々迄致相談堤丈夫に致置可申事
一、川通村々自然破舟等有之ハは、早速出合荷物取揚破舟之様子船頭水主加判にて預置其段御
註進可申上ハ惣て流舟之道具見付ハは、揚置得御下知ハ事
一、惣て　御公儀様御法度相背悪事仕ハもの有之ハは、組中よりの申上ハ若隠置脇より相聞ハ
は、名主五人組如何様にも可被仰付ハ事
一、御取箇夫喰御種貸等其外願之筋強訴徒黨逃散之儀は堅御停止にハ處願筋にて御代官御陣屋
江百姓大勢相集強訴ハ儀も有之段被及御聞不届至極に付自今以後右躰徒黨ケ間鋪儀并強訴
申上ハは、御吟味之上重罪科に可被　仰付ハ条承知奉畏ハ事

右者此度被　仰付ハ五人組御仕置之儀大小之百姓地備店備前地水呑等に至迄致詮儀ハ所何
にても御法度相背ハもの無御座ハ若隠置ハ或ホは悪事仕ハもの有之ハは、名主百姓如何様

之曲事にも可被　仰付ハ此書物名主共江写置壱ヶ歳に両度宛讀為聞急度相守可申ハ　以上

村契約

献立

魚の子
大さん
けん菊

皿

汁

とう婦
魚の子
かつ

小皿

こふのもの
なんばん

かまぼこ
にんちん
とう婦

壷

飯

さけ
青菜
ゆづ

平

午房
山レヤラ
壱人に付
弐合宛

重引

酒

取肴

にしん
大こん
午房

大砂鉢

砂鉢　数の子
砂鉢　田作
重之内　たゝき午房
なんばんあい
砂鉢　青菜
からしあい
御茶　山本山
御菓子　黒大豆
砂糖入

膳後当渡

酒　壱人に付
弐合宛
肴　右五種
御茶　山本山

右相談之上定例献立取究申ハ　以上

儀定

一　例歳十月廿二日定日に付諸道具前日に持運可申尤運送共〻帳面江引合可申ハ事

一　諸道具之内紛失之分は備金等に不拘歳番之衆にて買調不足無之可致若又破損之分は堀米四郎兵衛相調可申ハ事

一　此度堀米四郎兵衛差出置ハ村契約備金弐拾五両外に去己十月より当午十月迄壱ヶ年利金

三両都合金弐拾八両有之右金之内諸入用引残金銭当渡之節諸帳面江相添可相渡い事

一　諸入用之儀金弐両高にて以上は不掛様取計可申い尤弐両にて餘り銭之分前同断相渡可申事

一　諸入用歳々別諸入用調帳江相記元利金取調過備金銭明白に歳番請渡可申事

一　右備金当時之処村中評儀之身元之衆江相預け可申尤月に金弐拾五両に付金壱分之利金相加可申い旦壱本證文にて會宿名并村中と認め預人一同連印證文差入可申い事

一　右備金四拾両位都合相成いは、御田地質流地引請当番衆にて手作い多し作徳米にて諸入用金備仕い様相成いは、村方永久為筋之儀に付一同心掛出精前段之通可致い事

村方にて一同評儀契約之儀有之いは、此帳面江相記諸事違乱無之様可致い事

右之通村中一同相談之上取究い以上は急度違変有間鋪い勿論以来取究之事許は追々此帳面江相記可申い　以上

安政五午歳十月廿二日

連名左之通

堀米四郎兵衛　直　藏　利　助　卯右衛門　四郎次　重五郎

仁　助　金三郎　兵　吉　文次郎　笛五郎　重　助　五兵衛

弥之吉

七兵衛　吉兵衛　卯　助　傳兵衛　権三郎　五兵衛　長太郎

長七　留吉　金吾　甚五郎　市太郎　新藏　伊惣次

冨次　右七　新藏　五吉　甲藏

三吉　仁左衛門　与吉　与藏　次兵衛　清之助　仁兵衛

仁助　六助　傳兵衛　藤吉　作兵衛　佐平次　万次郎

弥兵衛　作助　藤藏　四兵衛　兵次郎　新藏　甚四郎

徳次　甚作　三平　甚入

右之通にい向相互い不実無之様相励み睦合可申ハ　以上

被仰渡之趣左之通

以賽博奕は勿論都て賭之勝負事を好やからは其身之勝利を得悦負多る人之難儀は聊も頓着無之是海内輩友才一之不実して神佛心之道に背依て一旦は勝事も有之といへども銘々始終は打負候より執心深く差はまり終大切之御年貢上納物も相滞親類組合相談之上田畑家財等質入漸非道之調達を以先上納はい多すといふとも其甚鋪に至いては身分難立行罷成親兄弟妻子迄も打捨欠落等い多し潰及退轉いもの向々有之右は全愚昧貪欲之心を無宿悪徒共能察し田方取入農向之頃を見込博奕相勧いより右の次才に至りいは誠以歎ケ鋪事に有之依之右躰賭之勝負は前々より堅御制禁之旨歳々申觸置い事にい各村役人共制方相弛い或近来農に相成此節長脇差を帯い博徒共多人数入込村々博奕発興之趣相聞以之外不届之事共にい右は畢竟村役人共制方不行届故之儀に有之依て此度村之取締として不時出役差出無宿長脇差帯いもの共は勿論博徒共悉召捕い条得其意於村々にも右躰之もの共見掛いは、何方のものにい共差押当御役所江召連可罷出い若見逢置いもの於有之は後日聞といふ共急度可申付い向右之趣心得違無之様急度申渡此廻状村名主令せしめ請印早々順達留村より可相返もの也

申十月八日　御役所

右之趣御厳重被仰渡い上は急度相守可申い勿論前々より御制禁之趣御觸達之儀に付以来格別に取締村内之もの賭の諸勝負決して不仕村内江有宿無宿に不限風俗よろしからさるもの立入

いは、見当次ゞ申合早々逗拂可申い旦博奕等有之いは、隣家申合急度相制可申い若闌入不申節は其筋江訴出可申い隠置後日顕いは、何様之儀にても村内評儀次ゞ相成可申い事

一暮六ツ時より順番弐人組村内不残見廻り次組江相送り無滞明六ツ時迄見廻り可申事

一半夜におよび廻方滞いは、翌日相糺い上にて番割帳江留置滞い組其夜引通為廻可申事

一見廻中無灯ちんにて村内歩行いもの見咎言葉掛いても返答無之いは、直様打倒捕取村内評儀之上其筋可訴出事

一万一村内火盗之難出来い砌は村中打寄入札之上疑鋪もの有之いは、村内一統之連名にて其筋江御訴可申上事

一非道之儀有之節は駈付方遅速に従急度相糺可申勿論目立い程仂いもの江は村内身元のもの割合金壱分より手拭位迄夫々働方軽重評儀之上褒賞遣可申事

一村内にて山進退不致分は下草枝葉等に限取入可申立木之分は都て小苗木に至迄決て切取申間鋪左山持主にい共自分用之外多分切出賣拂い儀決て仕間鋪い右は山〻繁茂往〻村内為筋之儀に付急度相守可申事

一近歳諸色直段引上別而五穀之類高直に付夫喰不足之もの難儀仕い間銘々手厚心掛他より拔買立入い共猥に賣拂不申村内にて相互い賣買い多し御年貢上納之外翌歳作も取入迄夫喰不足不仕様貯置其余之分は格別にい得共銘々厚可心掛事

一近頃寄合又は出所不分明之廻状相廻い哉之風聞も有之以之外之儀徒黨寄合等之儀は御厳重御制禁之儀に付決て相加い申間鋪い仮令何様之儀他村又は隣村より申来い共よろしからざる儀には馴合不申村内心を合正路に農業相励み可申い若不時之災難又は病気等にて困窮差

迫いもの江は身元よろしきものより夫々実意を以世話いたし村内一同睦合相互い助精可仕
且出入立又は争論等出来いて村内に而実意に取扱早速為相済可成丈公邊之御手数に不相成
い様可仕い事

右前條之通村内評儀之上儀定取究い上は不可有違背い万一心得違之もの有之いは、隣家又は
其最寄にて異言差加へ夫にても不取用いは、村内申合其筋江可訴出い依之邑役人立會議定如
件

萬延元申歳十月廿二日

宿
堀米四郎兵衛○
直　蔵○
利　助○
卯右衛門○
四郎次○
重五郎○
仁　助○
金三郎○
兵吉○
大次郎○
留五郎○
重　助○
五兵衛○
本家四郎次代印

宿

七兵衛○
吉兵衛○
刈助○
傳兵衛○
五兵衛○
長太郎○
長七○
金吾○
本家七兵衛代印
留吉○
冨次○
新藏○
市太郎○
右七○
伊惣次○
甚五郎○
権三郎○

宿

四兵衛○　藤藏○　作助○　三平○　弥兵衛○　万次郎○　佐平次○　作兵衛○　藤吉○

仁兵衛○　仁助○　清之助○　次兵衛○　六助○　与藏○　与吉○　仁左衛門○

兵次郎○
新藏○
甚作○
甚四郎○
德次○

（この外追加として昭和十四年迄の加入者等の異動記入しあり）

明治三十九年契約小野席之助會席に於て改め

明治三十九年契約小野席之助會席に於て改め

一我帝國ハ去ル明治三十七年西洋露國ト國際上ヨリ無止戦爭ヲ開始シ今年ヨリ翌三十八年ニ渉リ式ケ年間國民全般ノ子弟出征ニ召集セラレ國一致開國以来未曾有ノ大奮闘為メニ多大ノ戦死負傷者ヲ生シタルモ海ニ陸ニ百戦百勝全世界ヲ驚カシ我強國タル武ヲ発揚シタルハ國民全般ノ歓喜ニ堪エサル処ナリ

乍併右ニ付國税ハ勿論種々ナル新税加徴セラレ且ツ軍人送迎等ニテ出費多端ノ処昨年ハ近来稀ナル凶作加フルニ我國モ事々物々開明進歩ニ連レ衛生上並火災予防農事奨励等ノ費用相嵩ミ為メニ村備金加殖い事ハ勿論年々不足ヲ来シい様ノ傾キニ立到リ此分ニテ推行セバ将来村内ハ如何ナル不幸ニ相成い半カ実ニ寒心ノ次第ニ付一同協議ノ上断然是迄ノ賄方全部相廃シ本年度ヨリ当分左ノ通リ相改メい事

賄方

一　そば　　壱人前壱枚ツヽ

但飯台ゑて

薬味　蕃椒　、大根おろレ　、きざみ葱

〃　　木皿使用

外　菜　漬

汁　　かつ節

茶　例年之通リ

（此向ニ山盗伐ニツイテノ規程条項アルモ略ス）

明治廿九年十二月

右之通確定一同違存無之ハ也

堀米四郎兵衛○
小野庫之助○
宇野三吉○
小野朋太郎○
堀米直蔵○
堀米利助○
宇野常蔵○
堀米久太郎○
堀米清八○
外　八十八名略ス

昭和五年契約会合ニテ協定

賄方改免之事

昭和五年十一月廿三日
小野寛方契約会席ニテ

一本年ハ世界的不景氣之影響と共ニ一般農産物殊ニ繭及米價之下落ニ因リ特ニ農村之不況を来レ徹底的緊縮を強調して生活之改善を絶叫するの要切なるものあり當契約は又例年之通リ會合費を支出せんか　契約の基金を消耗すべき景況にあるを憂慮せらる金谷庵ヨ當契約代表者並各組重立者之集會を求め當昭和五年度より賄方ヨ閑し左之通リ実行する事に協定し當番を一巡するに決議仕リ候也　　但伊勢講之方ハ従前ノ通リとす

賄　方

赤飯　一人前参合とし盛渡し之事
　但標白米壱俵買入とす
平　豆腐汁　盛渡之事
　菜漬、大根おろし
〃以上　菜ハ例年之通リ

参考　繭價　春蚕　参拾七円前後
　夏蚕　弐拾四円前後
　秋蚕　弐拾円前後
米價　金六円前後　但當十一月中

覚書

下澤畑中宿用水路新設ニ関スル件

昭和七年五月堀米四郎兵衛氏所有ニ同氏私設ノ灌漑堰ヨリ分岐シテ下澤畑中宿十五人用水路ヲ新設致シ候処今般灌漑者ト用水使用者トノ間ニ通水上ニ関シ左ノ通リ協定致シ候也

一、従来ノ田面灌漑ノ水利ヲ害セザルコト

一、渇水ノ際ハ相互協議ノ上通水スルコト

一、将来通水路ノ修繕費ハ用水使用者ニ於テ負擔スルモノトス

昭和七年十一月二十三日　　中宿用水路使用者氏名

齊藤三藏
堀米權入
堀米權次郎
齋藤吉兵衛
小野松治
小野清治郎
小野金吉
宇野仁左ェ門
宇野正太郎
阿部豊入

宇野富藏
小野善吉
宇野吉太郎
宇野作藏
宇野國弥

以上十五名

昭和八年献立改

堀米引組会席

蕎麦　秋味

なんばん大根おろし

葱　菜漬

汁　かつ節

茶